



# 海外移住資料館 開館20周年記念誌

2013~2022年のあゆみ





## 開館20周年記念誌 館長挨拶



JICA横浜 海外移住資料館長

中根 卓

海外移住資料館は開館から20年を迎え、この間69万人を超える方々に国内外から足を運んでいただきました。これも開館前の準備段階から多くの方に資料収集、学術研究、展示企画、施設管理などに携わっていただき、その後も支えられたお陰と心より御礼申し上げます。

このたび当館は創立20周年にあたり、『開館20周年記念誌』を刊行することとなりました。本誌は2013年から2022年までの当資料館の活動をまとめたものになります。

2020年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、約半年間の休館を余儀なくされましたが、その間、オンラインイベントを数多く実施するなど、新しい情報発信の形の模索もしてきました。その結果、これまで来館が叶わなかった方にも当館を知っていただくことになりました。さらに、新型コロナウイルスに伴う制約の緩和後は、生徒・学生、地方自治体等の皆様といった団体訪問も再開となり、その数は休館前に戻りつつあります。

2022年に行った常設展示室のリニューアルでは、「移住者を含む日系コミュニティの姿（過去と現在）を分かりやすく伝える」、「幅広い層に理解される展示を目指す」、「これからの多文化共生に向けたヒントを提示する」という3点を基本方針としました。具体的には、インタビュー映像や触れる展示の作成、写真資料のカラー化、展示室内の点字ブロックや点字解説文の新たな設置、音声ガイドの導入等になります。リニューアルを契機により多くの方々が資料館を訪れることとなり、日本人の海外移住の歴史や国内外の日系コミュニティの生成と変化を学んでいただくだけでなく、今後ますます進むであろう多文化共生社会のあり方を考えていく一つのきっかけとなることを願っております。

現在、全世界には380万人以上の海外移住者や日系人の方々がおり、日本国内には就労や勉学の目的で来日した日系人とその家族を合わせて約30万人の方々が生活していると言われています。また、社会はますます多様化し、人々の移動もより容易になっていくと思われま。これらの状況の変化に応えるべく、当資料館は開館当時から関係者の思いや経緯をこれからも大切にしつつ、ご来館くださる皆様の展示の捉え方の変化を踏まえ、未来を担う若い世代とともに資料館のあり方を考えていきたいと思ひます。

引き続き、皆様よりご指導、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

役職は2023年8月時点のものになります。



### 海外移住資料館 20 周年によせて



外務省領事局長  
安藤 俊英

独立行政法人国際協力機構横浜センター海外移住資料館が開館 20 周年を迎えられたことに心よりお祝い申し上げます。私自身、開館 20 周年に合わせ昨年 4 月にリニューアルオープンされた資料館を訪問しましたが、体験型展示や多言語化による内容の充実、またバリアフリー化によって、障がいのある方や、外国にルーツを持つ方等も含め、多くの方が日本人の海外移住について理解を深められる施設として、新たな一歩を踏みだされたことに、あらためてお慶びを申し上げます。

本年は、いわゆる「元年者」と言われる方々がハワイに移住してから 155 年、またブラジルへの契約移民第一号が笠戸丸でブラジルに渡ってから 115 年にあたります。移住者の世代交代が進み、ハワイにおいては日系八世も存在するといわれているなか、移住第一世代やその子、孫といった、比較的日本と馴染みのある世代から、現地に根付き多様化していく世代へと移っていく日系社会も多く、日系人・日系社会の姿は、大きく変わりつつあります。こうした過渡期において、戦前・戦後の日本人移住者の歴史を体系的に学ぶとともに、世代を重ねて変化していく日系社会の現在を知ることは、いずれも日本と日系社会が共に発展していくための重要な共通点となります。海外移住資料館は、この両輪ともいうべき歴史と現在が丁寧にわかりやすく展示されており、知識の伝播に大きな役割を果たされていく施設であると信じています。また、国内や海外の資料館や日系人会と連携し、資料のデジタル保存や移住者のデータベース化も進めていると聞き及んでおり、こうしたネットワークの中心としても、今後その存在感を増していくことに期待しております。

外務省としても、各種事業を通じて日系人とのさらなる連携強化を進めているところです。多方面において重要な役割を果たしておられる海外移住資料館のますますの御発展、また日本と日系社会のさらなる絆の強化を祈念いたしまして、御祝いの御挨拶に代えさせていただきます。



## 海外移住資料館 20 周年記念誌の刊行に寄せて



外務省外交史料館長

和田 潔

JICA 横浜 海外移住資料館が開館 20 周年を迎えられましたこと、またこれを記念して展示室をリニューアルオープンされましたこと、心よりお祝い申し上げます。

リニューアルした展示室は、大変見応えがあり、情報・内容も豊かで、日本人の海外移住の歴史を伝える施設として非常に素晴らしいものです。当館は、幕末以来の日本の外交史料を保管しておりますが、当館所蔵史料のレプリカも一部展示されており、嬉しく思いました。

海外移住資料館と外交史料館は、これまでも、展示史料のレプリカ作成や貸し出し等でのお付き合いがありましたが、大変光栄なことに、今回の展示室リニューアル後最初の企画展示を共催で開催するご提案をいただきました。そして、2023 年 7 月 2 日から 8 月 28 日までの期間、「外交史のなかの海外移住～それぞれのはじまり」という展示会を共催させていただきました。

同展示では、当館から、日本人の移住先の国々と日本が国交樹立した際の条約書原本や当時の外務省の記録文書を出展し、政府による外交交渉の後に移住が始まる過程を紹介しました。そして、海外移住資料館からは、1950 年代に再開された移民の契約書や JICA の前身機関である海外移住事業団の資料等が展示され、戦時中に一旦途絶えた海外移住が戦後に再開した過程や、移住者の募集、送り出しの様子が紹介されました。

両館が所蔵する資料を一つの会場で展示することによって、幕末開国期から戦後に至るまでの日本人の海外移住の歴史を、原本資料を通して紹介することができました。また、常設展示室に展示されている実際に移住した一人一人の方の資料と合わせて見ることで、移民送出の土台を作り、移住を促進した政府側の視点と、海外で活躍やご苦勞をされた個人個人の移住者の視点を合わせて知ることができ、来場された皆様に日本人の海外移住に関して、より多面的な視点を提供し、理解を深めていただけたのではないかと思います。

当館は外務省の公文書館として、日本政府が作成・取得した重要な歴史公文書を保存・公開する使命を担っています。海外移住資料館は、海外移住事業団の関連資料のほか、実際に移住された方々から寄贈された多くの貴重な資料を所蔵、公開されており、「歴史資料等保有施設」としての指定も受けておられます。

これからも、日本と外国との関係の記録を保存し、公開・紹介する機関として、両館がより一層充実した協力関係を築き、日本人の海外移住の歴史や意義、日系社会の様子などをさまざまな観点から多くの方に伝えていく役割を果たすことができると願っています。



## 海外移住資料館20周年によせて



横浜市長

山中 竹春

このたびは、JICA横浜 海外移住資料館の開館 20 周年、誠におめでとうございます。

海外移住資料館は、2002 年の開設以来、横浜・新港地区を拠点として、日本の海外移住の歴史や移住者の役割・貢献、また、移住者と日系人の現在の姿などについて、幅広く発信を続けていらっしやいます。

19 世紀から 20 世紀にかけて、多くの海外移住者が日本を出発した場所が、ここ横浜の港でした。また、現在横浜には 10 万人を超える外国人の方が生活し、多様性と包摂性に富んだまちづくりが進んでいます。歴史的なつながり、そして現代における多文化共生の観点からも、海外移住資料館が横浜に所在することは、大変大きな意義があると思います。

横浜市は、海外移住資料館とこれまでさまざまな事業を通じて連携させていただいています。たとえば、市内の小中学生が「国際理解教育」として同館を訪問し、移住者の大変なご苦難・ご苦勞、そして、その後現地で信頼される日本人「ジャポネス・ガランチード」として活躍された様子などについて学んでいます。また、横浜市を訪れた各国政府や大使館の皆様を同館にご案内し、日本・横浜が歩んできた歴史をご紹介します。今後も、さまざまな形で連携させていただければ幸いです。

海外移住資料館がこれまで 20 年にわたって横浜を拠点に活動いただいていることに、改めて感謝を申し上げます。また、開館から今日に至るまでの関係者の皆様のご努力に、心より敬意を表します。

今後も海外移住資料館が移住の歴史を後世に語り継いでいくとともに、末永く地域の皆様に愛されていくことを心より願っています。海外移住資料館と関係者の皆様のますますのご発展を祈りまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



## JICA 横浜 海外移住資料館開館 20 周年によせて



神戸市長

久元 喜造

JICA 横浜 海外移住資料館が開館 20 周年を迎えられましたことに、心よりお祝い申し上げます。また、2022 年 4 月には、さらに多くの方に楽しんでいただけるよう、展示手法を工夫され、ユニバーサルデザインに配慮して資料館をリニューアルオープンされるなど、開館以来、今日までの関係者のご尽力と熱意に、心より敬意を表します。

リニューアルした資料館では、当時の写真をカラー加工して情景をより生き生きと伝える展示、映像展示、そして触れることのできる体験型の展示などが導入されており、移住の歴史や、移住者の移住先での生活の様子、そしてどのように現地でコミュニティを形成してきたかなど、来館者により鮮明に伝わる展示内容となっており、今後長きにわたり、多くの方に移住者・日系人と日系社会の過去と現在を伝えていかれることと思います。

神戸市も、南米を中心に多くの移住者を送りだした海外移住の拠点でした。1928 年に開設された神戸移住センター（当時の名称：国立移民収容所）は、1971 年に閉鎖されるまで、神戸から出発した移住者にとって日本最後の日々を過ごした地でした。

本市では、海外移住の歴史と意義を後世に伝えるため、海外日系人団体や地元からの保存を求める声にお応えし、国内で唯一現存する建物として 2009 年に再整備して、「神戸市立海外移住と文化の交流センター」として開館しました。現在は、「移住ミュージアム」「地域に在住する外国人支援」「国際芸術交流」の 3 つの機能が共存する施設となっており、それぞれの団体が、海外移住の歴史を伝える展示、南米系日系人を中心とした在住外国人を支援する活動、海外アーティストとのコラボレーションや交流展など芸術を通じた国際交流活動を行っており、この 3 つの活動を通じて多文化共生を推進しております。

移住ミュージアムの展示・運営にあたっては、貴資料館から、展示資料をご提供いただくなど多大なご協力をいただいております。長年のご協力に、心より御礼を申し上げます。

横浜、神戸の両施設が、過去、現在、未来にわたる人々の交流の場、そして広く市民や来館者に開かれた施設として協力し、各々の活動を通じて、多文化共生、国際交流をさらに推進していくことができればと考えております。

今後も、貴資料館が移住の歴史を通して、多文化共生に資する共存・共栄、相互理解など、社会に多くの示唆を示され、社会的意義のある役割を果たされていくことを期待しております。



### 海外移住資料館開館20周年によせて



公益財団法人海外日系人協会理事長

**田中 克之**

海外移住資料館が今般開館 20 周年を迎えられたことに対し、心よりお祝い申し上げます。同資料館は、第 3 回から第 39 回までのすべての海外日系人大会の要望事項として採択された「移住の歴史を展示し得る施設を併せ持つ海外日系人センターを建設して欲しい」との海外日系社会の強い要望を受ける形で開設された経緯がありますだけに、誠に感慨深いものを覚えます。

開館 10 周年以降、20 周年までの期間の我が国と日系社会の関係を振り返ってみますと、2014 年 8 月にサンパウロで行われた安倍晋三元首相の中南米政策スピーチに始まり、2017 年には外務大臣の下、「中南米日系社会との連携に関する有識者懇談会」が開催され、2018 年にはいわゆる日系四世ビザ制度が開始されるなど、わが国と日系社会の関係の強化が図られた 10 年であったと思われまます。

そのような中で、海外移住資料館は一層重要な役割を担う存在になって参りました。2018 年の第 59 回海外日系人大会は、元年者（明治元年にハワイに向かった日本最初の集団移民）のハワイ到着 150 周年を記念してハワイで開催されましたが、同大会には北岡伸一 JICA 理事長（当時）にもご参加いただき、記念講演をしていただきました。講演の中で北岡理事長は各国へ移住された方々の労苦を労うとともに、JICA の今後の日系人施策を展望され、第一に海外移住資料館と各国日系社会の資料館とのネットワークを強化することの重要性を指摘されました。また同大会では、各地の日系レガシーを世界の日系人が共有し、さらなる発信強化を図る必要があるとして、「日系資料館同士の情報交換・連携を促進するため、日系資料館連絡協議会の設立を目指すこと」が合意され、翌 2019 年に東京で開催された第 60 回大会では同連絡協議会設立が参加日系資料館関係者の間で合意されました。他方、この度の海外移住資料館リニューアルでは「多文化共生」という視点をより鮮明に打ち出したコーナーが新設され、日本人移住の歴史や現在の日系社会の様子から、多文化共生について学ぶことができるようになりました。

このように重要な役割を担う海外移住資料館が、引き続き世界の日系資料館の中心的存在として各国の日系博物館との連携を強化され、日本国民に日本人移住の歴史、日系社会の存在及びその重要性を周知することで我が国と日系社会の絆を深める上でも、我が国のより良い多文化共生社会の実現に貢献する上でもその重要な役割を果たし続けられるものと確信しています。開館 20 周年、誠にありがとうございます。



## 海外移住資料館開館20周年記念



海外移住資料館 学術委員会委員長

**飯野 正子**

海外移住資料館開館20周年、おめでとうございます。多くの方々の期待に応えて本資料館が開設されてから今日までの目覚ましいご発展、心からお慶び申し上げます。そしてお力を注がれました関係者のみなさまのご努力に敬意を表します。

「われら新世界に参加す」をテーマに掲げ、「日本人海外移住の歴史を総括し、海外移住と日系社会に関する知識を広く紹介し理解を深める機関」として開館されてから今日まで、本資料館の展示や講演会などを含む種々の活動は、その目的を達成してこられました。つまり、日本の歴史の重要な部分としての「海外への移住」の中で日本の人々がいかに世界に貢献してきたかを、研究者はもちろん、若い人々に認識していただくことに大いに役立ってきたのです。教育の分野での効果はことに重要です。海外移住者を新天地で新たな文明形成に参画した「国際協力の先駆者」と捉え、国を跨ぐ人の移動を送出国と受入国両方で認識し、研究し、それを日本国内のみならず世界に発信する、そのハブとしての本資料館の役割は、二重の意味での国際性を持っているのですから。学術委員会も、学術研究プロジェクトの調査・研究のサポートや『研究紀要』の出版などを通じて、本資料館の目的を実現するための一翼を担ってまいりました。光栄に思っております。

本資料館開館からの20年で、海外に住む移住者も日本に住む「ニッケイ」の方々も、世代が変わり、それぞれが属する社会も大きく変化しました。多様性あるいは多文化共生の意識が一般にも広まり、また深まっています。そのような状況を踏まえて、本資料館の展示も、この機にリニューアルされました。展示内容のリニューアルのみならず、来館者が楽しみつつ学ぶことができるデジタル時代ならではの現代的な工夫がなされている点も新機軸です。

本資料館に来館した方々が展示などを通して新たな発見をする、あるいは、さらなる知識・情報を得て理解を深める、そして、次の世代にそれらを伝える、そのような循環が今後いっそう進みますように願っております。ますますのご発展をお祈りいたします。



## 目次

巻頭言 JICA横浜 海外移住資料館長 中根 卓	01
祝 辞	
外務省領事局長 安藤 俊英	02
外務省外交史料館長 和田 潔	03
横浜市長 山中 竹春	04
神戸市長 久元 喜造	05
公益財団法人海外日系人協会理事長 田中 克之	06
海外移住資料館 学術委員会委員長 飯野 正子	07

### 第1章 20周年記念リニューアル

リニューアル実施の背景・経緯	10
リニューアル基本方針	12
リニューアルの内容	13
コラム 2階 JICAプラザのリニューアルと日系アーティストの作品紹介	17
リニューアルガントチャート	18
座談会 海外移住資料館の常設展示 一部リニューアル業務を振り返って ～「日系」のこれからと海外移住資料館～	20
オープニングセレモニー	30
JICA理事長挨拶・JICA横浜 海外移住資料館ライブ中継	33
リニューアルを振り返って 原山 浩介	34
館長からのメッセージ	36

### 第2章 2013-2022のあゆみ

2013年度～2022年度	44
学術委員会について（概要と活動等）	64

### 第3章 あなたにとって海外移住資料館とは？

来館者の声	68
展示案内ボランティア・資料館受付の声	76

### 第4章 資料

各種実績 2013 - 2022	82
開館後寄贈資料一覧	83
学術研究プロジェクト実績	106
『研究紀要』論文タイトル一覧	109
JICA 海外移住懸賞論文	112
展示・イベント実績	114
巻末 20年のできごと	131





● 第1章

20周年記念リニューアル



# リニューアル実施の背景・経緯

開館からの20年間で世界各地の日本人移民、日系コミュニティ、そして日本で暮らす日系人を含む外国籍住民らを取り巻く環境は変化してきた。その間、各所からの寄贈・寄託や、新たに収集された資料は膨大な点数にのぼるもののそれを常設展示に反映することができず、また常設展示室の一部の機器類や情報展示システムの刷新も必要に迫られていた。

この20年間に起きた社会の遷り変わりを反映するとともに、世代を経て歩んできた日系人の足跡をよりわかりやすく、そしてより多くの人に伝えるために、開館以来初めての常設展示室のリニューアルを行うことになったが、その背景等は概ね以下のとおりである。

## 1. 背景・経緯

### 1. 政府の外交政策の一環としての日系社会との連携強化

安倍総理（当時）は、その外交政策の中で積極的に友好国との関係強化に取り組み、中南米地域においては、各国の日系社会との連携を重視した。2014年にはサンパウロにおいて「日系人が現地で築いた信頼に賛辞を呈するとともに、日系人が誇りを持てる日本をつくり、日本と日系社会、特に若いリーダー達との絆を強化する」と述べた。2016年11月、アルゼンチンを訪問した際には「架け橋となってきている日系社会のおかげで日本と中南米が juntos=together（一緒）でいられる」とも述べ、これら安倍総理の方針を受けて、2017年に行われた「中南米日系社会との連携に関する有識者懇談会」で今後の日系社会との連携に関する施策がまとめられ外務大臣に報告された。同有識者懇談会のメンバーに

JICA北岡理事長（当時）も参加した。

このような政策方針を踏まえ、JICAでは、2019年度経営戦略に、日系社会連携の強化の具体的事項として「海外移住資料館の運営体制強化」が明記され、2020年度及び2021年度経営戦略では、多文化共生・地域経済活性化の項目に「多文化共生に資する日系社会との協働、及び海外移住関連資料の収集等を含むネットワークの促進」が記載された。

### 2. 日系人の日本への環流、日本に居住する外国人の増加への対応

1990年、出入国管理及び難民認定法の改正により在留資格が拡充され「定住者」という就労活動に制限のない在留資格が創設される中で、一部の例外を除く日系二世・三世にも当該在留資格が付与された。これを受け、中南米諸国（主にブラジル、ペルー等）からの日系人及びその配偶者等の入国が容易になり、来日数が急増した。その後定住する者も増えた。

上記の出入国管理及び難民認定法の改正に続いて、政府は留学、技能実習生や高度技術者などの受入れのための法制度を整備してきており、今や外国から日本にやってきて、働いたり勉強をしたりしている人たちは日系人に限らず多くいる。

これらの外国人受入れに関連する施策にともない、日本在住の外国人（日系人を含む）の数は大きく増加しつつあり、地域社会や教育現場をはじめ、各所で多文化共生社会に向けての取り組みのニーズは高まってきた。

JICAにおいても、外国人材受入れ支援や、共生社会の実現といった新たな課題にも協力の領域を広げ、経営戦略においても「責任ある外国人材の受入れ支援（日系人含む）の更なる促進」をうたっている。当資料館とし





移動のために一時梱包されたリニューアル前のコショウの木



リニューアルを機にカラー化された背景とともに色鮮やかに生まれ変わったコショウ栽培コーナー

ても、1990年の出入国管理及び難民認定法改正が契機となった日系人の本邦への環流の動きを含めて、来日外国人の動向について伝えることが必要と考えられた。

また、教育関係者や学校生徒の来館も多い施設として、日本人の海外移住の歴史や日系コミュニティの変遷を伝える展示は、まさに異文化の中で移住者・日系人がどのような課題に直面し、それを乗り越え共生してきたのかという多文化共生のあり方を考えさせるヒントに富むものである。

### 3. すべての人に楽しんでいただける資料館へ

当資料館は、2014年に歴史資料等保有施設と認定され、資料等を広く一般の利用に供することを求められている。また学生から高齢者まで幅広い層から来館していただけるようになり、日系人を含む外国とのつながりを有する人の来館も多くなってきた。さらに、公共施設でのユニバーサルデザインの導入が進展する時代であり、「誰もとりのこさない」というSDGsの理念を体現する常設展示室の構築が期待された。

経年劣化による常設展示室の設備の不具合を解消する必要とともに、老若男女、国籍、障害の有無に関係なく、すべての人びとが楽しく学べる公共施設としての工

夫が期待され、具体的には、音声ガイド、触れる展示、手話映像、点字解説パネル、点字誘導ブロック、子ども用キャプションやガイド、車いす対応、解説の多言語化の充実などが考えられた。

## 2. リニューアル実施までの主な出来事と経過

### 1. 関連事項

- 第59回海外日系人大会（2018年）  
海外移住資料館を含む資料館連携（ネットワーク）や邦字新聞の収集の重要性
- 2019年度JICA経営戦略  
「海外移住資料館の運営体制強化」
- リニューアル基礎案検討（2020年9月～11月）
- リニューアル基本構想策定（2020年11月）
- 学術委員会（2020年12月）  
「リニューアル基本構想の説明」
- 業者調達（2020年12月～2021年3月）
- 設計施工（2021年3月～2022年3月）



# リニューアル基本方針

海外移住資料館の基本理念「われら新世界に参加す」は保持し、以下の3つの基本方針に基づき常設展示室の一部リニューアルを行った。

## 基本方針

### 1. 日系コミュニティの姿（過去と現在）を分かりやすく伝える

当館が収蔵している貴重な資料を今回新たに追加した。また、日本人の海外移住の歴史における重要なトピック（戦時中の強制収容や勝ち負け抗争\*等）に関する展示内容を充実させ、さらに今日の日系人や日系社会、日本と海外の絆を紹介するコーナーを新設し、日本人移住者やその子孫に関する歴史や今日の姿をより分かりやすく伝える展示とした。

\*勝ち負け抗争：大戦後のブラジルで、日本の敗戦を受入れる（負け組）、あくまで戦勝を疑わない（勝ち組）で日系社会が分断し、暗殺事件にまで発展

### 2. これからの多文化共生に向けたヒントを提示

移住先で互いの文化を尊重し共存・共栄を目指した先達に関する展示から、多文化共生社会の実現を目指す上でのヒントを読み解くことができる。また、日系人口が比較的多い、群馬県大泉町、静岡県浜松市、横浜市鶴見区の展示、国内外で活躍する日系人へのインタビュー映像等から、私たちが多様な背景を持つ人びととともに生活していることを感じながら、これからの社会をどう形成していくかについて考えるきっかけになることを目指した。

### 3. 幅広い層に理解される展示を目指す

今回、ユニバーサルデザインの強化も図った。3D写真や三面映像シアター等の体験型展示の充実や、点字ブロック（館内・外）の設置、触察案内図・点字台・触れる展示の設置のほか、音声ガイドも導入した。また、子ども用の解説やSDGsシールの追加、ノートの記入や調べものができる体験学習コーナー（8名程度の利用を想定）を新設し、校外学習等で活用できるようにした。

上記の基本方針に基づき、2021年4月から基本設計、8月に実施設計の検討を開始し、2021年12月から施工を開始した。





# リニューアルの内容

ここでは、リニューアルの3つの基本方針ごとに、リニューアルで実際に行った具体的な内容についてまとめている。

## 基本方針1

日系コミュニティの姿（過去と現在）を  
分かりやすく伝える

2002年の開館以降、移民研究は進み、日系人・日系社会も変化したため、展示解説に追記すべき事項もいくつか出てきたことを受け、展示解説と展示品の見直しを行った。展示解説の見直しでは、来館者が常設展示室の展示を見ただけで、日本人の移住の歴史や現在の日系社会の様子等をより理解できるものを目指した。展示品の見直しでは、開館以降、貴重な資料を含む多くの資料を寄贈いただいたため、展示品の差し替え・追加をした。

### 1. 背景写真の全カラー化



日本人が移住した当時の様子をより理解できるよう、常設展示室内のすべての背景写真をカラー化した。写真のカラー化は、2002年の開館当時にはなかった技術であるため、20周年リニューアルならではの取り組みだと言える。カラー化により、遠い昔の記録を身近に感じることとなり、新たな気づきをもたらす展示資料になった。

### 2. 海外渡航の道のり

日本人の移住の歴史を知らずに来館される方へ向け、「なぜ約150年以上も前から多くの日本人が海外移住を決意したのか」について説明するパネルを新たに設けた。パネルでは、移住の動機の中から3つ（労働契約、家族や知り合いとの関わり、さまざまな移住計画）を取

り上げて紹介している。



### 3. 第二次世界大戦下の日系人の生活・強制収容に対する補償（歴史Ⅳ期）



第二次世界大戦下の日系人の生活・強制収容等について、より具体的な出来事を通じて、日系人を取り巻く環境の悪化を伝えるべく、アメリカ合衆国で起きた、日本人移民や日系二世の強制収容、忠誠登録や日系人部隊の編制と活躍等を中心に展示を再構成した。展示解説文はアメリカ合衆国の日本人移民史に詳しい専門家に執筆を依頼し、当時の様子が分かる写真資料も多く使用した。また、中南米各国における戦中体験についてのパネルも追加した。

### 4. 展示品差し替え

（歴史Ⅱ期、歴史Ⅴ期、「なぜ海外へ行ったのか」）



開館以降に多くの資料を寄贈していただいたことを受け、展示品の差し替えを行った。歴史Ⅱ期「海外出稼ぎのはじまり」では、展示ケース内資料を、ハワイ官約移



民の大槻幸之助の資料へ差し替えた。大槻幸之助の資料は、当館でのみ保管している貴重な資料群である。歴史Ⅴ期「戦後移住のはじまり」では、展示ケース内の資料を、「ドミニカ共和国の募集要項」等の資料に差し替えた。

## 5. 花嫁たちの海外移住



女性の海外移住に関する展示をさらに充実させるため、本資料館で過去に実施した企画展「海を渡った花嫁たち」の情報をもとに、「写真花嫁」と「戦争花嫁」の展示を新たに追加した。

## 6. 敗戦後の日本に海外から送られた救援物資「ララ物資」



日本と日系社会が相互扶助の関係にあることがわかる展示を充実させるため、敗戦後の日本に海外から横浜の大さん橋に届き、全国各地に送り届けられた救援物資「ララ物資」に関する展示を、新設した展示スペースに追加した。また、現在も続く日本と海外日系社会との絆については、体験学習コーナーでも紹介している。

## 7. 横三面映像「移住地の開拓」



移住者がいかにして原生林を開拓し、農地や町づくりに取り組み、そして現在の整備された移住地が作られてきたのかを理解できるよう、パラグアイのイグアス移住地を題材に約6分間の映像を制作した。実際に山焼きに従事した方の体験談、現地の日本人会や住民の方等から提供された画像資料を用い、移住地づくりの様子を映像で再現した。また、児童・生徒が楽しみながら鑑賞できるよう、アニメーションと当時の写真を織り交ぜた映像にした。BGMにはパラグアイの民族楽器アルパによる演奏曲を用いた。

## 8. 移民の七つ道具



海外移住をした当時の日本人が持参した荷物を展示しており、車いすで来館された方にも見やすいよう、展示台を従来よりも低くし、荷物のレイアウトの一部見直しも行った。

## 9. 萬屋



アメリカ合衆国オレゴン州の安井兄弟の萬屋（雑貨店）を再現しており、安井兄弟の子孫から新たに写真をご提供いただき、より店内の様子が見える写真に変更した。ケース内の展示品については、横浜港から海外の移民へ向けて輸出された缶詰のレプリカを新たに作成し追加した。



## 基本方針 2

### これからの多文化共生に向けた ヒントを提示

日本人は、150年以上前から海外へ渡り、言語や習慣の異なる人びとと生活してきた。故 梅棹忠夫博士は、移住者を新たな文明創造の担い手と捉え「われら新世界に参加す」と表現した。移住先で互いの文化を尊重し、共存・共栄を目指した先達の姿や、時には差別や偏見に見舞われることもあったという事実など、彼らの生活や歴史から得られる教訓は、現在の日本国内における多文化共生の実現へ向けたヒントになると考えられる。リニューアルでは、展示後半の内容を大幅に変更し、これからの多文化共生に向けたヒントを提示している。

### 1. 日系人・日系社会の変遷をたどる



日系人・日系社会がどのような変遷をたどり、どのように変化しているのかについて、資料が豊富なブラジルを例に解説している。ブラジルにおける日系人・日系社会の変遷過程は、国や地域によって背景や時期は異なるものの、他のアメリカ大陸各国と共通する点も少なくない。

### 2. 日系人・日系社会の現在



国内外の日系人・日系社会の拡大や変化が進行する中で、それに関する展示が限定的になっていたため、国外にある日系資料館・博物館の紹介や、移民や移住者だけ

に限らず、国内外の日系二世・三世の活動等の展示を新たに追加した。最初の集団移住から約150年が経過し、移住者の子孫たちの生活やアイデンティティがどのように移り変わっていったのか、また1990年頃から日本国内に戻り定住する日系人が増え、各地で日系人の集住地域が形成されていること、また各分野で活躍する人材が輩出されていること等を理解できる展示になっている。

### 3. 各種インタビュー映像



リニューアルでは、複数のインタビュー映像を追加した。日本国外で暮らす日本人移住者とその子孫、日系博物館館長や日本国内で活躍する日系人の方々にインタビューを行い、展示室内で視聴できるようにした。海外移住や日系コミュニティの当事者の声と映像をこれほど豊富に所有し、常時視聴することができる施設は国内では当資料館のみであろう。

## 基本方針 3

### 幅広い層に理解される展示を目指す

幅広い層に理解される展示を目指し、「誰もが楽しめる展示」として、3D写真や横三面映像「移住地の開拓」等の体験型展示の充実化や、点字ブロック（館内・外）の設置、触察案内図・点字台・触れる展示の設置、音声ガイドの導入を行う等、ユニバーサルデザインを積極的に導入した。また、子ども向けの補足解説やSDGsシールの追加、メモの記入やグループワーク等ができる机・椅子を設置した体験学習コーナーの新設等、校外学習や修学旅行で来館する生徒がより効果的に学べる工夫を図った。







## Column

## 2階JICAプラザのリニューアルと 日系アーティストの作品紹介

2021年に、JICA横浜は展示や施設空間をリニューアルし、国際協力をテーマにしたアートワークを取り入れるコンセプトのもとで生まれ変わりました。海外移住資料館のある2階では、日系に関連するアート作品を展示しています。

2階エントランスのガラス面には日系ブラジル人二世のアーティスト、大岩オスカル氏の作品を展示しています。大岩氏の作品は、「トラベリング・アラウンド・ザ・ワールド（ニューカントリー）」と名付けられ、新たな世界へと乗り出していった日本人移住者の方々への賛辞と敬意が込められています。本作品は、JICA横浜のために発案された、ここでしか見ることができない作品であり、1階エントランス、2階エントランス、2階柱部分に描かれています。

エントランスから中に入ってすぐの場所では、JICA 日系社会支援事業について紹介しています。JICAは、主に中南米への移住者に対して、移住先国での定着と生活の安定を図るため支援を行ってきました。現在は、日系社会の世代交代による課題に対応するため、高齢者福祉や人材育成を中心とした支援、及び近年では多文化共生に関する取り組みを実施しています。ここでは、それらの情報をパネルにまとめて展示しています。

奥に進むと、日本人移住者が移住した土地に生息していたカピバラやナマケモノなどの動物たちが出迎えてくれます。ここでは、動物たちを「メッセンジャー」と見立てて、来館された方々が、彼らを通じて移住者の方々からのメッセージを受け取るとともに、自分もまた彼らを通じて次の世代、未来へ向けたメッセージを書き残していけるコミュニケーションをテーマとした藤浩志氏の参加型の作品になっています。

正面の壁面に描かれているのは、横浜を拠点に活動されているイクタケマコト氏のぬりえ作品です。北中南米等の日系移住者の方々が生活する街の風景、暮らしの様子、現地の文化などが画面いっぱいに描かれており、移住地での幾世代にもわたる日系人の勇気や努力、歴史を伝えています。

2階は、小さなお子さんも安全に遊ぶことができる空間になっており、平日休日共に、多くの親子連れの方などにご利用いただいています。



Photo: Ken Kato

参考：JICA横浜『施設・展示のご案内』冊子

JICA横浜HP（2階ギャラリー「JICAプラザよこはま」）<https://www.jica.go.jp/Resource/yokohama/office/plaza/gallery.html>



## 2021 renewal Gantt chart リニューアルガントチャート



### ● 各種打ち合わせ・会議

2021年4月から2022年3月にかけて、各種打ち合わせを実施。

- ①リニューアル業者との会議
  - ②海外移住資料館 学術委員会
  - ③海外移住資料館 担当者会議 等
- 打ち合わせは月に1回程度から週に1回以上行うこともあった。



### ● 映像作成



リニューアル業務では、新規映像制作と既存映像の再編集を行った。新規映像制作では、国内外の日系人を対象としたインタビュー撮影のほか、移住地の開拓から今に至るまでの流れをまとめた横三面映像の作成等を行った。





### ● 原稿作成及び翻訳（英・西・葡）

リニューアルアドバイザー、JICA緒方貞子研究所研究員、海外移住資料館学術委員、海外移住資料館担当者、海外日系人協会、青年海外協力協会等、海外移住資料館関係者の総力をあげて原稿を作成し、日本語原稿完成後は、一部原稿の英語・スペイン語・ポルトガル語翻訳も実施した。



### ● 展示品移動



常設展示室内の工事へ向けて、常設展示室内のすべての資料を梱包し移動した。



# 海外移住資料館の常設展示 一部リニューアル業務を振り返って

## ～「日系」のこれからと海外移住資料館～

海外移住資料館の常設展示一部リニューアル（以下、リニューアル）は、多くの方のご協力をいただき実現いたしました。今回は、リニューアル業務の最前線にいた3名のリニューアルアドバイザーの先生のうち2名、海外日系人協会から2名、そしてJICA横浜 海外移住資料館業務担当者5名、JICA緒方研究所から2名が座談会という形で集い、リニューアルを終えて改めて考えたこと、感じたことについて、語り合いました。

座談会のテーマを「海外移住資料館の常設展示一部リニューアル業務を振り返って～日系のこれからと海外移住資料館～」とし、「日系人／日系社会／多文化共生のあり方」について、資料館のあり方／役割について考えるための手がかりとなるよう、以下3つの内容について意見を交わしました。

- ① 多様化する日系人/社会、（それを取り巻く）変遷する世界や日本社会
- ② 日系人・日系社会を紹介することの意義
- ③ 難しい話題でありながら「わかりやすい」展示

### 座談会スピーカー ※敬称略、リニューアル当時の所属

- リニューアルアドバイザー 武蔵大学 教授 アンジェロ・イシ
- リニューアルアドバイザー 日本大学 教授 原山浩介
- 海外日系人協会 水上貴雄、小嶋茂
- 緒方貞子平和開発研究所（JICA緒方研究所） ガラシーノ・ファクンド、長村裕佳子
- JICA横浜 中根卓、上石博人、森田千春、村上啓子、水野晴佳

**中根：**皆さん、こんにちは。館長の中根です。本日、久しぶりに皆さんと直接話をする機会を得て、このメンバーを中心に、資料館のリニューアルをしっかりとやってきたことを思い出しています。

すでに資料館を離れ、別の部署に異動した職員もいれば、リニューアルの時から関わっていただいている先生、そして新たに学術委員になられ、引き続き資料館に深く関わっていただいている先生もいらっしゃいますね。

今回の座談会の模様は、20周年誌に掲載いたします。この座談会の記事を通じて、より多くの方にリニューアルした資料館に興味を持っていただけるようになればと思います。どうぞよろしく願いいたします。

**森田：**では、私から資料館リニューアルの経緯、背景について主に3点お話ししたいと思います。

1つ目は、日本政府の外交方針です。近年、日本





の外交方針として、日系社会との連携強化が非常に強く打ち出されました。2014年に安倍首相（当時）が中南米を訪問して日系社会との連携強化について宣言し、JICAは2017年からの組織の目標、上位計画において、日系社会連携強化を強く打ち出しました。これまで移住関連事業はJICAの前身組織が行った大事な事業である一方、行政改革では予算や人員の削減対象となるものでした。それが、力を入れていこうという形に変わったというのは、非常に大きな節目だったと思います。そして、目標として掲げた「日系社会連携」の一つに、「海外移住資料館の強化」が位置づけられ、さらにその中に、資料館リニューアルも入っていました。

2つ目は、資料館開館以降20年の中で日本国内が大きく変化したことです。多文化という環境がより一層進んできたことですね。1990年の入管法改正で、中南米をルーツとする日系人の方の居住が始まり、それが定住という形になってきました。外国か

ら日本に働きにくる方、留学に来られる方、いろいろな外国の方が増えて多文化共生の時代にあるという現状を、資料館の展示をアップデートして伝えていこうという背景がありました。

3つ目は、いろいろな人に伝えられる、伝えていける展示にしようというものです。2つ目で申し上げた、日本国内の多様性という観点からも、老若男女、障害の有無、国籍を問わず、資料館が伝えたいメッセージが伝わるように、テクノロジーも上手に使いながら、展示を工夫していこうという考えがありました。

## 多様化する日系社会

**上石**：ありがとうございます。まずは、「多様化する日系人/社会、（それを取り巻く）変遷する世界や日本社会」をテーマに、皆さんから、いろいろとお





話を伺いたいと思います。

世界や日本では、いろんな文化的背景を持つ者同士と一緒に暮らしていく方向へ、どんどん動いていっていると感じられます。こうした中で、資料館の20周年リニューアルを行いました。

日系人の方々や日系社会の変遷、そして彼らとともに一緒に生きていく世界、特に日本社会の変化について、どういう思いで見られているのか、また今回の資料館リニューアルの中で、そうした変化がどういう形で出てきているか伺いたいと思います。

では、水上さんからお願いします。

**水上：**海外日系人協会の水上です。私たち海外日系人協会が、今回のリニューアルで担当させていただいた業務のひとつに、海外の日系博物館の館長さんのインタビュー撮影がありました。インタビューの中では、まず、それぞれの館がどういう思いで設立されたのか、現在誰にどういったことを伝えたいのかというミッション、そして、未来に向けてどういう館にしていきたいのかというビジョンの3つを浮

き上がらせるような質問をしようと考え、現地をお願いしてインタビューをしました。

でき上がったインタビュー映像を拝見させていただいて感じたのは、それぞれの館長さん、皆さん表現の仕方は違うのですが、大体同じようなことを仰っている気がしました。ひとつは、「誰に何を」という点では、日系コミュニティのメンバーである日系人の皆さんに伝えたいというのはもちろんなのですが、日本につながりのない人たちにも、その国の歴史として、日本人の移住や日系社会の歴史を伝えたいというのが大きなメッセージとしてあったと感じています。もうひとつは、若い世代、次の世代に、何とかして日系社会の歴史を残したいという思い、の2点が感じられました。

私自身、約25年前にJICAのボランティアとしてブラジルの日系社会で活動していたのですが、私がブラジルにいた頃は、日本にルーツがない人たちをどちらかと言うとコミュニティのメンバーとして見ないような感じがあったのですが、今はそうではなく、日系人の皆さんが大切にしてきた価値観に共感



して、コミュニティのメンバーとして日系団体の活動に参加している方々も含めてコミュニティのメンバーだ、とよく仰っています。

日本につながるの無い人たちが集まってくれる一方、血のつながりのある、ルーツのある若い世代がコミュニティから離れていってしまっているという側面もあるのかなと感じています。そこが3つ目の、未来に向けて若い世代にどうやって伝えていくか、というところに表れているのではないかなと、館長インタビューを見て感じたところです。

**上石**：今回撮影された海外の日系博物館は、ブラジル以外はどこでしたか。

**水上**：今回、撮影をお願いしたのは、アメリカ、カナダ、ブラジル、ペルーの4カ国です。

**上石**：若い世代にどうやって伝えていくかが難しい、とありましたが、来館してもらうために海外の資料館の方々が独自に取り組んでいることがありますか。

**ガラシーノ**：去年（2022年）の8月末にブラジルの移民史料館を訪問したところ、特撮ヒーローのレプリカや戦隊ヒーローの仮面、ブラジルの漫画やアニメの歴史、日本の特撮ヒーローの展示をしており、いろんな人が集まって見ていました。まさに来館してもらうための仕掛けのひとつではないかと思いました。

日本語学校は、かつて日系子弟のためのものだったのが、今は日本にルーツがない人も勉強しています。私は2002年に日本語を勉強し始めましたが、一緒に勉強していた日本にルーツのない友達が、今は日本語学校で日本語を教えています。そういった状況には、日本文化のグローバル化があって、少なくともブラジルの史料館にはそういう仕掛けがあったと思います。

**小嶋**：ブラジル漫画家協会の会長のフランシスコ佐藤さんによると、ブラジルで漫画が広まった大きな理由のひとつは、日系人が漫画をブラジルで広めていったということです。日本から漫画本を取り寄せて読み、コミックとは違う漫画というジャンルを日系人が描くようになって、ブラジル人の若者の間で広がって、広く受け入れられるようになったという背景があり、そういうことも日本発の漫画に関心があるだけではなくて、ブラジル国内で日系人が描いている漫画に関心を持つ人たちが一定数いるということの大事なポイントだと思います。

## 「言葉」が示す社会の変遷

**上石**：長村さんには今回、女性に関わる展示等をお願いしましたが、過去の資料を掘り起こしていくのがポイントだったと思います。その中で、日本の社会が変わってきたからその気付きがあったと思います。具体的にどういうことを担当され、それを通じて得た気付きなどについてお聞かせください。

**長村**：私からは、展示を具体的に作成した立場として発言させていただきます。

リニューアルでは、現在、世の中のさまざまな価値観が急速に見直されつつある中で、使用する言葉に注意を払って、展示の解説文をつくってきました。

まず、花嫁移民として女性移民を取り上げて、新しく展示を追加しましたが、これまで男性中心な描かれ方をされてきた移民史の中で、女性移民を取り上げて、展示することは大きな意味がある一方で、女性移民、特に花嫁移民に関しては、過去にはステレオタイプな偏見もありましたので、いかに分かりやすく、偏見を持たせないように伝えていくかに注意を払って、解説文をつくりました。

次に、先住民の取り上げ方に関しても、移民史の中でどのように関連づけられるか議論して展示内容をつくってきました。日本人移民の移住先は、場合



によって、先住民がいた社会であり、先住民を無視して移住が行われたわけではないという歴史があります。そのため、先住民の歴史を踏まえて、展示を見直しました。

また、歴史的な用語にも配慮して解説文をつくりました。例えば、日本人移民、特にブラジルの日本人移民の間では、自分たちを指して「植民(殖民)」とか、移民の集住地であり、移住地と呼ばれる地をしばしば「植林地(殖民地)」とも呼んできましたが、こういった用語は現在の日本では使用されていませんので、そのまま使うと意味が伝わりづらい、誤解を招くということも議論になりました。

現代の国際社会、そして日本社会自体が注意深くなっていることを振り返って、作業に関わってくださった先生方も含めて議論したので、展示の一語一句にこだわって資料をつくり込んできました。ですので、今の時代の価値観や、最新の研究動向を反映させた展示になったのではないかなと思っています。

一方で、歴史を伝える重要な言葉だと考えた場合は、現在に使われていない言葉もあえて残しました。例えば、現在は聞き慣れない、日本人移民社会を指す「同胞社会」といった言葉も、展示の中でそのまま使用しています。

**アンジェロ**：長村さんは非常に重要な、ワーディングというポイントを挙げてくださいました。展示する側、展示されている“当事者”にとっての永遠のジレンマが、まさに究極のワードである「日系人」が、そもそも誰を指し、何を意味し、どの人たちを含め、どの人たちを除外しているのかだと思います。

もちろん、これについて展示する側、つまり資料館が「絶対的な正解」を出す義務などない。これは、みんなと一緒に悩みながら、議論と熟考を重ねアップデートしていけばいいと思います。

ただ、言葉にばかり振り回され、こだわりすぎて、大事なポイントを見逃してしまうのは、もったいない話だと思います。「日系人」という枠を、限りなく許される範囲で広く捉えて、いろんな展示をし、

いろんな考えを深めていくきっかけづくりをするのが、一番いい展開ではないかと思います。

**小嶋**：私に課されたコーナー(日系人・日系社会の変遷をたどる)では、過去に「日系人」という言葉を誰がどういう意味で使っていたのか、また「日系人」という言葉がいかに変わってきているのかを示しています。現在の、ある程度のコンセンサスがある日系人の定義は、永住を目的として海外へ渡った日本人移民あるいは移住者、そして永住権を取得している人たち。その人たちが「日系人」として、カウントされています。

ただ、永住権を取得しているとか永住しているという感覚は、20年前に資料館がつけられたとき、今後変わっていくであろうという議論がありました。20年経って、まさに変わってきています。ブラジルから日本へデカセギでやってきた人たちが、日本で暮らして、今度はアメリカに行きました、カナダに行きましたと、3カ国を行き来する人たちも出てきています。日本で定年退職した人が年の半分以上はアメリカで生活して、3分の1はヨーロッパで、残りは日本でとか、そういう人も出ているわけです。今後は、移民という言葉の定義が変わるだろうし、「日系人」という言葉の定義も、当然変わってくるはずです。私たちも、そういう複雑な状況があると理解することが大事だと思います。

**原山**：日系人という言葉は、簡単には定義し難く、それぞれの時代の一般用語としても、あるいは概念的に整理された使い方においても、かなり幅があります。アメリカについていえば、戦前にアメリカに移住した日本人が、アメリカの市民権(国籍)を取得できたのは、戦後になってからです。他方で、アメリカは出生地主義ですので、アメリカで生まれた二世は、はじめから市民権を持っています。したがって、アメリカの戦時強制収容を批判する際に、「日本人だけでなく、アメリカ市民である二世まで収容してしまった」という言い方がされることがあ





ります。そしてこうした文脈では、一世は日本人、二世は日系人（日系アメリカ人）という言い分け方になる時があります。

ただ、ここでいう「日系人」という言い方が、同時代の一般用語なのか、後に一般用語として使われた言葉と考えるべきなのか、あるいは概念的な整理を経た言葉として考えるべきなのか、と考えていくと、なかなかはっきりしない部分もあります。少なくとも、「日系」「日系人」という言葉は、かつても、そして現在も、「生き物」であり、しかも「一般用語」と「概念的な整理」が相互に影響し合うような、複雑な部分があります。

**上石：**「日系」という言葉の定義が変わっていくことについて、当事者の日系の方は、どう思われているのでしょうか。

**村上：**私はペルー生まれの日系三世ですが、「日系って何だろう」という議論をしたことがなく、そもそも日系の定義の揺らぎがあったことを知りませ

んでした。学術的に考えたことがない当事者からすると、「日系人・日系社会の変遷をたどる」の展示は驚きました。自分のアイデンティティをもっと広く捉えていいとか、そういうのを考えるきっかけになる展示だと思います。

**小嶋：**日系コミュニティには、非日系の人たちが大勢参加しています。そういう現実を理解することが非常に重要です。

**長村：**海外移住資料館は日本国内でも数少ない貴重な移住の歴史に関する資料館なので、議論のきっかけとなる資料や材料を提供し、考えるスペースとして、また開かれた資料館として、将来の人々に活用してもらいたいですね。

**原山：**「日系」という言葉は不定型ではあるんだけど、どれが正しいということではなくて、「日系」という言葉の使い方を通じて、資料館の立場を示していくことになるんだろうなと思います。



## 「日系人・日系社会」を知ることの意義

**村上**：次は、日系人、日系社会を紹介することについて、どういった意味があるのか、お伺いしていきたいと思います。アンジェロ先生、お願いいたします。

**アンジェロ**：リニューアルの注目すべき大きなポイントは、在日日系人と呼ばれている人たちについて非常に充実した形で展示が加えられていることですよね。

※注

今日は、浜松市の増子利栄さんのご冥福を祈るところから話をスタートします。リニューアルのとき、日本で活躍している日系人たちのインタビュー映像を導入する企画が上がった際、僕は、増子利栄さんは、ぜひ入れるべきだと強く推薦しました。彼を推薦したときには、まさか彼がこんなにも早くお亡くなりになるとは想像もできず、大きなショックを受けました。今日も改めて展示されている彼の動画を視聴して、彼の映像が、常設展示という形でこれからもずっと展示されるというのが改めて有意義だなと、感慨深く、そして懐かしく思いました。

日本に長く居ると、報道や教育現場において、移民や日系人の情報提供が不足していることを日々痛感します。その意味では、資料館の存在意義と価値は、どんどん高まっていくと期待しています。

僕の大学のゼミに新たなゼミ生が入ってくるたびに、真っ先に一緒に行こうと勧めるのが、ほかでもないこの移住資料館です。いまどきの大学生は、日本から海外へ出た移民について、あまり知らないし、環流についても知らない。毎回連れて来るたびに、多くの学生が、初めて知りましたという。興味を持つきっかけになる資料館の存在は凄く大きいと思います。

**小嶋**：資料館がオープンしたとき、常設展示の中では「日本にもブラジルを中心として南米から日系人の家族がやってきていますよ、大泉とか、浜松、鶴見には、そういうコミュニティがありますよ」ということを、ちょっと紹介したレベルでした。ところが20年経って、かつて日本人がブラジルやアメリカに移住したとき、最初は出稼ぎだったのが、現地に定住してコミュニティをつくっていったという流れを、まさに繰り返している。

日系人や、その家族に限らず、外国人の人たちがどういうことで困っているか、その困っていることを乗り越えるためにはどうしたらいいのか、ホスト社会の我々日本人がどう取り組んだらいいのかのヒントが、日本人移民の歴史の中にたくさんあります。

**ガラシーノ**：日本の戦後社会では、単一民族国家という言い方がよくされていましたね。日本社会に多様性があってもかかわらず、戦後、それがあたかも存在しないような社会のあり方が主流だったと思います。高度成長期の社会が、非常に均質的な生活様式やアイデンティティを強くし、長らく多様性が見えにくかったのが、80年代から90年代以降は経済のグローバル化と入管法改正で、内なる多様性と外国人が持ち込んだ多様性が分かりやすく見えるようになった。そうした中で資料館の展示をどうするのかというのが、共通の問題意識だったと思っています。

**上石**：展示の中には、9.11のテロのあと中東の方たちに対する偏見が高まろうとした時に、日系アメリカ人の方たちが、自分たちが過去に不当な差別を受けたことを踏まえて「こういうのは良くない」と仰った話が肉声で残っている。自分たちが受けたことを次には繰り返さない、という姿勢と言葉が受け継がれているのは、凄く強いなと思いました。

**アンジェロ**：高齢化は進んで、コミュニティ単位でも、そろそろこれまでの歩みを振り返って、私た



ちの集団レベルでの移住体験をどう総括すべきなのかという段階に、日本に住む在日日系人たちはきています。資料館は、在日日系人たちの基礎資料を集めたり、展示したりしていく場として重要になってくるように思いますね。

**水上：**日本は本当に大きな岐路に立っているのに、それに気付いていないんだと思うんですよ。例えば、人口統計を見ると、40何年後ぐらいに高齢化率、65歳以上の人口を占める割合が40%ぐらいになるという統計が出ているんですね。

多文化共生だ、外国人労働者を受入れるのかという議論だけ先走ってしまっていて、そういう問題があることを日本社会に対して投げかけるという中で、海外移住資料館は、大きなリソースになる。資料館というのは凄く大事なんだと思います。

**アンジェロ：**水上さんに大賛成ですね。一番の問題は、日本人vs.外国人という二分法で論じられる向きがあまりにも日本では多過ぎるわけです。話は

単純ではないという。まさにダイバーシティそのものじゃないですか。

**小嶋：**日本が高齢化社会を突き進んでいって、外国人を受入れるというのはもう避けられないことで、キーワードとなるのが、インクルーシブですよね。日系コミュニティの中で、インクルーシブという概念で非日系の人たちが日系コミュニティのメンバーになってきている。日本においても、いろんな方をどんどん受入れていくインクルーシブな社会が必要なんです。その非常に分かりやすい例が、海外における日系コミュニティの変化なんだと、そこに行き着くと思います。

## 幅広い層の方が理解できる展示

**水野：**最後のテーマ「難しい話題でありながら『わかりやすい』展示」に入りたいと思います。では、原山先生にお話いただければと思います。





**原山**：今回のリニューアルで何が大きく変わったのかを考えてみると、私は次の二つのポイントに行き着くんだろうと思います。

まず一つは、「日系人」あるいは「日系社会」という言葉を、多様な意味を含み込んだものとして、開いていくような格好で示したことがあります。これは、固定的な社会認識に揺さぶりをかけていくような歴史の示し方につながる、大きな第一歩だったと思います。

もうひとつは、ジェンダー、先住民といったこれまであまり触れてこなかったテーマに踏み込み、そして「強制収容」などのワーディングが持つ意味についても正面から向き合ったことでしょう。ただ、そこにはもっと考えるべきこともいっぱいあって、宿題が随分と残っているんだけど、ともかく、展示の持つ社会的な使命を意識して、悩みながら、正しく一歩進み、これから考えるべき課題も見えてきたというのは、大きいんじゃないかなと思います。

**上石**：結構、泣きそうになりましたよね。

**一同**：(笑)

**原山**：見に来る人には多様性があります。当事者であるブラジル、アメリカからやって来た日系人も展

示を見に来ます。日本に住んでいる日本人も、例えば20代と50代では、「移民」に対する知識やイメージが全然違います。つまり、展示をつくっていく上では、いくつかのタイプの来館者を想定してみる必要があります。誰にも分かる展示は実はあまりないのですが、多様な属性の人たちが、それなりに内容にアプローチできて、何か知的なお土産を持って帰ることができる仕掛けになっていることが大事だと思うんです。今日この座談会は、そういうことを考える上でも面白かったなと思っています。どういう新しさが今回あったのかとか、どこを伸ばしていかなければいけないのかということがよく見えてきた感じがします。

**アンジェロ**：もうひとつのキーポイントが、多言語化ですね。英語に限らず、スペイン語とポルトガル語での解説文が充実したと思います。目指すべきは、オール多言語化ですね。

スペイン語とポルトガル語が完成するまで、資料館スタッフの松阪さんと、今日残念ながら座談会への参加が叶わなかった比嘉マルセーロさん（リニューアルアドバイザーの一人）と、言葉ひとつひとつ悩みながらベストを目指して吟味して議論を重ねたことも、ひと言、申し上げたいと思います。





**水野**：多言語化していく中で印象に残ったところはございますか。

**上石**：英語は結構、気を使いましたよね。「強制収容」等、みんな調べて直していきましたからね。

**アンジェロ**：今は、AIや機械翻訳が進化しているけれど、機械がとんでもない誤訳をする場合もあるし、一番相応しい訳がそこから生まれてくるとは限らないわけです。人間によって吟味された解説文を多言語で発信していくべきと僕は考えます。

**森田**：日本で育った南米系日系人の方が、「中学生だった頃に資料館に来て、そこで初めて自分が日系だというアイデンティティに気付くことができた」と仰っていました。どの展示を見てそう思ったのかと聞いてみたら、「特定の展示ではなく、資料館の空間自体が、日系人がどういうものなのかを示す場所であって、日系社会を考えるスペースそのものなんです」と言われて。そこで思ったのは、日本社会では日本人か、それとも外国人か、と属性を区分しがちな中、この空間にいるときはそういった視点を一度脇において、まるで映画館に入って別な世界に没頭するかのように、狭い属性の区分に捉われずにオープンな別の視点を持てる場所になっているのではないかと。そのような空気は今後も守っていききたいところですね。

**水上**：全体の空気感というのはあるのかもしれないですね。あるイベントで日系ブラジル人の女性に会ったんですけど、彼女は、「海外移住資料館を見て私の人生は変わった」と言っていたんですよ。自分は日系人なんだと思って、今の仕事を選択したと。あの中での雰囲気、スピリチュアルなスポットではないですけど、心が揺り動かされる何かがある。

**村上**：両親が来たんですよ、先日。日本語はあまり読めないんですけど、何か自分たちを説明してくれ

ていると感じ、肯定でも否定でもなく、歴史と自分たちがつながった感覚があったみたいで。当事者というのは自分のことしか知らないことが多いので、視野も広がったと言っていました。

**小嶋**：資料館にいただけで、「ああ、自分はこの中の一部なんだ」と涙を流す人たちもいるんです。割合は少ないけれど、そう感じ取ってくれる人がいるのは、重要なことだと思います。

**長村**：資料館は、当事者の方々のことがよく見え、帰属感、共感を呼ぶつくりになっていて、リニューアルで、そのことがより展示に反映されたと思います。

**上石**：どうもありがとうございます。実はこうだったという話はいろいろあると思うんですけども、いろいろな思いを煮詰めたひとつの形が、今回のリニューアルだったと思います。

**中根**：皆さんありがとうございました。リニューアルは本当に大変な作業でしたが、それから1年が経ち、少し時間を置いて当時のことを振り返り、いろいろ話をしていただいたのは非常に良かったと思います。特に大変だったことや、工夫したことにも言及いただいたので、20周年誌を読んだ人が、「ああ、ここの展示が座談会で話題になっていたものだ」と見ていただけるのではないかと思います。

資料館としては、時間がかかるものもあるかもしれませんが、今後も展示をより強化していきたいと思っていますので、引き続き、皆さんにご協力いただきたいと思っています。本日はどうもありがとうございました。

注：増子利栄氏

ブラジル サンパウロ州生まれの日系ブラジル人二世。1988年来日。自動車部品工場で勤務した後、通訳や生活相談の仕事を行うとともに、集いの場所としてレストランを開業。2023年ブラジル連邦政府からリオ・ブランコ国家勲章が贈られた。2023年2月28日に逝去。



# オープニングセレモニー



オープニングセレモニー テープカットの様子

## セレモニー概要

1. 開催日時：2022年4月25日(月)10時～11時30分
2. 場所：JICA横浜 海外移住資料館 前
3. 式次第
  - (1) 主催者（JICA理事）挨拶
  - (2) 来賓紹介
  - (3) 来賓ご挨拶
  - (4) 祝電披露
  - (5) テープカット
  - (6) 常設展示室内覧

## 主催者（JICA理事）挨拶（一部抜粋）

日本の海外移住と横浜には深いつながりがございます。この資料館にも、数多くの「横浜とのつながり」を示すものがございます。皆様、JICA横浜センターの1階と2階、それぞれの入り口のガラスにあった棧橋や大海原を行き交う船の絵をご覧いただけましたでしょうか。また、皆様の後ろにある柱にも雄大な船が描かれております。これらは日系ブラジル人であり国際的に活躍されている芸術家、大岩オスカル氏が、日本人移住

者の足跡からインスピレーションを受けて描いた作品です。彼らを送り出した20世紀初頭の横浜の犬さん橋がモチーフとなっております。また、資料館内には、多数の移住者が存在した約120年前（1901年）の横浜の地図や、横浜の港を発つにつぼん丸の姿などの展示がございます。さらに敗戦直後の日本と国際社会を再びつなぐとともに、海外に移住されてもお母国を思う日本人移住者の方々の気持ちを表す、1946年から1952年まで横浜にて荷揚げされた救援物資、いわゆる「ララ物資」の資料展示もがございます。私どもは、このような横浜と日本人の海外移住との深い関係、そしてこれまで横浜の方々から当資料館へと寄せられた厚いご支援を心に刻んでおり、まずは横浜の方々、そして本資料館のリニューアルにご協力をいただいた方々とこの日を迎える喜びを分かち合いたく、今回ご案内を差し上げた次第です。

さて、本資料館ですが、2002年10月の開館以来、のべ60万人以上の方々にご来館いただきました。中には、ここにきてはじめて日系人の歴史に触れ、日系人としてのアイデンティティ、日系人として将来を生きる夢を持つことができた、と語った日系四世の方もいらっしゃいました。また、天皇皇后両陛下（2004年当時現在の上皇上皇后両陛下）の行幸啓、そして皇室関係者



による計2回ものご訪問をいただきました。さらに、移住先国の邦字新聞など、移住者の方々の生活を伺い知ることができる資料の収集・保存・展示も実施してまいりました。このように、当資料館は、日本政府の事業により海外移住された方々の姿を広く国民の方々に知っていただく、この使命を着実に実施してきたといえます。

一方で、この20年で日系社会では世代交代が進み、また日系人がその活躍の場を日本や第三国、さらには国際的に広げるケースも生まれました。日系人は、「文化の継承」、「他文化との融合」、「新たな文化／アイデンティティの創造」を続け、新たな日系人の姿、日系社会の姿を作り出しているのです。

日本もこの20年で大きく変わりましたし、これから大きく変わっていくでしょう。超高齢化、人口減少といった諸課題に直面する中、これまで以上に日本での定住を目的とした外国人の来訪が見込まれており、私たちの多文化共生に向けた準備が急がれています。

今回のリニューアルでは、こういった「変化」を踏まえて、「移住者の歴史の説明の充実」、「多文化共生への手がかりの提供」、そして、「どなたにもご覧いただけるわかりやすい展示」を念頭に置きました。移住者の歴史の説明の充実については、この20年間で新たに入手した資料の展示だけでなく、移住者の方々の多様な側面をお伝えしようと試みています。その一つが「女性」です。女性は、移住先で家業に従事するだけでなく、家族を支える、異国で日本の味を継承していく等、多様な役割を担ってきました。また、男性とは違った理由で海外

移住をした女性も多くいらっしゃいました。「花嫁たちの海外移住」コーナーでは、こういった女性たちの姿を取り上げています。また、第二次世界大戦時下のアメリカ合衆国や中南米での日本人移住者の方々の暮らしの展示もご紹介します。これらの厳しい経験の記録は、「偏見」という人間の危うさを示すとともに、異なった文化の中でアイデンティティを守ろうとした移住者の方々の歩みを示すものでもあります。他にも移住された当時のことを語る一世の方々の展示もご紹介します。多文化共生への手がかりの提供については、「証言集」を拡充しました。ミネタ氏やタケイ氏は、9.11の際、第二次世界大戦時に自分たちがいわれのない差別を受けたことを教訓に、ムスリムの方々への偏見の芽を摘み取るべく努力したことを語っています。他にも、さまざまな場面で多文化共生に取り組む日系人の展示も加えています。また、ブラジルを事例に、移住者が、どのようにして現地の社会の担い手になり、さらにその子孫たちが日本、さらには第三国で暮らすに至ったのか、という具体的なプロセスについて分かりやすく説明をしたコーナーも追加しています。こういった展示を広く皆様にご覧いただけるように、ユニバーサルアクセスに配慮しました。視聴覚機材の利用に加え、点字や音声ガイドも充実させました。現在日本語と英語が主となっている外国語ガイドについても、スペイン語、ポルトガル語を追加していく予定です。(2023年に追加)

私どもは、国民の皆様が日本の海外移住に理解を深められるように、また世界各国で活躍されている日系人の方々が自身のルーツをこの資料館で発見できるよう、今後も関連資料の収集、保存、展示に努めます。さらに、



JICA 井本佐智子理事 ご挨拶





常設展示室での内覧会



ブラジル・サンパウロ州アリアンサ移住地コーナーの展示

この資料館を「多文化共生」のあり方を探るための「歴史」や「経験」を学びなおす場とすべく、移住者の方々が取り組まれた「継承」「融合」「創造」から、日本の多文化共生を考える上での有用な手がかりを見出し、提供していきたいと考えています。

この資料館の最後にはハワイの日系ファミリーの写真の展示がございます。私たちは「ビッグファミリー」と呼んでいます。ハワイに移住された日本人移民の方が築き上げた家族の絆です。色々な人種の顔が見て取れます。多文化共生の一つの形がここにあります。次の20年後、どのような写真がここに展示されることになるでしょうか。私どもは、その写真にある方々の顔が笑顔であるように引き続き努力してまいります。

## 式辞・主な招待者

来賓として横浜市会高橋正治副議長、米州友好横浜市議員連盟横山正人会長、海外移住資料館学術委員会飯野正子委員長（津田塾大学元学長・名誉教授）、横浜市

役所橋本徹国際局長が出席された。

高橋副議長は、日本人の海外移住と横浜市のつながりを紹介するとともに、日本人海外移住者が、国と国、人と人を繋ぐ架け橋となっている点を述べられた。日本にとって貴重な経験／財産である海外移住の資料を保存・展示している当資料館は、「実物展示を通じ心に刻んでいく学習機能」を持ったものであり、横浜の宝として市民にも大切にされるべく広めていくと発言された。

橋本局長は、これまで海外移住資料館の存在は市内学校にとって良い国際理解教育の場であったが、今回リニューアルで内容が充実し、より広い層がアプローチできるようになった点を歓迎され、国際局にとって最重要課題である多文化共生等においてJICA横浜との連携を深化させたいと述べられた。

飯野委員長は、資料館のリニューアルは非常に多くの作業が必要となるが、それを極めて短期で成し遂げたことを多とする一方、今後さらなる議論により内容を深めていくことが重要であると述べられ、日本人移住者の方々の誇らしい経験を伝えるとともに世界からの移住にかかる情報も受信しつつ、日本及び世界にとっての移住の意義を研究・発信していくことが重要と発言された。



横浜市役所橋本徹国際局長 ご挨拶



海外移住資料館学術委員会飯野正子委員長 ご挨拶



## JICA理事長挨拶・ JICA横浜 海外移住資料館ライブ中継



JICA田中理事長による挨拶



JICA横浜 海外移住資料館ライブ中継の様子

公益財団法人海外日系人協会主催で毎年開催されている海外日系人大会の第62回大会が、2022年10月22日（土）・23日（日）にオンラインで開催され、31か国から611名が参加した。今大会の総合テーマ「日系社会の持続可能な発展と日本」のもと、世代交代が進む日系社会の持続的な運営方法とその実践のための教育的アプローチについて意見交換された。

同大会2日目に行われた「持続可能な日系社会を目指して―実践と成果」をテーマとしたシンポジウムでは、JICA田中理事長による挨拶（事前収録）において、海外移住資料館（以下、資料館）の開館20周年一部リ

ニューアルを含む資料館の取り組みを紹介し、多文化共生について学べる館を目指していくことに言及した。リニューアルした資料館の紹介映像を流した後、資料館と中継でつなぎリニューアルした常設展示室内を紹介した。参加者からは、チャットでリニューアルをしたことに関する喜びの声が寄せられ、資料館を訪問したいというご意見も多くあった。また、海外移住資料館中根館長（当時）から、当館と協力・連携関係にある国内外の日系人、日系団体など、関係者に謝辞を述べ、リニューアル後もオンラインツールの拡充や資料の収集・保存・研究に継続して取り組むと言及した。



# リニューアルを振り返って



日本大学 法学部 教授  
海外移住資料館 学術委員

## 原山 浩介

2022年4月に、海外移住資料館の常設展示がリニューアルオープンした。紙幅が限られているため、展示の何がどのように新しくなったのか、その全体像については別の資料や実際の展示等でご覧いただくこととして、ここでは、資料館の将来に向けて考えておかねばならないことを、大きく二つに分けて記しておきたい。一つは、展示の内容に関わる今後の大きな課題、そしてもう一つは、資料館の運営に関する覚書である。

海外移住資料館の開館は、2002年に遡る。学術研究の成果を反映させつつ、日本から北米・中南米への移民史叙述の基軸を示したともいえるこの展示も、20年余りの時間の流れにさらされるなかで、多様な課題を背負い込んだ。それは、この間の社会変容と、それに規定された来館者の同時代意識の変容に根ざす部分が大い。

この変容を象徴的に示すのが、「移民」に対する大学生など若い世代の認識の変化である。例えば「ブラジル移民」の存在は、これまで文学、映画、マンガなど、さまざまなメディアで描かれ続けてきた。そのなかには、ギャグマンガに描かれる、ギャンブルに負けて借金を背負ってブラジルに移住する、というようないささか悪意や誤解の混じったステレオタイプも含まれていた。そして、そうした玉石混交のイメージに対する適切な「再教育」が、博物館や大学などで行われるという展開だった。しかしながら最近の大学生を見ていると、「玉石」どころか、そもそも日本から北米・中南米への「移民」のイメージそのものが欠落しがちである。そして、「移民」という言葉からは、むしろ、海外から日本にやってくる人びとが想起されやすくなっている。

そうしたなかで「移民」ないしは「移民史」の展示に

は、日本から海外に移住した人びとの歴史を伝えるということに加えて、その経験のなかから、今日と未来を展望する手がかりを示すことが求められるだろう。日本に多様な出自の人びとが暮らすようになっていくなかで、「海外移住」を、過去における日本から海外への「移民」に限定して展示することにどれほどのアクチュアリティがあるのか、ということが問題になる。あるいは構造的には、長らく出移民が圧倒的に多かった日本をはじめとするいくつもの国々が、入移民の多い時代へと突入したことに対応しなければならない、という言い方もできる。そして、その局面の変化のなかで、人の移動や「他者」の存在をめぐる「知」の編成の変化が、展示のあり方に必然的に変更を要求するだろうという見方もできる。

今回のリニューアルでは、ブラジルを主たる舞台として「日系／ニッケイ／NIKKEI」という言葉が持つ意味がどのように変化してきたのか、あるいは日本における外国人の「受入れ」がどのような経過を辿ってきたのか、といった内容が加わった。これらは、重要な一歩ではあるものの、情報としても考える筋道としても、断片的なものである。その意味では、今回のリニューアルは、暫定的な改善に過ぎない。本来であれば、展示全体のコンテキストを問い直したり、国内外の研究成果を検討したり、館蔵資料の調査や、新たな課題に対応するための国内外の資料調査・インタビューなどを積み重ねるといった地道な営みをベースに、議論を積み重ねる必要があるのだが、そうしたことは、多くが課題として残された。

なぜ、そうなったのか。その点に関わって、もう一つの論点、つまり資料館の運営に関する覚書を、今回のリニューアルの反省点とともに記しておきたい。これは、



このリニューアルに関わったすべての者が、痛感しているであろう事柄である。

端的に言えば、準備期間があまりに短か過ぎたこと、加えて言えば、日常的な資料館の運営のなかに将来の展示リニューアルを見通した蓄積を内在化させようという意識が希薄だったことがある。

そもそも、今回のリニューアルが本格的にスタートしたのは、オープンのわずか1年前だった。1年間という準備期間は、本来的には、企画展示の準備すらままならないような、極めて厳しいものである。もちろん、そのような時間感覚で準備が始まった事情は、想像に難くない。博物館の展示ということの本業としない者にとっては、展示を作るというのは、資料を並べて、原稿を書いて、パネルを作れば、だいたい完成するのだ、というくらいのぼんやりとした認識になるだろう。そうした認識を前提として、年度区切りの予算を確保すると、1年というスケジュールに落ちてしまうことも理解できる。そして、いざ展示を作り始めて、そこで初めて、事態の深刻さに気づく、という展開になる。こうしたことは、これまでもいくつもの組織で経験されたであろう「失敗」である。

私が展示アドバイザーとして関わり始めたのも、実はオープンの1年前だった。かなり無理のあるスケジュールであること、しかしその時点においては、もはやオープン为先延ばしするようなプランの変更は不可能であることを承知しつつ、とにかくやれることはやろうと思った。その上で、今回のリニューアルの苦しい経験を、資料館のあり方や運営の仕方の見直しにつなげて、「その次のリニューアル」に対応できるような体制を作るべきだろうと考えた。

このように書くと、私が随分と高みから全体を俯瞰して、全力を尽くして頑張った手柄話をしているように見えるかもしれない。しかし、実際はさにあらず、JICAや海外日系人協会の方々などが「泥まみれ」になって奮闘しているところに、若干の展示経験がある私が時折あらわれて、そのお手伝いをした程度に過ぎない。実は私がかもって頑張って情報を整理したり、原稿を書いたりするつもりだったのだが、他の用務に苛まれながら時間とエネルギーの不足に見舞われた結果、私が「やる」と言っただけで実際には空手形に終わった仕事もかなりあった。強いて言えば、かなり困難なリニューアルのプロセスをJICAや海外日系人協会の方々とともに経験して、多く

の課題や教訓をみんなで確認したことが、今後につながる一番大きな仕事だったようにも思う。

次のリニューアルが、いつになるかはまだわからない。はっきりしているのは、今回のリニューアルに関わったJICAの職員は、異動を繰り返すので、次のリニューアルの時にはかなり高い確率で、資料館の仕事に関わっていないだろうということである。そのことを見越しながら、今回のリニューアルの課題と教訓、つまり、繰り返しになるが、展示リニューアルには長い準備期間が必要であることと、通常の資料館運営に将来のリニューアルを見据えた蓄積を意識的に内在化させることの重要性が、正しくJICA内で継承されるための方法を考える必要がある。

将来的には、日本から海外へ移住した人びとの歴史を語る際に、「偉業」を示すことと並んで、移住先での不名誉な失敗や、差別や迫害の被害のみならず「加害」の経験にも広く目配りする必要があるのではないかと考えている。そうした部分が伴わないと、海外から日本にやってくる人びとの姿とあまりに噛み合わない歴史語りになってしまう。さらに踏み込んで言えば、日本に住む日系二世・三世はもとより、より広く海外から移住してきた人びとを視野に入れて展示全体を構成することで、同時代性を反映した展示を作ることができるとも言える。また、「グローバル・ヒストリー」ということが言われて久しい今日、アジア圏の「移民」と北米・中南米への「移民」を分け隔てる発想も、問い直される時期を迎えていこうとも考えられる。

こうした将来展望を前にして、重要になるのは、課題を整理しながら、継続的な研究活動、資料整理、企画展示などを推進しつつ、将来の展示リニューアルを視野に入れた蓄積を作っていくことである。そうした方向に向かうための「計画性」や「戦略性」、さらにはその下支えとなる円滑な「コミュニケーション」を構築するのが、当面において必要となる仕事だろう。全体の態勢を整え、十分な蓄積ができるようになった上で、次のリニューアルに取り組めるように、そして、ぜひ、次のリニューアルは、1年前ではなく、せめて3～5年前に本格的にスタートさせられるように、今回の課題と教訓が活かされることを望みたい。



## Message from the Director

### 館長からのメッセージ



キヨヒコ・タナカ

ボリビア日本人移住資料館 館長



カルメン・ミツコ・ハタ

ボリビア日本人移住資料館 理事

開館 20 周年を迎えられた JICA 横浜 海外移住資料館にお祝い申し上げます。

貴館は、この 20 年間、日本人移住者の歴史と、移住者がどのように友情の橋を築いてきたかを若い世代に伝えるために取り組んでこられました。ボリビアのラパスから、成功にあふれた未来を皆様にお祈り申し上げるとともに、皆様が今後も、国と国、そして、世代間の相互理解を築いてくださることを願っております。

わずか 20 年間で 60 万人以上が海外移住資料館を訪れました。また、秋篠宮ご夫妻も関心を示され、何度も訪問されていらっしゃいます。間違いなく、海外移住資料館はそのダイナミズムと重要性を証明してきました。

ボリビア日本人移住資料館は、ボリビアのラパス日本人会で小さな展示場を運営しています。現在の資料館は、日本の政府開発援助によって 2010 年に建設されたものです。日本人移住者は 1899 年にボリビアに到着しましたが、その時からの彼らの歴史を説明するパネルやビデオがあります。当資料館の最も懐かしい品々は、日系人の家庭から寄贈されたものです。戦後、ラパスや日本人居留地に到着した最初の家族の荷物の一部だった革製のスーツケースや竹の櫛、鏡まであります。

皆様や、日本人移住者の歴史の研究と普及に捧げられているすべての博物館や資料館と同様に、私たちは、日本との関係を表す「感謝」、「絆」、「架け橋」といった言葉に対し、特別な想いを抱いています。この機会に、皆様が日本と私たち、また、世代間の「絆」の構築に貢献して下さったこと、そして、皆様が、世界の日系人と日本人の間の友情の架け橋となって下さったことに感謝申し上げます。





## ホルヘ・イゲイ

ペルー日系人協会 (APJ)  
日本人ペルー移住史料館 “平岡千代照” 館長



JICA 横浜 海外移住資料館開館 20 周年に際しまして、ペルー日系人協会を代表し、お祝い申し上げます。

2002 年 10 月に開館された貴館には、困難を克服する必要性と向上への渴望という共通の物語に端を発した、日本人移住者たちが 19 世紀末以降辿ったさまざまな道りが展示されています。彼らは各国へと導かれ、そこで独自の歴史を築き上げました。

海外移住資料館にはまた、散り散りになった日本人移住者たちとその子孫の努力ならびに犠牲を示す展示も行われています。彼らは定住した国々で活気ある日系社会を形成し、その発展に貢献するとともに、日本との友情の絆を強化するために架け橋となりました。多くの日本人が知らない移民の歴史、海外移住資料館はその普及の役割を担っています。

私は 2016 年に貴館を訪れる機会を得ました。施設の広さや移住者のさまざまな物語、日本人が移住した国々由来の収蔵品や写真が整然と展示されている様子に心地よい印象を受けました。

ペルー日系人協会は、デジタル博物館やペルー日本人移民データベース (1899-1941) Pioneros という共同プロジェクトを海外移住資料館と実施してまいりましたが、これらのプロジェクトによって、多くのペルー日系人が自分たちのルーツを知ることができるようになりました。海外移住資料館はまた、2019 年に当協会の日本人ペルー移住史料館をリニューアルする際のインスピレーションにもなりました。

リニューアルされた海外移住資料館についての中根館長のプレゼンテーションでは、新しく追加された展示物が紹介されていますが、それらによって資料館はより親しみやすく、モダンで魅力的なものとなり、日本人移民博物館ネットワークの最前線にあり続けています。ここ 2 年間にペルー日系人協会はメキシコ (あかね記念館)、ブラジル (文協)、パラグアイの日系博物館と連携協力協定を締結しましたが、これによって前述のネットワークがより緊密かつ強化されています。

この重要な開館 20 周年に、JICA 横浜 海外移住資料館に改めて感謝申し上げます。私たちは、貴館が世界の日系社会についての認識と、書き続けられている歴史についての対話を推進し続けてくださることを確信しております。





シホコ・パトリア・アカチ・デ・カスガ

日本人メキシコ移住あかね記念館 館長



まず、JICA 横浜 海外移住資料館が開館 20 周年を迎えられたことを大変嬉しく思います。

日本人メキシコ移住あかね記念館の代表者として、このような重要な祝事にご挨拶させていただけることを非常に光栄に思います。

JICA 横浜 海外移住資料館は、世界中の多くの日系人にとって特別な場所を意味します。物品が保存され、研究され、調査される空間であることに加え、出身地に関係なく、多くの場合、同じ思いや思い出を持った他の人たちと経験を共有することができる場所です。そのような人たちが、この 20 年間にこの資料館に集いました。ここを訪れた者たちは、それぞれの訪問の終わりに、「私は日系人です」と言える誇りを持って資料館を後にしたと口を揃えます。

常設展示室のリニューアルオープンと、新たに設けられたテーマ「日系人・日系社会の現在」によって、北米、中米、南米にあるさまざまな博物館が含められたことは興味深いです。これにより、最初の移住者たちが各国において直面したさまざまな状況がわかり、移住者たちが祖国とは異なる国に住んで適応するために払った努力を認識することができます。また、自分たちのルーツについてもっと知りたい、そして、私たちの祖先が日本から私たちが現在住んでいるそれぞれの国に着くまでに辿った道のりを評価する術を学びたいという、新しい世代の関心を集めています。

日本人メキシコ移住あかね記念館はこの榮譽に感謝いたします。そして、海外移住資料館の開館 20 周年、誠におめでとうございます。

心よりお祝い申し上げます。





アン・バロウズ

全米日系人博物館 館長 兼 CEO



JICA横浜 海外移住資料館が開館 20 周年を迎えられましたことに、全米日系人博物館 (JANM) より、衷心のお祝いを申し上げます。

長年にわたる貴館とのパートナーシップは、当館にとって測り知れない誇りであり、2018 年、故ノーマン・ミネタ理事長とともに私が貴館を初めて訪問した際、温かく迎えていただいたことを今も感謝とともに思い出します。両館では、展示会から一般向けプログラム、調査研究、そして「ディスカバー・ニッケイ」等のオンライン・プロジェクトに至るまで、さまざまな活動を通じて日系人の物語を世に伝え、世界中の人々に向けて発信しております。

海外移住資料館では、世界各地のユニークな日系人の物語が展示されており、来館者は、遥か遠く地球の隅々にまで日系人の移住が及んでいることを理解できます。

移住者の出身地と移住先をつなぐ地図を貴館で見たことは、心に残る思い出の一つです。地球規模の視点から日本人の海外移住史を俯瞰できたことは、とても貴重な体験でした。この度リニューアルされた常設展示室には、日本人移民の現在の姿が反映されており、この展示に当館も参加することができ、とても光栄です。

海外移住資料館と全米日系人博物館は、故ノーマン・ミネタ理事長、ジョージ・タケイ氏、そして私のインタビューをはじめ、多くのリソースを共有しています。これにより、私たちは世界に広がるニッケイ・コミュニティの一員として、日系アメリカ人の物語を日本で広め、当館の考えや使命、歴史を世界に向けて発信することができるのです。

リニューアルされた資料館を訪ね、今後もさらなるコラボレーションができますことを楽しみにしております。





シェリー・シノブ・カジワラ

日系文化センター・博物館 館長



カナダ国ブリティッシュコロンビア州バーナビーの「日系文化センター・博物館」からご挨拶申し上げます。

バーナビーにはカナダの先住民であるコーストサリッシュ族の領土があり、私どもは、この伝統ある先祖伝来の地で暮らし、働き、余暇を楽しむ幸運に恵まれております。当博物館は、2000年の設立以来、日系カナダ人及びカナダにおける日本文化の歴史と遺産を敬い、その保存と共有に専心してまいりました。

この度、海外移住資料館が創立20周年を迎えられましたことに、お祝いを申し上げます。貴館は日本にルーツを持つカナダ人の歴史の保存や、カナダと日本の海外移住史を結ぶ上で、重要な役割を担われています。カナダの日系社会と日本との絆は深く、今後もさらなる文化交流が育まれることでしょう。貴館のこれまでのご厚誼に感謝申し上げますとともに、次の20年間のさらなる親交を楽しみにしております。



ネイト 行徳

ハワイ日本文化センター  
館長 兼 専務理事



Aloha kakou (みなさん、こんにちは)

JICA横浜 海外移住資料館の創立20周年にあたり、ハワイ日本文化センター (JCCH) を代表してお祝いを申し上げます。ご同慶の至りです！

私たちは、ハワイ在住の日系人として、日本との深い絆を尊び、今も続く歴史を記録しております。日系コミュニティに新たな世代が加わる中、日系人がハワイで築いてきた歴史や、日本に遡るルーツについて若者に学びの機会を提供したいと望んでおり、これらの伝承において、JICAの役割は非常に大きなものです。

20周年おめでとうございます。今後も益々のご発展をお祈りしております。

Mahalo (感謝)





黒須 愛子

エンカルナシオン日本人会 理事



この度 JICA 横浜 海外移住資料館 20 周年を記念して記念誌が発行されるに当たり、お祝いのご挨拶を申し上げます。

私たちが住んで居りますパラグアイ国は南米の中心部に有ります。戦後、各移住先に向かう人々のために海外移住事業団が設立した宿泊施設がありました。そこで移住者たちは目的地に向かう前、長い旅の疲れを休めるべく何泊かして、ボイラーで沸かしたお風呂に入り、疲れを取られたとのことでした。

私たちの街、エンカルナシオン市はパラグアイの最南にあり、ミシオネス州ポサーダス市とパラナ河で国境を隔てています。

長い船旅の末、ブエノスアイレスで下船しまして、今度は汽車に乗り換え、ポサーダス市まではさらに何時間もかかります。そして汽車のままパラナ河をフェリーで渡り、エンカルナシオンのパククアという駅で下車しまして、いよいよパラグアイの地、エンカルナシオン市に到着です。(海外移住事業団が設立した) 宿泊施設はそこからすぐの距離にあります。この宿泊施設が現在のエンカルナシオン日本人会会館になっております。

何家族かは不明ですが 戦後の移住者の方々の中で当エンカルナシオンの土を踏まれてから目的地に向かわれたということにより、戦後移住者記念碑が当日本人会会館の玄関前に建てられました。

その後 何年か過ぎましてから、戦後に宿泊施設で使用された後、地面に埋もれていたボイラーを思い出し、早速発掘したのが元となり、パラグアイ日系アイデンティティセンターをつくることが考案されました。今現在まだ生存されておられる一世の移住者の方々への生の声、又移住者の方々への入植森林に入られ、口では言い表すことができないそれを写真に収めた貴重な入植時代の歴史を保存することが可能になったのです。

嬉しかったこと、悲しかったこと、さまざまな過去の出来事、移住者の方々が体験されたご苦労を全世界の人たちに見て、知っていただきたく、私たちは日系アイデンティティセンターを大勢の方々のご協力により、つくることができました。一世は勿論二世、三世、四世と受け継がれ現在、未来へと伝えられる遺産を残し、移住者の方々が味わわれたご苦労が風化されないように祈願いたします。





山下リジア

ブラジル日本移民史料館 運営委員会 委員長



この度は、海外移住資料館設立 20周年おめでとうございます。

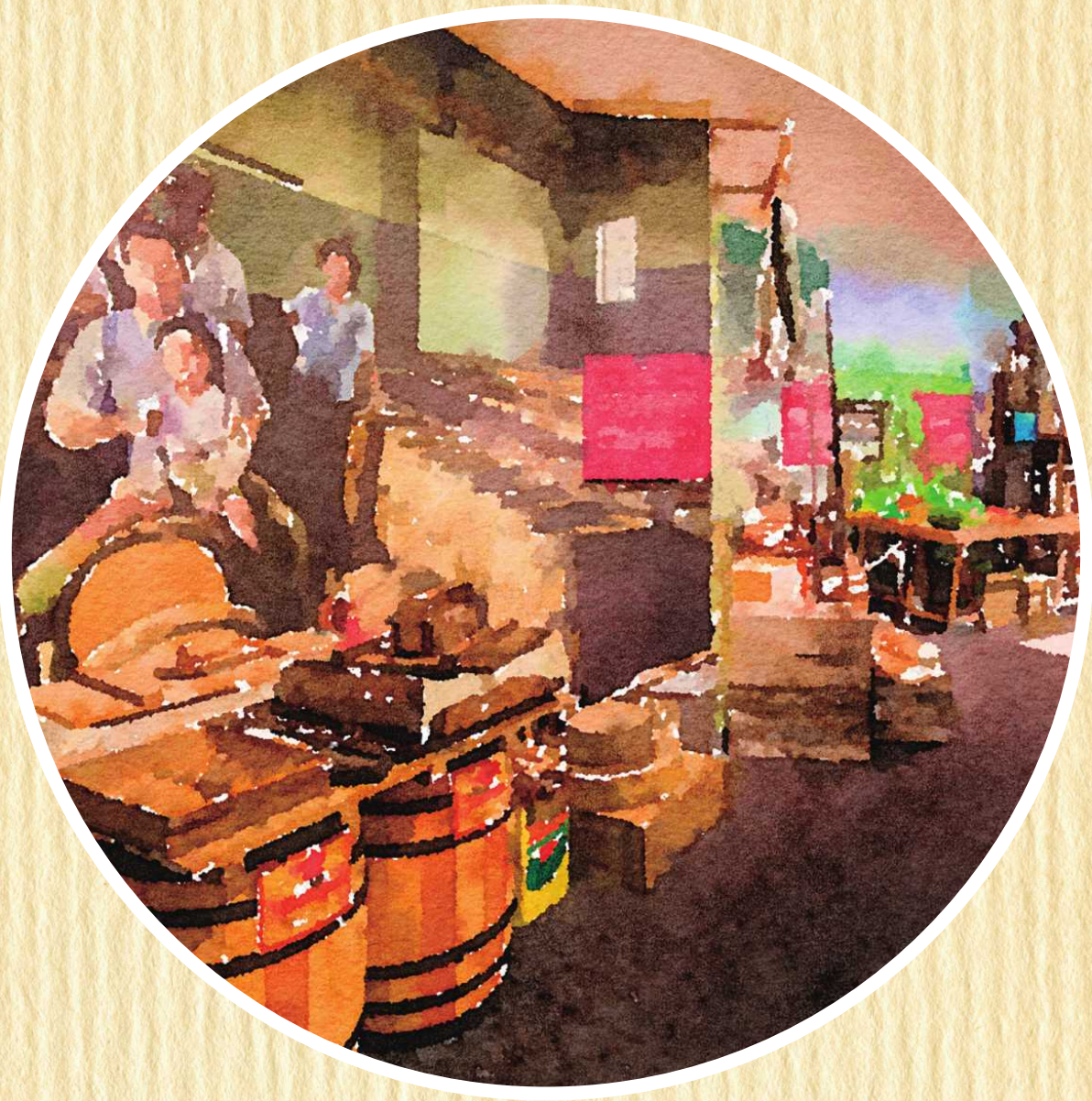
日本から海外へ移住した日本人の歴史を語り、後世に残すというミッションを背負った貴資料館も、設立以来、既に 20 年が経過しましたが、この間、どれだけ多くの方に現代史の一部を理解していただけたことでしょうか。関係者の皆様のご尽力に対し、心から敬意を表しお祝い申し上げます。

私どももブラジル日本人移住の歴史を展示して 45 年を迎え、念願の近代化改装工事が当地進出の日本企業のご支援及びブラジル政府の文化支援法案により、お陰様で 2022 年の 6 月に無事完成いたしました。

ブラジルは、東西南北何れも 4,000km 以上もあり、日本人が 115 年も前から原始林を開拓して移住地を作り、主に農業に貢献しましたが、その歴史を語る各地域の資料館との連携を確立させ、コロナ・パンデミックのため疎遠になっていた資料館ネットワーク活性化計画を抱えています。

資料館として託された使命を、貴資料館とともに次世代に引き継いでいけると祈念しております。





● 第2章

2013-2022のあゆみ



## 2013年度

### 沖縄移民展ほか、年4回多彩な特別展示を実施

#### ペルー移民の歴史をオンラインで！ 待望のデータベースを公開！

ペルー日系人協会と当資料館が共同で開設した「Pioneros ペルー日本人契約移民 データベース」が4月3日「日本ペルー友好の日」に公開されたスペイン語版に続いて、6月18日「海外移住の日」に日本語版が公開された。公開日には、在日ペルー共和国大使館のマルコ・アントニオ・サンティバニェス公使参事官が来館し開通式が行われた。本データベースは、1899年から1923年に契約移民としてペルーに渡った日本人移民18,727人のデータが収録され、氏名、出身県、船名、ペルー到着日、配耕地などで検索できる画期的なものである。



#### 県別の移民展示を開始

2013年度開催した沖縄移民の企画展は、その後、和歌山、福岡、広島、高知、熊本と続く、県別の移民展示の原点となった。各県下の博物館や公文書館、図書館等と連携し、長期間にわたり資料を借用・展示することは初めてで、年間複数回実施する企画展示のうち、最大規模で実施することが通例となった。移民送出数の上位県から始めることとなったが、移民の多い理由やその背景については、それぞれに事情が異なり、来館者の関心を集めている。沖縄、和歌山、福岡、広島では、複数の会場で巡回展示が実現した。

#### 特別展示「海を渡った日本人町」展 —アメリカ大陸の日本人町、日本町、日本人街、小東京—

開催期間：7月19日～9月23日

概要：日本人が渡ったアメリカ大陸には、日本人町、日本町、

日本人街、小東京などと呼ばれた日本人集住地が多数あった。そこにはさまざまな日本人経営店舗が存在し、まるで日本にいたかのような生活が営まれた。本展示では、日本人町の全容を表すべくロサンゼルス、シアトルなど各都市の店舗を通して日系人の生活を紹介した。



#### 特別展示「日系人と混血 — Hapa とメスチッソ —

開催期間：11月15日～12月28日

概要：日系人の混血も進む現在、「日本人の子孫」としての意識やアイデンティティはどのように変化してきているのかを、北米におけるHapa(ハパ)、南米におけるメスチッソに注目し展示した。カリフォルニア大学キップ・フルベック教授の作品である“part asian・100% hapa”の中から日系人の写真20枚を展示。他にも日系人の混血に関するさまざまなデータやインタビュー映像などを紹介した。



#### 特別展示「魁(さきがけ)～日本からハワイに渡った人々—浜野龍峰 書のある空間から—

開催期間：1月18日～2月16日

概要：書家浜野龍峰氏による、縦3m、横2mの布10枚に埋め尽くされたハワイ移民の名字と、明治政府の許可を得ずに



2018

2019

2020

2021

2022

海を渡った、いわゆる「元年者」112人の名字が刻まれた篆刻作品による書のある空間。2010年にハワイ官約移民125周年を記念して制作。ハワイで公開されたものとあわせて、当館が収蔵する、初期のハワイ移民の写真や、パスポートなどの資料を展示し、日本の海外移住の魁（さきがけ）となったハワイ移民について紹介した。

1月18日と19日には、浜野氏による巨大な書のデモンストラーションと書道のワークショップを開催した。



### 特別展示 「雄飛—沖縄移民の歴史と世界のウチナーンチュ」

**開催期間**：3月1日～5月11日

**共催**：沖縄県

**展示監修**：沖縄県立博物館・美術館

**協力**：沖縄県公文書館、沖縄県立博物館・美術館、沖縄テレビ放送株式会社、株式会社ビーエル、金武町教育委員会、特定非営利活動法人AMDA沖縄、那覇市歴史博物館、南風原町立南風原文化センター、琉球大学国際沖縄研究所

**概要**：琉球王国として独自の文化を育んできた沖縄は、日本有数の移民県でもある。なぜ、沖縄は移民が多いのか。どこの国へ行ったのか。そして、新天地でどのように自らの文化を守り伝えてきたのか。

沖縄の海外移住の歴史を美しいビジュアルでわかりやすく解説するとともに、沖縄から海外へ「雄飛」し、故郷との絆を大切にしながら、さらに独自のネットワークを広げ、世界を舞台に活躍するウチナーンチュ（沖縄人）の現在の姿を紹介した。

3月1日に実施したオープニングセレモニーでは、鶴見区の「潮風エイサー」の演舞が行われた。



### 公開講座

#### 「“Breaking the Silence” 沈黙を破って」

**開催日**：8月11日

**講師**：Stephen H. Sumida（ワシントン大学）、Gail M. Nomura（ワシントン大学）

**概要**：英語朗読劇「“Breaking the Silence” 沈黙を破って」は、19世紀末からハワイ、アメリカ合衆国本土へ移民した日本人が歩んできた当初の50年から、戦中、戦後を描いた作品。8月1日～3日に広島市で実施された朗読劇に参加した日系人2名を講師に招きお話を伺った



### 公開講座 「多文化共生社会の変容—移民第二世代の活躍と日本人側の理解」

**開催日**：3月16日

**講師**：池上重弘（静岡文化芸術大学文化政策学部教授）

**パネリスト**：鈴木由香里、宮城ユキミ（静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科2年）

**概要**：1990年の入管法改正後に急激に増加した日系人は、日本国内において生活のサポートが必要なマイノリティとして語られてきた。しかし、2008年のリーマンショックと2011年の東日本大震災は、彼らを取り巻く状況を大きく変化した。本講座では、日本における「多文化共生社会」の変容について、「定住化の進展」「コミュニティの担い手としての外国人」「移民第二世代の活躍」をキーワードに、お話を伺った。パネリストの二人は幼少期に来日以降、日本とブラジルを行き来する共通の経験話し、「自分と同じ境遇の子どもたちを支えるため」に実施する、就学前の外国人児童を対象とした体験入学のサポートや、日本語とポルトガル語で日本の学校生活を説明した絵本の配布などの活動を紹介した。





## 2014年度

### サッカー・ワールドカップ・ブラジル大会 / ララ物資展・和歌山移民特別展他開催

#### 海外移住の日のイベントに900人が来場！

6月18日から22日まで、海外移住の日のイベントとして、ブラジル移民と関係の深い銀座カフェパウルスタのパネル展示やブラジルコーヒーの試飲会、イベント「かるたで遊んでタイムスリップ」を実施。5日間でおよそ900人が資料館を訪れた。イベントの様子は、6月18日の昼のNHKニュースでも紹介された。1966（昭和41）年に制定された「海外移住の日」は、1908（明治41）年6月18日に第1回ブラジル移民船「笠戸丸」がブラジル・サントス港に到着した日に因んでいる。資料館では、2018年に定められた「国際日系デー」（6月20日※1868年、日本からの最初の海外移民集団である元年者がハワイのホノルルに上陸した日に因む）とともに重要な記念日となっている。



#### 特別展示「ブラジル・サッカーのサムライたち —日系スーパープレーヤー列伝—」

開催期間：6月7日～7月21日

概要：日本にプロサッカーリーグができるより、はるか前に、サッカー王国ブラジルで活躍した日系人選手がいた。彼らは、その後日本に来て、本場仕込みのプレーで人々を驚かせた。ブラジル日系二世のネルソン吉村が、帰化した初めての日本代表選手となり、ラモス瑠偉や田中マルクス闘莉王らが代表入りする先例となった。セルジオ越後、セイハン比嘉らは、引退後指導者となり、青少年にブラジル・サッカーの楽しさを伝えている。ワールドカップ・ブラジル大会を記念し、日系スーパープレーヤーたちの知られざる活躍を紹介した。



#### 特別展示「ララってなあに？ 日本を助けたおくりもの—ララ物資にみる海外日系人との絆—」

開催期間：8月2日～10月26日

概要：2014年8月、日本は戦後69年を迎えた。荒廃した国土と、食料をはじめあらゆる「モノ」が不足する中、日本を救おうと立ち上がったのは、強制収容を経験したアメリカ合衆国をはじめとする、海外の日系人だった。ララ（LARA：Licensed Agencies for Relief in Asia）の名で日本に贈られた食料や衣料、医薬品、山羊や乳牛などの救援物資は、当時の金額で約400億円。うち2割の80億円分が日系人によるものであったといわれる。東日本大震災で再び多くの救援物資を送ってくれた海外日系社会と日本との、現在までに繋がる絆を紹介した。8月19日と20日には「ララ・ツアー」を実施。特別展示の案内、戦後最初の給食の試食と横浜市内のララ関連施設などへの散策を行った。



#### 特別展示「マンガ！ Manga！ Mangá！ —日系人とマンガの世界—」

開催期間：12月13日～2月15日

概要：現在のMangaブーム以前から日系人とマンガの関係は始まっていた。日本人移民の歴史を描いた日本のマンガや外国のManga、日本のマンガが海外に渡りどのように変化し





2018

2019

2020

2021

2022

ているか。日系人を通して見たマンガの世界や、マンガが広がっていく中で日系人が果たしてきた役割等、「日系人とマンガ」をキーワードに、移住先国における Manga を紹介した。12月2日から1月11日まで、元日系社会シニア・ボランティアでラジオ・パーソナリティとして活躍中の鶴田俊美さんが描いた「マンガで分かる移民の話」をパネル展示。12月23日にはJICA横浜1階ギャラリーにて同氏によるトークライブを開催した。

### 特別展示「連れもて行こら 紀州から！ —世界にひろがる和歌山移民—」

**開催期間：**3月8日～5月10日

**協力・資料提供：**和歌山県、和歌山大学紀州経済史文化史研究所、和歌山県立図書館、和歌山市民図書館、公益財団法人和歌山県国際交流協会、和歌山県中南米交流協会、アメリカ村カナダ移民資料館、紀の川市教育委員会、串本古座高等学校、串本町教育委員会、串本町木曜島遺族会、御坊市役所、すさみ町教育委員会、すさみ町歴史民俗資料館、太地町歴史資料室、那賀移民史懇話会、テレビ和歌山ほか

**概要：**和歌山は、全国で6番目に多くの海外移住者を送り出した移民県。ハワイ、アメリカ西海岸、カナダ、オーストラリア、ブラジルなどへ渡り、移住先で、その国や地域の漁業、農業その他さまざまな分野の発展に尽力した。また、故郷へ送金し、当時の地域経済を支えていた。和歌山県民はどのような理由で移住し、新天地でどのような生活をし、さらに和歌山県移住者とその子孫たちが、故郷や移住先国にどのような貢献を果たしたのかについて紹介した。初日にオープニングセレモニーを開催。和歌祭御舟歌デモンストレーション（唐船御船歌連中）も披露された。



### 公開講座「日本人と海外移住」

2014年4月から、JICA横浜と日本移民学会の共同開催で、公開講座シリーズ（全12回）を2カ月に1度開催した。公開講座は地域・国別の概説とし、北中南米、ハワイ、南洋群島・東南アジア、満州、朝鮮半島、日本を扱い、それぞれの地域に渡った日本人移民・植民に関する専門家が、一般の方を対象に分かりやすく講義した。14年度は第6回までを実施した。



### 公開講座「在バンクーバー総領事が語る 神奈川・横浜とカナダ・バンクーバーとの交流史 —これまでの100年、これからの100年—」

**開催日：**6月7日

**講師：**岡田誠司（在バンクーバー総領事館総領事）

**共催：**神奈川県立国際言語文化アカデミア

**概要：**1887年にバンクーバー・横浜間の太平洋航路が就航して以来、多くの移民が横浜港から渡り、交易が行われた。今も多くの日系人が暮らすカナダ・バンクーバーは、横浜市と姉妹都市関係にある。両市のこれまでの関わりと今後の展望等についてお話をいただいた。



### 公開講座「『食』を通じて考える多文化共生 南北アメリカにおける日系社会と日本食」 （よこはま国際フォーラム参加企画）

**開催日：**2月8日

**講師：**基調講演 柳田利夫（慶應義塾大学教授）

**パネリスト：**飯野正子（津田塾大学前学長・名誉教授）、糸井輝子（白百合女子大学教授）、小野ナンシー・富美子（ブラジル・JICA日系研修員）、仲間リリアナ・クラウディア（アルゼンチン・同）

**概要：**2013年12月4日、「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録された。一方、日本人の海外移住とともに海を渡った日本食、移住者・日系人のものであった日本食が、いつしか移住先国において独自の進化を遂げ、根付いていった。それは日系社会が移住先国に融合し、新しい文化を創造した証でもある。日系社会を通じて伝わった日本食とその変容、日本におけるエスニックフードを通して、多文化共生のあり方について考察した。





## 2015年度

### 戦後70年・秋篠宮同妃両殿下ご来館・福岡移民展開催

#### 秋篠宮同妃両殿下がご来館

「海外移住の日」の6月18日に、秋篠宮同妃両殿下が来館された。秋篠宮殿下は、2006年9月以来2回目。妃殿下は初めてのご来館で常設展示と、「日ブラジル外交関係樹立120周年」記念特別展示「移民画家 半田知雄の世界—二宮家ブラジル移住60周年記念コレクション」を観覧された。

#### 資料館来館40万人を達成

2002年10月4日のオープンから数えて、9月11日に入館40万人目となる来館者を迎えた。2013年3月の30万人の来館より2年6カ月。20万人から30万人まで3年4カ月かかったのに比べ1年近く早かった。40万人目となったのは博物館実習で来館した関西大学の学生さん14人。



#### 企画展示「移民画家 半田知雄の世界—二宮家ブラジル移住60周年記念コレクション」

開催期間：6月6日～7月5日

概要：半田知雄は1917（大正6）年、11歳で父母とともにブラジルへ移住。コーヒー農園で働いた後、14歳でサンパウロ市に出て日本語新聞「伯刺西爾時報」の文選工として働きながら日本語とポルトガル語を学び、絵の修行を始めた。1935（昭和10）年サンパウロ美術学校を卒業し、画家を志す日系の仲間とサンパウロ美術研究会（聖美会）を結成。移民の生活を題材にした作品を多く残した。サンパウロ大学二宮正人教授より寄贈を受けた、半田知雄の油絵作品19点に加え、同時代の日系人画家高橋吉左衛門、大竹富江らの作品あわせて28点を展示し、ブラジルで高い評価を受ける日系芸術家の足跡を紹介した。6月21日には二宮正人氏による特別講演会を開催した。



#### 企画展示「終戦70年企画展示 海を超えたヒロシマ・ナガサキ」

開催期間：7月18日～9月27日

概要：2015年は、終戦70年。原爆投下からも70年になるが、広島、長崎で被爆し、北米・南米大陸に移り住んだ人々がいることを知る人はほとんどいない。メキシコ在住の映像作家／アーティスト竹田信平氏が2005年から8年以上をかけ、北米・南米に暮らす被爆者たち60人以上を取材。その体験談を収録し、写真やプロジェクションと音声などのマルチメディアを駆使した作品を制作し、移住の背景、現代の生活、精神的な痛み、彼らの発信活動などを、インタビューと合わせて紹介した。

8月8日には竹田氏を招き、パネルディスカッション「岐路の記憶を紡ぐ—Hiroshima, Nagasaki, 水俣—Collecting memories at historical crossroads—Hiroshima, Nagasaki, Minamata—」を実施。映画「ヒロシマ・ナガサキダウンロード」を上映した。8月14日には同氏とブラジル被爆者平和協会の森田隆氏、渡辺淳子氏、盆子原國彦氏を招いてトークイベント「ブラジルから：記憶のコミュニケーション」を開催した。



#### 横浜・バンクーバー姉妹都市50周年記念企画展示「TAIKEN 体験—日系カナダ人 未来へつなぐ道のり—」

開催期間：10月24日～2月7日

概要：1877（明治10）年にはじまるカナダへの日本人移民は、漁業や製材業などで暮らしていたが、第二次世界大戦時の強制収容など、厳しい時代を体験した。移住100周年を契機として、日系コミュニティ再建への関心が高まり、先祖の「体験」と日系カナダ人としての誇りを継承する活動が積極的に行われ





2018

2019

2020

2021

2022

ている。カナダの日系文化センター・博物館の協力のもと、日系カナダ人の歩んできた歴史と、未来への取り組みを紹介した。11月28日には、日系文化センター初代理事長を務めた、ゴードン門田氏の特別講演会を開催した。

### 企画展示「ルーツは福岡 夢は世界へ ～世界で活躍する福岡移民～」

**開催期間**：3月1日～6月5日

**概要**：福岡県の海外移住者の数は全国4番目に多く、北中南米9カ国21地域に県人会がある。福岡県では、移住者を送り出すと同時に、海外に暮らす福岡県人やその子孫と、常に未来を見据えた交流を行ってきた。福岡県からの海外移住には、県内の隠れキリシタンがブラジルに移住したことや、戦前のコロンビア計画移住は93%が福岡移民であるなど特筆すべき点が多く、また、移住先国で数多く有名人を輩出しているのも特徴の一つである。多彩で魅力ある福岡県の海外移住の歴史と海外福岡県人の現在の姿を紹介した。3月5日のオープニングセレモニーでは、小倉祇園太鼓（関東無法松会）などが披露された。



### 公開講座「日本人と海外移住」

2014年に引き続いて、4月より2カ月に1回、日本移民学会の共同開催で、公開講座シリーズ（全12回）を行った。2015年度は、第7回～第12回までを実施した。

### 公開講座 パネルディスカッション 「日本のペルー人—25年の歩みとその未来—」

**開催日**：7月25日

**共催**：APJ（ペルー日系人協会）・PJECA研究会

**後援**：JICA 横浜 海外移住資料館・KYODAI

**パネリスト**：ペドロ・マカベ（ペルー日系人協会会長）赤木妙子（目白大学社会学部教授）アナ・スエヨン（宇都宮大学国際学部准教授）**コメンテーター**：アルベルト・マツモト（IDEA NETWORK 代表）三田千代子（元上智大学教授）ロクサーナ・シンタニ（早稲田大学国際教養学部助教）**コーディネーター**：柳田利夫（慶應義塾大学文学部教授・JICA 横浜 海外移住資料館学術委員）

**概要**：南米日系人



の出稼ぎブームの始まりから25年。日本におけるペルー人社会も、地球規模での政治、経済、社会状況の激しい移り変わりに呼応して、それぞれの置かれた状況の中で種々の変遷を遂げてきた。

バブル経済下の労働力不足を補う形で始まった南米日系人の日本出稼ぎ25年の歩みを振り返り、在日のペルー人社会が果たしてゆくべき役割について考察した。

### 公開講座 パネルディスカッション 「日本のペルー人Ⅱ —二世の社会参加—」

**開催日**：10月24日

**共催**：APJ（ペルー日系人協会）・PJECA研究会

**後援**：JICA 横浜 海外移住資料館・KYODAI

**パネリスト**：森本昌義（海外日系人協会常務理事）木本結一郎（Kyodai Remittance）ペドロ・マカベ（ペルー日系人協会会長）**コメンテーター**：赤木妙子（目白大学社会学部教授）**コーディネーター**：柳田利夫（慶應義塾大学文学部教授・JICA 横浜 海外移住資料館学術委員）

**概要**：7月の第1回に続き、日本育ちの「二世の社会参加」をテーマに、ペルー、ブラジル、アメリカ合衆国、そして日本における、さまざまな「二世」たちの生活と社会参加を身近で経験してきた3人のパネリストに、日本の「ペルー系二世」が果たしうる役割と可能性についてお話を伺い、二世自身はもとより、日本社会に求められていることも含めた議論が展開された。



### 公開講座「『七転び八起き：アメリカへ渡った戦争花嫁物語』の上映と解説」 （よこはま国際フォーラム2016参加プログラム企画）

**開催日**：2月7日

**パネリスト**：Lucy Craft（映画制作者）安富成良（嘉悦大学元教授）土屋智子（日本女子大学専任講師）

**概要**：1950年代末までに4万人を超える女性が進駐軍兵士との結婚で渡米し、差別や偏見、言語や文化の差異などの障壁と闘いながら力強く生きてきた。戦争花嫁を母に持つ長女である3人のアメリカ人ジャーナリストが制作したドキュメンタリー『Fall Seven Times, Get Up Eight: The Japanese War Brides』（『七転び八起き：アメリカへ渡った戦争花嫁物語』）の上映と制作者の一人のLucy Craftさんによる解説。また戦争花嫁問題に詳しい安富成良氏・土屋智子氏を交えたパネルディスカッションを開催した。



## 2016年度

### リオデジャネイロ五輪 / 二つのオリンピック展・広島移民展他開催

#### 日本学生海外移住連盟OB会より 文献資料の寄贈

4月27日、日本学生海外移住連盟（学移連）OB会から、同連盟の活動を記録した報告書や記念誌など69点が当資料館に寄贈され、松田潤治郎会長から朝熊由美子館長へ目録が手渡された。学移連は、1955（昭和30）年に中南米に憧れ海外雄飛を夢見た学生による全国の大学サークルで組織され、最盛期には約70大学が加盟していた。その活動は1997（平成9）年まで続き、多くのOBが北中南米へ移住し、日系団体のリーダーとして活躍している。



#### 「大毎移民」黒田又蔵資料の寄贈式

「大毎移民」とは、1924（大正13）年、皇太子殿下（昭和天皇）御成婚記念事業として、大阪毎日新聞社（現毎日新聞大阪本社）が選拔し、渡航費を負担してブラジルへ送り出した60家族267名の移民団である。大毎移民の黒田又蔵氏のご遺族から、黒田氏へ贈られた勲五等瑞宝章、サンパウロ州フェルナンドポリス市の名誉市民証や大毎移民の契約書など、貴重な資料27点とアルバムが寄贈された。寄贈された感謝状等の資料群は、日系コミュニティにおける指導者としての活動が移住先国社会でどのように評価されたかをうかがい知る手がかりとなる貴重なものである。10月21日に行われた寄贈式には、ブラジルの黒田氏親族や日本在住の関係者が出席。寄贈の橋渡しをした二宮正人サンパウロ大学教授が、資料の時代背景を説明し、黒田氏とのエピソードを紹介した。



#### 企画展示「二つのオリンピック —スポーツがつないだ日系社会—」

開催期間：7月16日～9月25日

概要：リオデジャネイロ五輪は、オリンピック史上、南米大陸で初めて開催された大会となったが、アメリカ大陸各国の日系人は数年おきに集い、通称「日系オリンピック」と呼ばれる国際スポーツ親善大会を開催している。日本人移民は各国で、運動会をはじめ野球や相撲、陸上競技などを通じて次世代を育成し、日系人同士のつながりを大切にしてきた。日系社会におけるスポーツ活動と、五輪やプロの世界で活躍している日系アスリート、またオリンピックを舞台にさまざまな分野で活躍する日系人の姿を紹介した。9月25日には、リオ五輪聖火ランナーの一人としてサンパウロ市内を走った、聖火トーチ寄贈者の小川彰夫氏が来日し、聖火リレーにまつわるエピソード、リオ五輪での日系人の活躍、日系コミュニティの最新事情について講演した。



#### 企画展示「田島さゆり写真展 鏡像の祖国 —アルゼンチンの日系人たち—」

開催期間：10月15日～12月11日

概要：青年海外協力隊員としてブルガリアで活動経験があり、日系社会シニアボランティア随伴家族としてアルゼンチンへ渡った写真家の田島さゆり氏が、現地で日本人移住者の取材を重ね、撮りためた写真を展示。アルゼンチンに移住し、苦難を乗り越えてなお笑顔を見せる日本人移住者たちの写真を通して、アルゼンチン日系社会の「歴史」と「今」を紹介した。オープニングイベントでは、田島さゆり氏によるギャラリートークとアルゼンチンの日系二世歌手である大城クラウディア氏のミニライブを開催した。





2018

2019

2020

2021

2022

### 企画展示「ハワイの日系人のまつり —お正月とボンダンス—」

開催期間：12月23日～2月12日

概要：日本人の海外移住はハワイから始まった。今でもハワイの人口のおよそ20%は日系人だといわれている。ハワイの日系人の多くは、お正月には初詣をし、お餅をついておせち料理を食べて新年を祝う。6月から9月にかけて、毎週末、どこかでボンダンス（盆踊り）が行われ、日系人に限らずさまざまなルーツの人たちが楽しんでいる。ハワイの日系人の暮らしの中に今も息づく「日本」の慣習・文化を紹介した。



### 企画展示「広島から世界へ —移住の歴史と日系人の暮らし—」

開催期間：3月4日～5月28日

概要：広島県は100年以上前から多くの海外移住者を輩出した全国第一位の移民県である。ハワイやアメリカ大陸には28の広島県人会が存在し(2016年8月時点)、母県と交流している。本展示では、解説パネルに加え、広島市、広島県他より借用した標本資料により広島移民の歴史やその特徴を紹介した。3月4日にはオープニングイベントとして、バンクーバー朝日軍元選手を親族に持つジャズシンガーの上西千波氏によるミニコンサートを行った。



### 公開講座「海外渡航者の始まり 川上音二郎とその時代」

開催日：5月15日

講師：長谷川法世（漫画家）

概要：福岡県出身の漫画家長谷川法世氏による講演。同氏の作品『がんがらがん』は、福岡県からアメリカ合衆国に移住した家族の3世代にわたる物語を通じ、明治時代の移民のはじまりから第二次世界大戦を経て、戦後に至るまでに日系アメリカ人がたどった道のりを描いている。取材を通じて感じたアメリカ日系社会のこと、知り合



た日系人の話や、1899（明治32）年にアメリカ合衆国本土で、1900（同33）年にはパリ万国博で公演するなど、海外渡航の先駆者となった福岡県出身の劇作家で役者の川上音二郎とその世界を紹介した。

### 公開講座「ブラジルにおけるマンガ事情 —日系人と日本文化の果たした役割—」

開催日：5月29日

講師：佐藤フランシスコ紀行（ブラジル漫画協会会長）

概要：日本のマンガがブラジル日系社会で読まれ、日系人によって日本のマンガスタイルがブラジルのマンガに影響を与えた事例、ブラジル漫画家協会の設立などを紹介した。



### 公開講座「日系人と第二次大戦 —ハワイの日系アメリカ人を中心に—」

開催日：1月14日

講師：すずきじゅんいち（映画監督）

概要：第二次世界大戦時の日系アメリカ人について描いた長編ドキュメンタリー「東洋宮武が覗いた時代」「442日系部隊」「二つの祖国で」3部作を制作した、すずきじゅんいち監督による講演。日系アメリカ人をテーマとした作品を制作したきっかけや取材中に知り合った日系人との交流、故ダニエル・イノウエ上院議員への出演交渉の裏話、現地アメリカでの上映会の反応などを語った。講演終了後、これら3部作をまとめた中編映画「誰も知らない日系アメリカ人の歴史」（40分）の上映を行った。



### 公開講座「大泉町発多文化共生まち映画 『サンゴーヨン☆サッカー』の上映 （よこはま国際フォーラム 2017 参加プログラム）

開催日：2月4日

パネリスト：宮地克徳（プロデューサー）藤橋誠（映画監督）  
平野パウロ（出演者）

概要：人口の15%以上が外国人、うち7割がブラジル人という群馬県大泉町を舞台とし、国境を超えた友情、家族愛を描いた映画「サンゴーヨン☆サッカー」を上映。終映後、プロデューサー、監督、出演者によるミニトークを開催。撮影秘話や大泉町の様子、多文化共生の現状等についてお話しいただいた。



## 2017年度

### メキシコ日本人移住 120 周年

### 記念展示・高知県移民展示を開催

#### 資料館入館50万人を達成

8月25日に入館 50万人を達成。2015年9月の入館40万人達成から1年11カ月。30万人から40万人までは2年6カ月であった。50万人目の来館者となったのは、夏休みの校外活動で訪れた神奈川学園中学校（横浜市神奈川区）の生徒さんら7人。多文化共生社会について考える総合学習の一環で訪問した。



#### トリップアドバイザー 「エクセレンス認証 2017」を受賞!

世界最大の旅行サイト「トリップアドバイザー」が、優れたサービスを提供していると旅行者から高く支持された施設に与える「エクセレンス認証2017」を受賞した。2011年に開始され7回目となる「エクセレンス認証」は、同サイトに掲載されている世界中の宿泊施設、観光施設（観光名所・ツアー含む）、レストランを対象とした世界共通の指標。「エクセレンス認証」を獲得する認定基準は、過去1年間においてトリップアドバイザーの総合評価が5段階中4以上を維持していること、一定数の口コミ数を獲得していること、同サイトに継続して掲載されていることの3点。

#### 企画展示 写真展「ハワイ日系人の歩み」

開催期間：6月24日～9月18日

概要：ハワイに渡った初期の日本人移民の暮らしや日系二世部隊の活躍など、ハワイ日系社会がたどった道のりを、ハワイの退役軍人とその家族で構成する「二世ベテランレガシー」が制作するハワイ日系社会の歴史を記録した写真約100点と解説文（日本語・英語併記）で構成するパネル26枚によ



り紹介。あわせて、当館が所有するハワイ移民に関する標本及び文書資料を展示した。

展示初日のオープニングセレモニー・イベントでは、ウクレレ奏者のクウレイ・マモ氏やフラダンスチームを迎え、ミニコンサートを行った。

#### 日本人メキシコ移住120周年記念企画展示 「メヒコの心に生きた移民たち」

開催期間：9月30日～12月24日

概要：榎本武揚により1897年に始められたいわゆる「榎本殖民団」を嚆矢とし、大の親日国として知られるメキシコへの日本人移民の歴史は、南米のペルーやブラジルよりも古い。メキシコが親日国となった背景には、初期日本人移民が築き上げた信頼の礎があることを、その歴史の概要を紹介しつつ分かりやすく展示した。メキシコ「あかね記念館」の全面的協力を得て、同館所蔵データを活用し、さらに、外務省外交史料館所蔵外交文書やメキシコ移民のトランク等の標本資料を展示した。



#### 企画展示「南国土佐をあとにして 一海を渡った『いごっそう』」

開催期間：2月10日～5月27日

概要：高知県出身の著名な移住者に焦点を当てその背景とともに紹介する19枚のパネルを展示した。標本資料として、ハワイの「マキキ聖城 キリスト教会」および「カフェーパウルスタ第一号箕面店」の模型、ブラジルへの日本人移民送出に奔走した水野龍が拓務・外務大臣宛てに送った書簡控え、竹村殖民商会の移民業務関係資料、ハワイ移民に関連する資料、及び当館所蔵のパラグアイ移民関連資料を展示した。

展示初日のオープニングセレモニー・イベントには、高知県イメージキャ





2018

2019

2020

2021

2022

クター「くろしおくん」も登場。高知県物産展が行われたほか、よさこい踊りパフォーマンスが披露された。

### 公開講座 「パラグアイの魅力」

開催日：4月22日

講師：前原弘道（パラグアイ日本人会連合会 会長）

概要：開催中の企画展示「広島から世界へ移住の歴史と日系人の暮らし」の関連イベントとして、首都アスンシオンから南東へ30kmのイタ市に御影城（みかげじょう）を建設した、パラグアイ日本人会連合会の前原弘道会長による公開講座を開催した。パラグアイに日本の城を建てた動機や、パラグアイの魅力についてお話を伺った。



### 公開講座 「ハワイ移民の源流 広島県」

開催日：5月13日

講師：川崎壽（ハワイ移民資料館 仁保島村館長）

概要：広島展関連公開講座第2弾として、ハワイ移民資料館仁保島村館長である川崎壽氏に講演いただいた。なぜ広島県が全国第一位の移民県となったのか、ハワイはなぜ移民を必要としたのかなど、官約移民を中心としたハワイ移民の歴史についてお話を伺った。



### 公開講座 特別上映会 「二つの祖国で日系陸軍情報部」 & トークイベント

開催日：7月30日

講師：すずきじゅんいち（映画監督）、バーズ・ヤマシタ「ハワイ日系人の歩み」実行委員長

概要：太平洋戦争時、日本とアメリカ合衆国で差別を受けた日系二世たちの知られざる歴史に迫るドキュメンタリー「二つの祖国で 日系陸軍情報部」の特別上映を開催した。上映後はすずき監督及びバーズ・ヤマシタ氏によるトークイベントを行った。



### 公開講座 特別上映 「Go for Broke! ハワイ日系二世の記憶」 & トークイベント

開催日：8月27日

講師：松元裕之（映画監督）

概要：プランテーション時代の日本人移民の様子や、移民差別、第二次世界大戦時における厳しい戦闘体験、戦後のハワイ社会への貢献など、ハワイの日系二世へのインタビューを通して「ハワイに残るもう一つの日本史」を映し出したドキュメンタリー「Go for Broke! ハワイ日系二世の記憶」を上映した。上映後には、松元裕之監督のトークイベントを行った。



### 公開講座 「日墨関係史と日本人移住の意義」

開催日：11月18日

講師：川路賢一郎（メキシコ移住研究者・元JICAメキシコ事務所長）

概要：メキシコ移住研究者で元JICAメキシコ事務所長の川路賢一郎氏をお招きし、メキシコへの日本人移民史を通じた日本と親日国メキシコとの関係について講演いただいた。



### 公開講座 映画 「100年の鼓動—ハワイに渡った福島太鼓—」 上映と岩根愛ミニトーク（よこはま国際フォーラム2018 参加プログラム）

開催日：2月3日

講師：岩根愛（写真家）

概要：ハワイで先祖から受け継いだ「フクシマオンド」を演奏し、次世代に継承する和太鼓グループ「マウイ太鼓」に密着して、ハワイ日系人のたどってきた道のりとともに描いたドキュメンタリー「100年の鼓動」を上映。上映後、ハワイと福島をつなぐ活動を行っている写真家の岩根愛氏によるトークイベントを開催した。





## 2018年度

### ハワイ元年者150周年 ブラジル移住110周年 両記念展示を開催

#### ハワイ元年者150周年

我が国海外移住の始まりともいわれるハワイ元年者150周年を記念して、ホノルル市で6月6日、海外日系人協会主催の第59回海外日系人大会が開催された。同大会のハワイ開催は元年者100周年に続き50年ぶり。式典ではJICA北岡伸一理事長が記念講演を行った。翌7日には現地実行委員会が主催する元年者150周年記念式典が行われ、記念シンポジウムでは元年者の子孫7人が壇上に紹介され、八世までが誕生し日系という自身のルーツに誇りを持っていること等を次々に語った。両イベントには日本から秋篠宮同妃両殿下がご臨席され、15カ国から約300名が出席した。

#### 全米日系人博物館

##### ノーマン・ミネタ理事長らが来館

9月19日、全米日系人博物館からノーマン・ミネタ理事長、アン・バロウズ館長兼CEOほか4名が当資料館を初めて訪れた。ロサンゼルスにある全米日系人博物館は、日系アメリカ人がたどってきた歴史を保存し伝えるため1992年に開館。理事長であるノーマン・ミネタ氏は、米国のクリントン、ブッシュ両政権で商務長官、運輸長官の閣僚ポストを歴任した日系二世で、第二次世界大戦中は家族とともに強制収容され、戦後は日系人の地位回復運動に努めた。



#### 企画展示「日伯110年の絆—在日ブラジル人—在日30年をむかえた日系人の歴史と日常」

**開催期間**：6月16日～9月2日

**共催**：在東京ブラジル総領事館

**概要**：1990年代の在日日系ブラジル人の、異国で直面する苦難や母国ブラジルへの郷愁を抱える日常の再現、日本で活躍する日系ブラジル人の肖像など、日本在住の日系ブラジル人写真家ジュニオール・マエダ氏の作品を紹介。あわせて、入管法改正当時のパスポートや新聞雑誌なども展示し、ブラジル移住110年の歴史とともに在日日系ブラジル人の30年を振り返った。

展示オープニングには、ブラジル総領事館主催のカクテルパーティーが行われた。



#### ハワイ日本人移住150周年記念企画展示 「元年者に始まるハワイ移民と 邦字紙が果たした役割」

**開催期間**：10月6日～12月24日

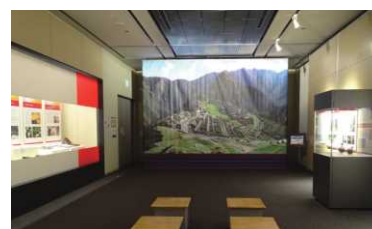
**概要**：150年前の1868年、横浜から出港した約150人の日本人がハワイへ到着した。彼らはのちに「元年者」と呼ばれた。本展示では、元年者に始まったハワイ初期移民の歴史とハワイで発行された日本語新聞が日系社会で果たした役割を紹介。外務省外交史料館が所蔵する条約書や元年者に関する貴重な史料とあわせて展示した。



#### ペルー日本人移民120周年記念企画展示 「マチュピチュ村を拓いた男 野内与吉とペルー日本人移民の歴史」

**開催期間**：3月2日～5月26日

**概要**：年間100万人もの観光客が訪れるペルーの世界遺産マチュピチュ遺跡。ペルー日本人移民120周年にあたり、その玄関口であるマチュピチュ村を創り、発展に尽くした日本人移民、野内与吉に焦点を当て、移民たちの足跡と、ペルー考古学研究の発展に寄与した日本人や、現在のペルー日系社会などを紹介した。外務省外交史料館所蔵の条約書や移民契約書など、貴重な外交史料をあわせて展示した。





2018

2019

2020

2021

2022

展示開始前日には、野内与吉資料館代表理事の野内セサル良郎氏やフォルサイト駐日ペルー大使等来賓を招いて、オープニングセレモニーを開催した。

### 公開講座「高知県人はなぜ海を渡り新天地を求めたのか？ —高知県移民群像—」

開催日：5月12日

講師：中村茂生（高知大学 非常勤講師）

概要：明治以降、多くの高知県人が移民として海を渡り、世界中のさまざまな地域を目指した。2016年、そうした人物をとりあげて、約1年間にわたり、高知県下の博物館、美術館が連携して企画展を開催した。奥村多喜衛、水野龍、崎山比佐衛など各館で取り上げられた人物を紹介し、高知県人と移民の関係についてお話を伺った。



### 公開講座「在日30年の体験から見たブラジルと日本」

開催日：7月8日

講師：斎藤俊男（株式会社ティー・エス会長）

概要：1990年来日した斎藤俊男氏は、さまざまな仕事を経験した後、95年に人材派遣会社を設立。その後、農業ビジネスにも参入し、日本国内最大の深谷ネギ生産者として成功を収めた。在日ブラジル人学校「ティー・エス学園」を創立したほか、在日ブラジル学校協議会の理事長として、ブラジル人子弟の教育環境の向上に努めている。30年にわたる日本での活動を通して見た、在日ブラジル人コミュニティの現状や課題、存在意義などについてお話を伺った。



### 公開講座「バックヤードから語る移民史 ～外交史料こぼれ話～」

開催日：11月3日

講師：柳下宙子（元外務省外交史料館課長補佐）

概要：外務省外交史料館で30年以上にわたり外交史料の収集、整理に携わった経験、資料調査に関するエピソード、外交

史料館より借用し展示している条約書やパスポートなどの見どころについてお話しいただいた後、企画展示室にて展示資料について解説いただいた。



### 公開講座「NHK ドキュメンタリー制作者が見た“日系アメリカ人 栄光と苦難の150年”」（よこはま国際フォーラム 2019 参加プログラム）

開催日：2月2日

講師：小山靖史（NHKエンタープライズ・プロデューサー）

概要：NHKのスペシャル番組で、数多くの日系アメリカ人関連の企画・制作をしてきた小山靖史氏が、2001年に起きた9.11アメリカ同時多発テロ当時に運輸長官だったノーマン・ミネタ氏など、複数の日系アメリカ人に焦点を当て、番組映像を見ながら彼らが経験した栄光と苦難について語った。



### 公開講座「ペルー日本人移民の歴史と マチュピチュ村を創った野内与吉の生涯」

開催日：3月23日

講師：野内セサル良郎（日本マチュピチュ協会会長/一般社団法人野内与吉資料館代表理事）

概要：1917年、22歳で福島県からペルーへ移住した野内与吉は、マチュピチュへの鉄道建設に携わり現地に定住。マチュピチュ初の大型木造建築となる「ホテル・ノウチ」を建設。郵便局や行政機関にホテルを提供し、水力発電所の建設などで地域住民の信頼を得て、1939年にマチュピチュ集落の最高責任者である行政官、1948年には初代村長を務めた。与吉の孫にあたるセサル良郎氏に、与吉の功績とペルー日本人移民の歴史を語っていただいた。また公開講座終了後に、野内会長による企画展示解説を行った。





## 2019年度

### ペルー・ボリビア移住120周年 記念展示を開催

#### 日本人移住120周年記念式典 眞子内親王殿下がペルーとボリビアを公式訪問

秋篠宮眞子内親王殿下が2019年7月9日から22日までの日程でペルーとボリビアを公式訪問し、両国で開催された日本人移住120周年記念式典に臨席された。ペルーの首都リマで開催された同式典には日系人約500人が参列。眞子内親王殿下は、ペルーと日本の架け橋である約10万人の日系人に敬意を表され、その文化的、社会的活動の継続を賛美された。また式典に先立ち、ペルーの日系最高齢者を含む100歳以上の4名とお会いになり、ボリビアでも、サンファン移住地とオキナワ移住地で日本人移住者らと交流された。

眞子内親王殿下は両国ご訪問前の4月22日、当館で開催中のペルー日本人移民120周年記念の企画展示を視察され、両国訪問に備えられた。

#### ブラジルの国民的漫画家ソウザ氏らが来館

4月16日、ブラジルの国民的漫画家マウリシオ・デ・ソウザ氏が来館した。ソウザ氏は新聞記者を経て、1970年より漫画『モニカ&フレンズ』の連載を開始。同シリーズは現在に至るまで、ブラジルで広く人気を博している。ソウザ氏夫妻とマウリシオ・デ・ソウザ・プロダクション一行は、館内を見学した後、熊谷晃子館長らと対談し、JICAの取り組みについて説明を受けた。ブラジルと日本の交流や友好をテーマに描かれた『モニカ&フレンズ ブラジルと日本』日本語版とポルトガル語版それぞれ1,000部ずつが当館へ寄贈された。同氏が制作したアニメーションは、現在リニューアルされた常設展示室で公開されている。



#### 即位礼招へい日系人グループの訪問

10月24日、天皇陛下即位礼招へい海外日系人の一行が当館を訪問した。フィリピン、パラオ、アメリカ合衆国、カナダ、

コロンビア、アルゼンチン、ウルグアイ、ブラジル、ペルー、それぞれの日系社会を代表する17名は、ゆっくりと館内を見学しながら、自身や家族の歴史を振り返った。



#### 第一回ハワイ官約移民・大槻幸之助氏の資料寄贈式

第一回ハワイ官約移民大槻幸之助氏の資料(約700点)は、15年にわたり同氏ご子孫から寄託を受けてきた。1885年のハワイ渡航期の状況がわかる貴重な資料であり、当館内での活用のほか、国立歴史民俗博物館(千葉県佐倉市)で10月~12月にかけて開催された企画展示「ハワイ:日本人移民の150年と憧れの島のなりたち」をはじめ、外部からの多数の貸し出しにも応えてきたが、これらを当館に寄贈していただくことになり、11月6日に幸之助氏の孫にあたる大槻統さんと瀧澤幸さんら4人にお越しいただき、資料の寄贈式ならびに感謝状の贈呈を行った。



#### 第一回和歌山県人会世界大会開催

和歌山県で初となる「県人会世界大会」が11月24日、県民文化会館で開催され、国内各地の和歌山県人会をはじめ、過去に和歌山県から海外へ移住した人たちの子孫などで行く海外県人会などからおよそ2,000人が出席した。和歌山県は移民を送り出した数が全国で6番目に多い移民県。これまで北米や中南米、オーストラリアなどに約33,000人が移住している。海外からは移住者・日系人8カ国11団体、約280人が参加した。



2018

2019

2020

2021

2022

## 来館 60 万人達成

12月6日、来館60万人目となった横浜市戸塚区の公文国際学園中等部1年生の生徒さんたちを迎え、記念式典を行い、熊谷晃子館長より感謝状と記念品を贈呈した。50万人達成は2017年8月25日。



## 企画展示「コーヒーが結んだ日系人と日本」

開催期間：6月29日～10月6日

概要：日本におけるコーヒーの普及は、海外に渡った日本人移民と密接な関係があった。100年以上前にブラジルへと渡り、日本人移民が収穫していたコーヒーの一部が、日本にまで送られてモダンなカフェで日本人によって飲まれていた。ほぼ時期を同じくして、ハワイのコナでも日本人移民がコーヒー栽培に従事していた。ブラジル、ハワイにおけるコーヒーの歴史、日本人移民との関わりや移民が果たした貢献などについて紹介した。



## 企画展示「ボリビアに生きる —日系人の生活とその心—」

開催期間：11月2日～2月2日

概要：ボリビアにおける日系人は、約13,000人と推測されている。ラパス市やサンタクルス市などの大都市や、戦後建設されたサンファン移住地、オキナワ移住地には大勢の日系人が在住している。初期移民はペルーから転住した単身者が主流だったが、戦後、二つの日本人移住地が建設され、計画移民が開始された。そこでは助け合いや協働の精神が強く息づいている。これら多様な日系人へのインタビュー映像を通して、ボリビアに生きる日系人の生活と日系コミュニティに生き続ける日本人の心を紹介した。



## 公開講座「カフェパウリスタ、 その始まりと現在（いま）」

開催日：9月1日

講師：長谷川勝彦（株式会社カフェパウリスタ社長）

概要：ブラジルのサンパウロ州政府より日本でのコーヒー普及を託された水野龍は、ブラジルコーヒー宣伝のために銀座で「カフェパウリスタ」をはじめた。現在同社社長である長谷川氏に、カフェパウリスタ社の歴史や、ブラジルでのオーガニックコーヒーの取り組みなど、カフェパウリスタの過去と現在をお話いただいた。終了後にはカフェパウリスタ社提供で同社「森のコーヒー」の試飲会を開催した。



## 公開講座「映画『ガイジン—自由への道』上映会」

開催日：10月5日

概要：企画展示「コーヒーが結んだ日系人と日本」に関連して、日本からブラジルへ渡った初期移民のコーヒー農園での生活を描いた映画「ガイジン—自由への道」の上映会を開催した。同作品は日系ブラジル人三世の映画監督ズカ・ヤマザキ氏による1980年の長編デビュー作で、同年のカヌ映画祭で国際批評家連盟賞を受賞している。日本未公開。



## 公開講座「日本人ボリビア移住 120 周年を迎えて」

開催日：11月17日

講師：安仁屋滋（ボリビア日系協会連合会事務局長）

概要：ボリビア日本人移住120周年を迎えて、戦前移民の子孫は六世、戦後移住者は四世が誕生している。日系社会の変遷を踏まえ、日本人移住者の足跡と、ボリビア国内の政情、将来の日系社会像等について、ボリビア日系協会連合会事務局長の安仁屋氏にお話いただいた。





## 2020年度

# 新型コロナ・パンデミックで臨時休館 オンラインイベント実施 / 熊本移民展開催

### 第一回JICA海外移住懸賞論文 授賞作品発表

日本国内に急増する外国人とのより良い共生が課題となるなか、日本人の海外移住150年以上の歴史に対する理解と関心を高めることを目的に、2019年度に創設した「JICA海外移住懸賞論文」は、「中南米地域の邦字新聞を活用した日本人移住に関する諸研究」をテーマに募集された。第一回は、最優秀賞1名、優秀賞1名、特別賞1名が選出された。

### 新型コロナウイルス感染症パンデミックで臨時休館

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、2020年2月28日より7月20日まで臨時休館とした。3月～6月にかけて開催予定だった企画展示「くまモンと学ぼう！熊本移民の歴史と活躍—こぎゃんすごか、わさもんと肥後もっこす—」は、期間を変更し、7月21日～10月25日までの開催となった。いわゆる、ゆるキャラの走りであり、高い人気を誇るくまモンを呼び、集客イベントを計画していたが、時節柄かなわず、企画展をくまモンが見学する広報ビデオの撮影にとどめた。



### コロナ禍でもできることを—活発化する資料館オンラインの取り組み—

コロナ禍で、さまざまなイベントが中止または延期などの影響を受けた。長期にわたる臨時休館や、広報活動の縮小などで、来館者数も激減した。そのような状況下、対面で行うイベントに代わり、オンラインによる取り組みを強化・実施した。

9月からオンライン講演会を開催。2019年にリニューアル

されたペルー日本人移民史料館の展示の見どころや、ブラジルのコロナ禍の現状、第一回JICA海外移住懸賞論文の受賞者の特別講演など、毎月異なるテーマで講師の方々に講演いただき、22年度までほぼ毎月連続で実施していた。資料館来館者数は減ったが、オンラインによる取り組みがこれまで来たことのない方々との接点となり、新たな顧客を獲得し新規来館に結び付くなど副次的な効果を上げた。



### 企画展示

## 「くまモンと学ぼう！熊本移民の歴史と活躍—こぎゃんすごか、わさもんと肥後もっこす—」

開催期間：7月21日～10月25日

概要：熊本県は、広島、沖縄に次いで第三位の海外への移民送出数を誇る移民県となっている。1885年のハワイへの第





2018

2019

2020

2021

2022

二回官約移民に始まり、戦前期には68,245人が熊本県から海外へ移住した。世界へ広がった熊本移民は、移住先でリーダーとなる人材を多く輩出している。

「移民の父」と呼ばれる上塚周平は、ブラジル第一回移民船「笠戸丸」に総監督として乗船し、全国からの移民を率いて自らもブラジルへ移住、現地での植民地建設に一生を捧げ、画家のマナブ間部は世界各地で個展を開催し、ブラジルを代表する画家となった。展示では熊本移民の歴史と熊本出身の偉人を紹介し、移民宿「熊本屋」の再現展示をはじめ、上塚周平の功績を故郷熊本県で次世代へ語り継ぐ顕彰会の活動、さらに熊本県の国際交流事業なども紹介した。わさもんは、新しい物好き、肥後もっこすは、武骨な熊本男児の気性を表した言葉。

### 企画展示「シアトルのハントホテル —日本語学校の知られざる歴史 1945-1959—

**開催期間**：11月21日～3月28日

**概要**：米国シアトルにあるワシントン州日本文化会館は、1902年に創立されたアメリカ大陸最古の日本語学校「シアトル国語学校」であった。その日本語学校が強制収容で、居所を失った人々のホテルとして使われていたという知られざる歴史を紹介した。展示では、このハントホテルに実際に居住した日系人の体験を辿り、インタビューや証言をもとに、シアトル日本語学校と日系コミュニティの歴史を掘り起こし紹介した。



### 公開講座「日系人アイデンティティとの再会 —尺八を通して叶えた、熊本におけるルーツ探し—

**開催日**：10月3日

**講師**：涿上ラファエル広志（尺八奏者）

**概要**：本講座は4月12日に予定されていたが、新型コロナ

ウイルス感染拡大防止の観点から、開催日を上記日程に変更。感染対策として、定員を20名限定とし、座席の間隔を十分にとるなど、密を避ける対策をしながらの開催となった。

講師の涿上氏は、自身が体験したルーツ探しの旅を多数の写真や動画を交えて発表。後半のミニコンサートでは、涿上氏の尺八の演奏に、ゲストのブラジル日系三世、米谷麻梨氏の三味線、歌と合わせて民謡や唱歌が披露された。

本講座の内容はYouTubeにて公開中。



### 公開講座「シアトル日本町と ワシントン州日本文化会館」の紹介

**開催日**：1月31日※Zoom ウェビナーでの開催

**講師**：中村有理沙（ワシントン州日本文化会館）

**概要**：ワシントン州日本文化会館の日本人スタッフ中村有理沙氏に、オンラインでシアトルから講演いただいた。中村氏は、日本人がシアトルへ移住した歴史から、現地での生活、第二次世界大戦中の多くの強制収容など、日系人が辿ってきた道を分かりやすく解説し、戦後収容所から引き揚げてきた日系人の多くが、住む場所もなく、日本語学校が一時宿泊施設として利用され収容所があった地名から「ハントホテル」と呼ばれていたことなども紹介した。



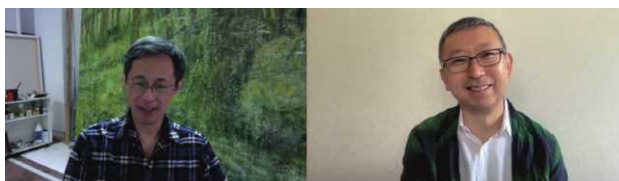


## 2021年度

# 東京五輪無観客開催・ミニ展示 日系人のレシピ展開催 / リニューアル検討・工事開始

### 6月20日国際日系デー・オンライントークショー 「アーティスト 大岩オスカル × サンパウロ、東京、ニューヨーク さすらうニッケイ・アイデンティティ」

6月20日の国際日系デーを迎え、公益財団法人海外日系人協会と共催で、ブラジル日系二世のアーティスト、大岩オスカルさんと、ブラジル日系三世で武蔵大学教授のアンジェロ・イシさんに、ニューヨークと東京を結んで、グローバルに活動する日系人としてのアイデンティティや、若い世代の日系人へのメッセージなどを語っていただいた。オスカルさんは「両親がブラジルに移住した日本人で、子どもの自分がその環境で育ってきた影響は大きい」としつつも「日本人であろうがブラジル人であろうが他の国の人であろうが、楽しくコミュニケーションをとって、個人的なつきあいや、仕事ができればいい」「教育が重要。教育があれば、人はどこへ行っても、必死でそこで頑張るやり方を覚えていく。やる気があれば、人間の頭には、同時にいろんなことができる能力があると思う」と語った。対談は、海外日系人協会 YouTube チャンネルで公開している。



### コロナ禍で、オンラインイベントが加速

コロナ禍で、外出制限が続く中、2020年度に引き続き Zoom ミーティングを利用したオンライン講演会を毎月実施。パラグアイの日系二世女性による移住地や伝統工芸紹介、世界に活躍の場を広げるブラジル日系二世のアーティストが語る自身の日系アイデンティティ、日本で僧侶として活動するブラジル人の異文化体験など趣向を凝らしたが、なかでも、3回連続でサンパウロ人文科学研究所が実施した「多文化社会ブラジルにおける日系社会の実態調査」の成果発表「世界最大の日系人コミュニティの実像—440カ所のリアルボイス」は300人を超す参加登録と200人以上の参加を集め、

大きな反響を呼んだ。さまざまな切り口で実施するオンライン講座は、「海外移住」という限られたイメージを払拭し、より多くの人々の興味に訴え、それらを引き付ける窓口となった。



### 企画展示「日系人のレシピ —受け継がれる日本の味と家族の記憶—

開催期間：4月27日～11月21日

概要：移住先各国で発行されているレシピ集には、異郷の地において家族の食卓を守った女性たちのさまざまな料理への工夫や、家族・コミュニティへの貢献が記録されている。本展はキックマン国際食文化研究センターの協力のもと、当館で収集したレシピ集の一部を紹介し、日系社会における食の変遷や特徴、また各国の日系人の食卓を、パネルや実物資料等で紹介した。来館者からは「食に関する展示には興味がある。日本の伝統を守っている現地の日系の方々への思いがすばらしい」「今回紹介されている食事に自宅でチャレンジしたい！」などの感想が寄せられた。





2018

2019

2020

2021

2022

### ミニ展示「東京オリンピック・パラリンピック 開催記念 スポーツがつないだ日系社会」

**開催期間**：7月20日～9月12日

**概要**：2021年に開催された、東京オリンピック・パラリンピックに合わせ、常設展示室内及び2階廊下にてミニ展示を開催した。2016年に開催した企画展示「二つのオリンピック スポーツがつないだ日系社会」のパネルを中心に、日系社会におけるスポーツ活動と日系アスリートの活躍について紹介。また東京オリンピック聖火トーチを借用し、当館所蔵の2016年リオオリンピック聖火トーチとともに展示した。



### 公開講座「しょうゆ 国境を越えてひろがる日本の味」

**開催日**：11月7日※Zoom ウェビナーでの開催

**講師**：山下弘太郎（キッコーマン国際食文化研究センターセンター長）

**概要**：日本の風土と食生活の中で生まれた「しょうゆ」の起源から、キッコーマン醤油の歴史・海外展開などについて丁寧に解説いただいた。また、第二次世界大戦中に強制収容されていた日系人に、救恤品（きゅうじゅつひん：困っている人々への支援品）として醤油などが贈られたことが、戦後、感謝のしるしとして、海外から日本への支援物資（ララ物資）に繋がっていることも紹介いただいた。参加者からは「醤油が江戸時代から海外に輸出されていたなんて知らなかった」「醤油についてさまざまな観点から触れられていて非常に勉強になった」などの感想が寄せられた。



## 邦字新聞は貴重な情報源 — 利活用に向けた調査と保存活動 —

**海**外へ雄飛した日本人やその子孫たちは、その足跡として、非常に多くの書物を遺してきました。書籍、日系・日本人会の名簿や議事録、書簡や行事のパンフレットなど、その種類もまた多岐にわたります。これらに含まれる文字情報は、当時の現地の生活を知るための貴重な情報源です。

中でも新聞は、その日読まれれば捨てられる媒体であり、目的上素材の品質も書物に劣る資料です。特に戦前に発刊された邦字新聞は、その散逸が危ぶまれています。そのような中、1946年に創刊され戦後のブラジル日系社会の様子を伝えてきたサンパウロ新聞が2019年1月1日号をもって廃刊となり、邦字新聞の重要性がよりクローズアップされるようになりました。

以上の経緯から、当館では邦字新聞を中心とした定期刊行物を対象に、各紙・誌の基礎データの収集、国内外の各機関における所蔵調査、未発見の資料・巻号の探索を行っています。

2023年1月現在は、中南米各国で発刊された定期刊行物に焦点を絞って活動しています。

2019年9月の調査開始当初は、調査により新たに発見された資料に対し、デジタル化による保存を行うことも主目的の一つでした。しかしながら、特に海外に関して、2020年初頭からはじまった新型コロナウイルス蔓延の影響により、必要な調査や作業が継続不可能となりました。

このため、直近の活動においては、文献等で存在が確認できていない邦字新聞等、あるいは発刊の事実を確認されている一方で、所蔵が確認されていない邦字新聞等の探索を主としています。

活動の重点を絞る一方、調査の対象を邦字新聞から拡大し、現地の日系二世や日系三世が現地語で発刊した新聞や、邦字新聞以前に創刊されていた雑誌、会報類等の一部も主要な調査対象に含めることとしています。

2020年2月下旬～3月上旬にかけ、ペルー、アルゼンチンを、2022年5月にはメキシコをそれぞれ訪問し、現地の国立図書館等を含めた諸機関の所蔵調査を行いました。現地の日系社会からの協力の下、これまで存在が知られていなかった資料や、日本では所蔵が確認されていなかった巻号を各国で発見しています。

これまでに得られた調査結果を基礎とし、日本人移住の歴史への理解をより深められるような資料保存及び利活用へと展開していければと考えています。



## 2022年度

### リニューアルオープン / ジョージ・タケイ氏来館 / 沖縄移民展第2弾開催 / 秋篠宮皇嗣同妃両殿下、悠仁親王殿下、上皇上皇后両陛下ご来館

#### 開館から20年… 海外移住資料館リニューアルオープン！

開館20周年を機にリニューアルを行っていた、当館常設展示室が4月26日にオープンした。4月25日にはオープニングセレモニーが開催され、来賓・関係者約40名が参加した。井本佐智子JICA理事は「学校関係者・学生のみならず地域の方にもご来館いただき、貴重な日本人移住者の足跡を知り、そこから多文化共生に向けた学びを深めることができるよう、資料館をより開かれたものとするための努力をしています」と述べた。来賓による祝辞とテープカットのあと、グループに分かれて内覧会が実施された。



#### 日系人の名誉回復に尽力した元米運輸長官 ノーマン・ヨシオ・ミネタ氏逝去

アメリカ合衆国で日系人としてはじめて閣僚を務めた全米日系人博物館理事長のノーマン・ヨシオ・ミネタ氏が、5月3日に亡くなった。第二次世界大戦中に強制収容された経験をもつミネタ氏は、政治家の道を歩み、1988年に、アメリカ政府が、当時の日系人の強制収容政策の誤りを認め、謝罪と補償をした市民の自由法の成立に尽力した。2000年にクリントン政権で商務長官に就任。アジア系アメリカ人初の閣僚となった。その後のブッシュ政権でも運輸長官を務め、2001年9月の同時多発テロ発生時には、アラブ系の人々やイスラ

ム教徒に対する偏見が渦巻く中、強い信念を持って、空港での人種や民族に基づく保安検査を禁じた。米国に大きな功績を遺したミネタ氏を記念して、2022年5月6日、バイデン大統領は運輸省が入る建物を、ミネタ氏の名前を冠した名称とする法案に署名した。リニューアルオープンした常設展示室は、ミネタ氏の証言映像で締めくくられている。



#### ハリウッド俳優ジョージ・タケイ氏が来館!! 記念セレモニー&サイン会とミニ展示を開催

9月19日、TVシリーズ及び劇場版『スター・トレック』でヒカル・スルー役を演じた、俳優で日系アメリカ人三世のジョージ・タケイ氏が当館を訪れ、記念セレモニーとサイン会を開催した。タケイ氏が第二次世界大戦中に経験した収容所での生活体験をもとに執筆した著書『<敵>と呼ばれる』の日本語版刊行を記念して来日し、当館でのイベントが実現したもの。タケイ氏は、1時間にわたって自身の強制収容の経験を講演。その後に行われたサイン会では、ファン一人ひとりと言葉を交わし記念撮影に応じた。

記念セレモニー&サイン会にあわせて、9月10日～25日には、常設展示室にて、タケイ氏がこれまでに出演した『スター・トレック』の台本や小道具、関連商品等を集めた「ジョージ・タケイ」ミニ展示も開催した。タケイ氏は、ロサンゼルスにある全米日系人博物館の設立にも関わり、今日まで同資料館理事を務めている。常設展示リニューアルに際しては、映像資料の制作にも協力いただき、その証言映像はノー





2018

2019

2020

2021

2022

マン・ミネタ氏とともに常設展示室の最後を飾っている。  
本講演の内容はYouTubeにて公開中。

### 秋篠宮皇嗣同妃両殿下と悠仁親王殿下 上皇上皇后両陛下ご来館

1月10日に秋篠宮皇嗣同妃両殿下と悠仁親王殿下が、2月6日に上皇上皇后両陛下が相次いで、リニューアルした資料館を訪問され、開催中の企画展示「雄飛ふたたびー沖縄移民の歴史と世界のウチナンチュ」もご覧になった。

### 企画展示 「外交史のなかの海外移住 ーそれぞれのはじまり」

**開催期間**：7月2日～8月28日

**概要**：当館常設展示室リニューアル後初となる企画展示は、外務省外交史料館との共催で行った。

外国へ移住するには、移住者を保護するために日本とその国との間で外交関係の樹立が不可欠である。日本外交史の流れを軸として、外務省外交史料館所蔵の、主な移住先国との外交関係の樹立を示す貴重な条約調印書と批准書、初公開となる移住協定書のほか、移住の始まりを物語る外交文書と、当館所蔵の戦後移住の再開と募集や送り出しに関わる資料で、外交と移住の歴史を辿った。



### 企画展示 「雄飛ふたたび ー沖縄移民の歴史とウチナンチュの絆」

**期間**：10月29日～2月12日

**概要**：2022年が、沖縄本土復帰50周年にあたることから、東京国立博物館の沖縄復帰50年記念特別展「琉球」の開催、NHK連続テレビ小説「ちむどんどん」の放映、第7回世界のウチナンチュ大会の開催など、市民の沖縄への関心が高まる中、2014年に実施した特別展「雄飛～沖縄移民の歴史と世界のウチナンチュ」の増補改訂版として開催した。改訂にあたっては、沖縄移民の歴史について、地縁血縁の結びつきを強める要因となった沖縄移民の「差別」についての記述を加



え、その結束がさらに移民を呼び寄せる力となったことを強調した。また南洋群島への沖縄移民について、記述及び資料を増補した。特に金武町、南風原文化センター、個人の所蔵者のご協力により貴重な原本資料を展示した。

### 公開講座 「条約書でたどる日本と南北アメリカ 諸国との外交関係の成立・発展」

**開催日**：7月10日

**講師**：冨塚一彦（外務省外交史料館『日本外交文書』編纂室長）

**概要**：国交の基礎となった条約とはどのようなものなのか、日米和親条約を例に、豊富な画像を引用しながら調印から批准書の交換を経て、正式な締結の終了に至るまでを解説いただいた。また日米修好通商条約についての詳細な解説と、その後、各国との条約締結に発展していく流れについても紹介いただいた。

本講座の内容はYouTubeにて公開中。



### 公開講座 「TKY550 PIGS 世界に広がるウチナンチュの絆」

**開催日**：12月10日

**講師**：沖縄噺家 志いさー（藤木勇人）

**概要**：NHK朝の連続テレビ小説「ちむらさん」に続き「ちむどんどん」でも沖縄ことば指導を務め、自らも沖縄料理店店主として出演した、沖縄噺家志いさー（藤木勇人）氏に、戦後、ハワイの沖縄出身者が、さまざまな方法で資金を集め、アメリカ合衆国本土で購入した豚550頭を沖縄に送り届けた話を、比嘉太郎、外間勝美、上江洲易男をキーパーソンに仕立てた新作高座噺として上演いただいた。





# 学術委員会について（概要と活動等）

## 1. 学術委員会の設置

学術委員会は2006年度に設置され、当初は8名の有識者で構成された。2014年度に制定された内部規程（「海外移住資料館学術委員会の設置について」平成26年3月4日付）において、同委員会の目的は、海外移住資料館（以下「資料館」）における学術研究に係る企画・実施協議・評価を行うことを目的とし、資料館の学術研究課題に関することや、企画展示及び『研究紀要』について検討することとされている。

## 2. 学術委員の一覧

（肩書は現職及び離任当時のもの）

飯野正子	学術委員長、津田塾大学名誉教授・理事・元学長（2006年度～現在）
石川友紀	琉球大学名誉教授（2006年度～2014年度）
桑井輝子	白百合女子大学名誉教授（2006年度～2014年度）
島田法子	日本女子大学名誉教授（2006年度～2020年度）
中牧弘允	国立民族学博物館名誉教授、吹田市立博物館特別館長（2006年度～現在）
森茂岳雄	中央大学名誉教授（2006年度～現在）
柳田利夫	慶應義塾大学名誉教授（2006年度～現在）
山本匡	東京工業大学大学院特別研究員（2006年度～2014年度）
原山浩介	日本大学教授（2022年度～現在）

## 3. 学術委員会の貢献

2006年度に発足した学術委員会は、資料館の調査・研究活動及び展示に大きく貢献してきた。

特筆すべき実績は、以下のとおりである。

### 1. 学術研究プロジェクトの開始と『研究紀要』の発刊

資料館が移民研究の拠点となるべく、2006年度より、学術委員が研究プロジェクトを立ち上げることになった（学術委員の任期に合わせ期間は3年間）。これまでに22件のプロジェクトが実施された（件数は現在実施中案件を含む）。（詳細は第4章資料を参照）

また、同研究成果をとりまとめた海外移住資料館『研究紀要』が創設され、2022年度の第17号まで毎年度発行されている。『研究紀要』は移民研究関連の団体や大学及び関係資料館等へ配布され、関係分野の研究者や実務者の中での知名度は徐々に高まり、2023年度の第17号では、論文、研究ノート、資料紹介、調査報告、懸賞論文受賞作が計7件掲載された。掲載論文等のテーマも北中南米への日本人の海外移住に関するもののみでなく、フィリピンの日系人・日系社会に関するものや、日本に在住する外国人に関するものまで、国を超えた移住・移動に関わる幅広いテーマが取り上げられるようになった。

### 2. 教育プログラム及び移民学習の教材開発

2006年度～2008年度の学術研究プロジェクト「海外移住資料館を活用した学習支援プログラムと教材の開発」(研究代表：森茂岳雄学術委員)では、移民カルタ、紙芝居（「カリナのブラジルとニッポン」「弁当からミックスプレートへ」「ハワイに渡った日系移民」「海を渡った日本人」）等の移民学習教材の開発や、それらの教材や資



料館の常設展示を活用した指導者用の『学習活動の手引き』の作成が行われた。

近年では、外国につながる子どもたちの増加にともない、多文化共生の推進が、学校現場における大きな取り組み課題の一つとなってきた。また、2021年度の資料館常設展示一部リニューアル（以下「リニューアル」）によって資料館の展示内容も社会のニーズにあわせて更新・充実された。そこで、2022年度・2023年度の学術研究プロジェクト「海外移住資料館のリニューアル展示を活用した『学習活動の手引き』の改訂」（研究代表：森茂岳雄学術委員）において、移民学習による多文化共生の推進を視野に、2007年度に改訂された同手引きの再改訂を行うとともに、リニューアル展示を活用したデジタル教材開発の可能性についても検討が進められている。

### 3. 各種展示の充実

常設展示とは別に、毎年度、テーマを定めた企画展示や巡回展が実施されてきた。企画展示（特別展示を含む）は合計66テーマで開催され、学術委員が主導で実施されたものとしては、2009年度の「海を渡った花嫁物語」展がある。同展示には、当時の皇后陛下（現上皇后）のご観覧があり、飯野学術委員長及び島田学術委員（当時）他がご案内した。また、2010年度には、学術研究プロジェクトによるハワイ調査時に寄贈いただいた、元日系二世兵士の写真資料等で構成した「日系二世兵士の見た終戦直後の日本」展などが行われた。

常設展示室では、移住者検索システム「Pioneros」が整備されてきた。同システムは、柳田学術委員の指導のもと、移住申込書の整理作業の進展に鑑み、ペルー日系人協会との連携も得つつ戦前・戦後を通じての総合的な「海外移住者検索システム」の構築・公開を視野に入れたプラットフォームとして着手された。学術研究プロジェクト「移住資料ネットワーク化プロジェクトの充実と拡張」（第一期：2012～2014年度、第二期：2015年度～2018年度）（研究代表：柳田利夫学術委員）を通じ、2013年4月に公開され、その後も拡充・修正等が行われている。

他にも、資料館関連のさまざまな公開講座において、学術委員による講演があった。

### 4. 日本移民学会との連携

2011年の開館10周年記念の年に、「第21回日本移民学会年次総会」を横浜センターで開催した。また、2014年4月から2016年2月にかけて日本移民学会と共催で12回にわたる公開講座を行った。公開講座の内容は日本移民学会編『日本人と海外移住－移民の歴史・現状・展望－』（明石書店、2018年）として出版された。

### 5. JICA 海外移住「論文」および「エッセイ・評論」の審査

2019年度より、休刊・散逸が懸念される中南米地域の邦字新聞の収集・保全業務が開始されるとともに、邦字新聞に関する研究を含む移民研究の裾野の拡大・研究者育成を念頭に「JICA 海外移住論文」を創設し、第二回からは「JICA 海外移住「論文」および「エッセイ・評論」募集」を実施している。同コンテストでは、複数の学術委員が審査委員を務め、その後、外部の有識者委員も加えて毎年度開催されている。

### 6. 開館20周年記念常設展示室一部リニューアルへの助言

2021年度のリニューアルにあたっては、展示方針や基本計画の検討段階から学術委員会を中心に検討を行い、2021年度のリニューアル作業の本格開始以降は、計12回の学術委員会が開催され、リニューアル内容について詳細な助言を行った。

### 7. 資料館への史資料の寄贈

学術研究プロジェクトが研究の過程で収集し整理した史資料が、資料室に寄贈され、研究者に提供されていることも重要な成果である。









● 第3章

あなたにとって  
海外移住資料館とは





# 来館者の声

## 常設展示

ガイドさんのお話が本当に素敵でした！楽しかったです！ありがとうございました！

多すぎないくらいのたくさんの情報と、テキストと実物資料がうまくミックスされた構成でよかった。  
Thank you! Wonderful Museum

写真やリアルな資料がたくさんあり、すばらしかった。これで無料はすごい。

見ているうちにわいた疑問を次のコーナーが教えてくれる良い流れだった！

戦後、海外の日系人が日本救済に乗り出したことを知れたから。

その時代ごとに分けられていて、年表や写真が見やすい。  
できれば当時の文書の展示品の現代語訳もあればと思いました。

移住者の気持ちがわかる展示をふやしてほしい。

I would love a section on war brides, as the grandchild of one  
(戦争花嫁の孫として、「花嫁たちの海外移住」のコーナーがあったら良いと思う)

Muy interesante y atractivo (とても興味深くて魅力的だ)

横浜の小中高生にもっと広く知らせて学校の見学コースに入れさせてはどうか。

世界中に同じ血の流れる人がいるんだと知ってもらえる。

ボランティアさん一生懸命でありがたかった。もう少しリラックスしても大丈夫ですよ！

海外移住は明治から戦前のことと思っていたがつい最近まで行われていたことに認識を新たにしました。移住先の国の違いによって実を結んだ人たち、苦労をした人たちの違いに驚いた。国策の事実は特に印象に残りました。

実際に現地に行かれた方のお話、これから、日本がどうしていくべきかを教えていただき、今後自分がどうしていくべきか考えていく機会になりました。

現代において我が国が海外で信用を得て取引ができるのも、すべて先達の方々のご苦労のおかげと感じました。ありがとうございました。

当時の写真がたくさんあり興味深かった。男の人も女の人もまっ赤に日焼けして、そのお顔の色からも暮らしぶりが想像できるようです。お写真の中の人たちのおかげで今の我々の豊かな暮らしがあるような気がしました。また海外でも日本人の技術や勤勉さはとても役立っていたのだと感じました。誇りを持って先人たちの築いてくださったものを改めて大切にしたいと思いました。

移民の生活をよく理解できます。このミュージアムを推薦します！素晴らしい！

SDGs への対応、その他触って聴いてみることのできる展示など、さまざまな人への配慮が行き届いた展示にリニューアルされている。

照明や順路、展示の工夫があって見やすい。映像が豊富、昔のカバンや道具の展示が興味深い。初めて知ることもばかりでした。下のこどもをつれてまた来たいです。

目の見えない方への配慮がしっかりとされていて素晴らしいと思いました。加えて、所々に直接さわれるものや写真が撮れるところがあり、飽きが来ない展示でした。

最後のミネタ氏の映像で「ああすれば良かったと言えるのは70歳になってから」と言う発言に23歳の私は勇気をもらいました。



## 教材利用の声

写真や実物をさわること、実感をもって学習することができたようです。

今回初めて、「祖母がブラジルに移住した経験がある」という生徒がいて、自分が聞いた話をクラスでしてくれたので、より授業が深まりました。資料の冊子も、この授業を初めて担当する教員にはとても役立っています。

授業の導入として利用した（本題は写真花嫁）。高校生においても「日系人」を理解していない生徒が多くいたので、紙芝居で興味を持たせて、日系人の歴史（全体像）を知ってもらった。ハワイの日系人の歴史、全体像を簡単に把握することができました。

## 訪問プログラムの声

ボランティアガイドの方がカナダに縁のある方で、展示であまり触れられていないカナダへの移住者の話を（生徒たちは）興味深く伺っていた。また中南米への移民の話は彼らも知らないことが多かった。

日本人が差別の対象であったことに気づき、驚いた。現在海外から日本に移住される人が多いと思うが、差別・区別をしないこと、改めて気づいた。

現在問題化されているアマゾンの伐採に日本の移民も深くかかわりがあることがわかり、改めて環境問題の重大さを感じた。

ゼミではアメリカ合衆国・本土への移民について主に調べてきましたが、それ以外の国々への移住を取り巻く状況について学ぶことができ、開国以降の日本人移民の問題を相対的に捉えることができました。

ハワイへの研修ができませんでしたが、日本人がなぜハワイ、米国、中南米を目指したのか、を知るきっかけになりました。また彼ら学生の同級生でもペルー系、ハワイ系の学生がいるため、自分たちが世界とつながっていることを本訪問を通じて理解してくれたようでした。



## 企画展示・特別展示

展示名	コメント
100年後のカリフォルニアへ	写真と物語、音楽のコラボレーションによって、目に見えない情景までもが、浮かび上がってくるような気がする展示だった。
	100年前の海外移住の話が家族史として表現されていて、大変印象に残った。自分自身の祖父たちはどうこの時代を生きていたのだろうかと思った。
海を渡った日本人町	床の地図が非常に興味深かった。豆腐のパック等の日本食の移民先での変化が面白かった。
	実在のお元気な移住者の姿など近距離で拝見できるものを揃えて、簡潔に解説してくれる点が良いと思います。
日系人と混血 —Hapaとメスチッソ—	パネルで文字・歴史をのせて展示するだけでは感じられない情動が湧き上がった。自分で選択してないものでレットル認識していかないといけない。されていく人々の気持ち、心の中のエッセンスをリアルに感じられるような展示だった。
	「Nikkei」とは心の状態で先祖のレットルでない。深く心に染み込みました。自分が何者か…。遺伝子を持っていても、その精神・文化が伝わってなかったら「日系」と言いにくくなるだろうし(本人が)、どんなに薄くても「日系」といえる。
魁〜日本からハワイに渡った人々 —浜野龍峰 書のある空間から—	元年者、官約移民全員の名前がわかっていることに感動しました。
	背筋にくるパワーだった！
雄飛 —沖縄移民の歴史と世界の ウチナンチュ	沖縄の過去／現在／未来が総合的に良く理解できること。そしてベースに温かい視点で、海外移住を冷静に分析していることが重要である。
	絵が、思いがこもっている感じがしてとてもよかった。「命のビラ」の存在を知らなかったのと、沖縄戦の時の沖縄移民の方の動きがよくわかって良かったです。
ブラジル・サッカーのサムライたち —日系スーパープレーヤー列伝	ワールドカップを見て、にわかサッカーファンの今だからこそ、すごく面白かったです。知らなかったこともたくさん！！ありました。
	解説パネルと映像そしてユニフォーム展示と非常に明快なストーリーになっていて理解しやすい。
ララってなあに？ 日本を助けたおくりもの —ララ物資にみる海外日系人との絆—	ララ物資にお世話になったものです。特に当時子どもながらきれいな模様の洋服をいただき、今でも鮮明に色合いを覚えています。もう少し早い時期に母たちの元気なうちに見せてあげたかったです。帰ったらお仏壇に報告したいと思っています。
	食料事情の最悪な時に、海外の日系人が苦労の中から援助してくれたことを感謝しています。
マンガ！ Manga！ Mangá！ —日系人とマンガの世界—	歴史的な内容も分かり易く資料も良いと思います。マンガも懐かしい物から最近のものまで、各国の言語になっていることが分かって良かったです。
	MANGAが世界に通じる言葉となっていることにびっくりしました。日本では本屋さんでコミックとなっていることに温度差を感じます。
連れもて行こら 紀州から！ —世界にひろがる和歌山移民—	多くの海外進出の都道府県自治体の中で、地元（和歌山県）の調査分析と県民性が良く調査され、上手に展示PRされていると感心しました。
	一世の方が沢山ふるさとへ寄付していたことがわかり感動しました。お寺など今も残っていて、なぜこんなに立派なのか納得しました。



展示名	コメント
<p>移民画家 半田知雄の世界 —二宮家ブラジル移住60周年 記念コレクション—</p>	<p>彼「半田氏」の絵はなんとなく寂しい望郷の心境が感じられる。苦しい移住生活の中に、趣味の絵画が彼の開拓のエネルギー源であったように感じました。</p> <p>生きる為仕事をし、その間に絵の勉強をし、自分の人生を生きただことは素晴らしいと思います。</p>
<p>終戦70年企画展示 海を超えたヒロシマ・ナガサキ</p>	<p>非常に重たい展示であったが良いアーカイブだと思った。「被爆者の中の少数者」を考えるきっかけになった。</p> <p>言葉を見ているだけで涙が出ました。“日本人”として知るべきことだと思います。大変勉強になりました。</p>
<p>TAIKEN 体験 —日系カナダ人 未来へつなぐ道のり—</p>	<p>帯に記している日系人の方々の生の言葉がとても印象的でした。展示物もパネルも大変素晴らしかったです。</p> <p>時が過ぎれば過ぎるほど移民の人たちの気持ちを知り、心が痛みます。</p>
<p>ルーツは福岡 夢は世界へ ～世界で活躍する福岡移民～</p>	<p>特にダニエル・イノウエ氏のVTRを観て感動しました。日系の方で努力し、アメリカ合衆国に貢献した彼を知り、もっと自分も頑張ろうと思いました。</p> <p>海外に移住した人たちが苦勞して、その土地を開き、日本人の特性（真面目、勤勉など）を生かし、その国の発展に貢献していることがよく分かるよう工夫してある。</p>
<p>二つのオリンピック —スポーツがつかない日系社会—</p>	<p>リオのオリンピック・パラリンピックの開催に合わせて、ヒューマンドラマを歴史の中に思い出せたような、あたたかな気持ちになりました。ありがとうございます。</p> <p>人種差別が激しい過去にも日系人の人々がスポーツを通してさまざまな可能性を切り開いてきたのが伝わった。スポーツは無敵大だと思う。</p>
<p>田島さゆり写真展 鏡像の祖国 —アルゼンチンの日系人たち—</p>	<p>人物の表情がすごくよかったです。写真の説明もわかりやすかったです。色々な人生を歩んでいる方たちの歴史が感じとれるような写真でした。</p> <p>皆さん御苦勞を感じさせない良い笑顔。くつろいだ姿を引き出す田島さんに拍手です。</p>
<p>ハワイの日系人のまつり —お正月とボンダンス—</p>	<p>外国で語り継がれているぼんおどりの歌詞など知りようもないことを知ることができた。語り継ぐべきことが、こんな形でこんなところに残っているとは…感動しました。</p> <p>「ボンダンス」としてコミュニティを祭りや神社等で形成する重要性を感じました。現在の日本が忘れかけているものがハワイにあると考えます。</p>
<p>広島から世界へ —移住の歴史と日系人の暮らし—</p>	<p>私は広島市民だったので、とても感慨深く拝見しました。しかし、最近まで海外移民県NO.1などということはまったく知らず・・・そう言えば亡父が、原爆がなければ大陸へ行き“ヒトハタアゲル”志があったと言っていたことをおもいました。その時は聞き流していたけれどそういう空気のある土地柄だったのかな</p> <p>古い品をよく保存され、また収集されたことに敬意！</p>
<p>ハワイ日系人の歩み</p>	<p>恥、恩、我慢、頑張りをいつも心に日本人としてのプライドを持って生きていたのだと思うと、今の日本人に知ってほしい。とても良いものを見せていただきました。ありがとうございます。戦争は絶対してはなりません。</p> <p>日本人の誇りを改めて認識し、はからずも涙してしまいました。展示物を大切に維持され、より沢山の人の目に触れますことを切に願っています。</p>



展示名	コメント
メヒコの心に生きた移民たち	<p>まず入口で「メヒコ」という言葉を使用する意味を知らされ、「メヒコ」の世界へ入ることができた。全体的にとてもまとまった展示で、全体が1つのストーリーのように構成されています。とても分かりやすい説明で、見る人の側に立って展示をつくられたと思います。展示資料リストもいただきました。とてもよくできています。</p> <p>アウロラさんのトランク、よく借りうけることができましたね。しみじみしてしまいました。</p>
南国土佐をあとにして —海を渡った『いごっそう』—	<p>全部見て回りました。私が生まれる前にもうすでに海外移住は始まっていたんですね。私ももっと早く生まれて移民でハワイに行きたかったです。もし行っていたらハワイで大金持ちになっていたでしょう。</p> <p>当時の日本人が今後、世界へ出ていく若者のお手本となる部分やヒントが多々あると思います。これからもこのような企画を楽しみにしています。</p>
日伯110年の絆 —在日ブラジル人— —在日30年をむかえた日系人の歴史と日常	<p>古道具、古民具をあまり並べずカッコいい写真だけで勝負するという心意気が良い。</p> <p>移住をなさった人は大変勇気のある方々だと思います。また大変な苦勞をなさったことでしょう。現在の様子なども知ることができたら良いと思います。</p>
元年者に始まるハワイ移民と邦字紙 が果たした役割	<p>古文書をじかに見ることができて興味深かったです。「邦字紙の果たした役割」に関する展示の比率はもう少し増やしてもよかったかもしれません。</p> <p>私も学生時代を Hawaii で過ごし、沢山の日系人と出会い、いろいろな苦勞話も聞いてきましたが、歴史が一人一人あり、奥深くもっと知りたいと思われました。</p>
マチュピチュ村を拓いた男 野内与吉とペルー日本人移民の歴史	<p>貴重な資料（少ないけれども）を探しだされた熱意を感じました。幾多の困難にもめげずに不平不満を言わず、常に前向きに地域住民のことを考えて率先して動かれた与吉さんを誇りに思います。</p> <p>まさか世界遺産のマチュピチュが日本人、それも私のふるさと福島の人によってつくられたとは思っていませんでした。誇りに思います。現地の人々と協力し共につくりあげていく姿勢は、見習うべきものだと思います。そういうことがこの展示でよくわかりました。</p>
コーヒーが結んだ日系人と日本	<p>コーヒーという視点から現在の日本人と移住者との関係が分かりやすく展示されていた。</p> <p>カフェパウリスタに行ってみたくなった。日東やキーコーヒーの歴史、コーヒーの自動収穫機などコーヒーの普及に日本人が寄与していることを知ったとき感慨深かった。今後の企画を楽しみにしている。</p>
ボリビアに生きる —日系人の生活とその心	<p>歴史がわかりやすく説明されている。現在の人々の声で現況が語られている。映像が1960年代と古い内容だけでなく、現在のオキナワの映像も見てみたかった。</p> <p>自分がいかにめぐまれた時代に生まれたのかがよくわかり、日常に感謝することができたため。</p>
くまモンと学ぼう！ 熊本移民の歴史と活躍 —こぎゃんすごか、 わさもんと肥後もっこす—	<p>熊本県からのハワイ、南北アメリカ移民について、人物を中心に説明してあるのがとてもわかり易かったです。今まで見たことのない資料も展示されていてよかったです。</p> <p>熊本出身の方の移民事業に対する情熱がよく伝わってきた。あとくまモンが可愛い。</p>



展示名	コメント
シアトルのハントホテル —日本語学校の知られざる歴史 1945-1959	<p>アジア系の人に対するヘイト等が再び広まり、シアトルでも日系の方が顔を殴られたという話を聞くようになってきました。日本にいる日本人はWWⅡの時の収容所のことや、日系人がどのような思いで生きておられたかを知りません。こんな時だからこそ、歴史から学び、多くの方の声に思いを寄せ、これからの未来に活かすという意識を持ち続けたいと思います。</p> <p>教科書では知ることのできない歴史を知ることができました。国難に耐え協力し合った移民の方々、また移民に支援の手を差し伸べたアメリカ人のことを忘れないようにしたいと思います。</p>
日系人のレシピ —受け継がれる日本の味と家族の記憶	<p>移民の歴史について（明治時代からの流れが）わかり、各国での暮らし、生活基盤を作っていたということがよくわかったので、非常に興味深い展示物でした。日系人に対する見方が変わりそうです。</p> <p>身近な食を通じた各国の紹介、楽しかったです。いつかハワイ等行ったら観光地やレストランでなくて、地元の人が行く店へ行きたくなりました。</p>
外交史のなかの海外移住 —それぞれのはじまり	<p>中南米諸国との海外移民条約・締結書の原本を拝見できる機会はめったにない。たぶん日本初の展示と評価できる。</p> <p>従来移民の問題は個人の問題のようなイメージをもたれがちだが、条約書などにより外交の流れを明らかにしながら展示することにより国と移民の関係が理解できた。</p>
雄飛ふたたび —沖縄移民の歴史とウチナーンチュの絆	<p>沖縄の移民の歴史と現在の流れまでみることでよかったです。これからの未来までつながりが残っていくとどう変化するのか、興味深いと思いました。沖縄でもぜひ展示会をしてほしいです。</p> <p>笠戸丸乗船時のパスポートからアンドレスさん方のお話まで、貴重なお話を知ることができました。次回はアルゼンチンのうちなーんちゅを連れて来ようと思います。素晴らしい展示をどうもありがとうございました。</p>

## 公開講座

講座名	コメント
多文化共生社会の変容 —移民二世世代の活躍と日本人側の理解	日系ブラジル人の大学生の率直な目から見た日本社会の課題が参考になりました。
在バンクーバー総領事が語る 神奈川・横浜とカナダ・バンクーバーとの交流史—これまでの100年、これからの100年—	19世紀末の日本人の移民に始まり、今日に至るまでの歴史を概観することができ、大変有意義な時間であった。今日学んだことをもとに今後の日加関係、日本と世界の関わり方について考えていきたい。
「食」を通じて考える多文化共生 南北アメリカにおける日系社会と日本食	多面的な具体的な説明が良かった。トロントで2年近く暮らした経験から、「食」のミックスは日系に限らず、多文化共生につながると実感していた。現状の面白さ、分析してのその意義の考察、すっきり整理できた気がします。
横浜・バンクーバー姉妹都市50周年 記念企画展示関連イベント 特別講演「二つの母国-カナダ社会における日系人の歴史と現在」	自分の知らないカナダでの日本人の歴史を知る機会になり、とても刺激を受け、人生を見つめるきっかけになった。



講座名	コメント
『七転び八起き：アメリカへ渡った戦争花嫁物語』の上映と解説	「戦争花嫁」に対する戦前の日本人移民社会からの厳しい目があり、長い間「戦争花嫁」のプライドが傷つけられ続けたことを知りました。私は68歳ですが、やはり進駐軍人と付き合い無分別に移住したようなイメージがあり、この映画により自ら荒廃の中から未来を切り開くことにかけての人々の考えが新しいものとなりました。
ブラジルにおけるマンガ事情 —日系人と日本文化の果たした役割—	マンガ中心に話を聞いたことがありませんでしたが、時代とともに変化していく様子がよくわかりました。
海外渡航の始まり 川上音二郎とその時代	音二郎、貞奴の話と時代がよくわかりました。時間がなく残念でした。海外渡航とその時代背景をからめてもらえればよりおもしろかったのではないかと思います。
日本のペルー人III —日本社会で働く—	パネリストの三名の方達はペルーと日本を何回も往ったり来たりしながらも、日本でいるんなことに挑戦されて、現在に至っていることはすばらしいことだと思いました。
リオオリンピック聖火ランナー 小川彰夫氏 特別講演会	70-100歳まで働くこと、そのために何をしたらよいかをその前に考えることが大切！良いことを考え、楽しいことに気持ちを向けること、後期高齢者となった私には素晴らしいメッセージでした。
田島さゆり写真展 オープニングイベント ギャラリートーク&ミニライブ	田島さんと大城さんから日・亜の違いやエピソードを伺え、興味深かったです。演奏と歌もすばらしかったです。
日本のペルー人IV —社会に羽ばたく—	日系大学生の生の声を聞いて苦労や困難に立ち向かって道を切り開いている様子がわかりよかったです。先生のコメント、自分のおかれた状況を受入れ一生懸命に生きることは本当に大切だと思いました。
日系人と第二次大戦 —ハワイの日系人を中心に—	日系人と第二次世界大戦、442部隊のすさまじい戦い、プライド、その人たちの戦後の人権、平等の戦いが今の地位・平等を築いていったことを私たちは忘れてはいけないと思いました。
大泉町発多文化共生まち映画 「サンゴーヨン☆サッカー」の上映	素晴らしい映画でした。私はブラジルに7年間住んでおり、大泉町には2005年に一度行ったことがあります。また大泉町に行ってみたいと思いました。ブラジルとサッカーが大好きなので本当に楽しめました。
パラグアイの魅力	養鶏業、牧畜業、大きな土地、大豆、小麦、凄い日本人の活躍の様子がわかりました。城の築城ストーリー大変でしたが凄いです。
ハワイ移民の源流 広島県	とても興味深いお話だったが、もっとお話を伺いたいと思った。官約移民までの歴史（政治背景）がよくわかりました。書籍化が楽しみです。
特別上映会 「ミリキタニの猫《特別篇》」	チラシで知って激動の戦中・戦後をアメリカ合衆国で生きて来られた誇り高い日本人の猫を描くニューヨークのホームレスアーティストの方がとても気になって上映会に参りました。魅力的・個性的な絵と、その人柄、それを取り巻く方々の優しさが心に残った。「もう怒りはない」とツールレイクツアーでミリキタニさんが言われて、とても救われた思い。(それにしても猫が可愛い！)
学術研究プロジェクト公開シンポジウム 日系カナダ人の戦後 —埋もれた歴史に光をあてる—	現在の繁栄の中で忘れ去られた我々の同朋が戦禍の中で苦しんだ歴史の出来事を勉強することに大きな意味がある。
特別上映 「二つの祖国で 日系陸軍情報部」& トークイベント	日系人の歴史に興味があった。本も読んだが生の声、生の考えが聞けて大変勉強になりました。最後の方で「おかげさま」「仕方がない」という言葉が、今も日系人の中に生き続けていて「今の日本人はどうなのか」「私はどうなのか」と考える機会となった。



講座名	コメント
特別上映「Go for Broke！」 &トークイベント	あまりにも知らなかったことが多く、もっとたくさんの方に知らせる必要があると感じました。「Hawaiiが好き！」だけで入国する日本人には知る必要があり、また空港の名が変わったこと、その意味も知らせていきたいです。
日墨関係史と日本人移住の意義	メキシコ移民（照井亮次郎リーダー）を取り上げてくださってうれしいです。単なる「一旗挙げる」「海外雄飛」「出稼ぎ」ではなく、メキシコの地に土着し、共に新しい共同体を創り上げようとした「志」「理想」に深く共鳴・感動しています。
「100年の鼓動」 上映と岩根愛ミニトーク	映画だけではなくトークでより深くボンダンスについて知ることができました。トーク内容がとても濃くてよかったです。
高知県人はなぜ海を渡り 新天地を求めたのか？ —高知県移民群像—	内容がおもしろかったです。充実している。自由民権運動と殖民の関連の話が興味深かった。
在日30年の体験から見た ブラジルと日本	斎藤さんの先見の明に基づいた行動力、新しいことへの挑戦はすばらしいと思いました。外国人として日本で暮らすにはまだハードルがありますが、若い世代の人々の手本になるとと思います。
バックヤードから語る移民史 —外交史料こぼれ話—	先生がとても分かりやすく話してくださったので、興味深く聞くことができました。学ぶって楽しいと思いました。
NHKドキュメンタリー制作者が見た “日系アメリカ人 栄光と苦難の150年”	興味深い内容をNHKドキュメンタリー制作者取材者本人の目先で伺えた。
ペルー日本人移民の歴史とマチュピ チュ村を創った野内与吉の生涯	野内氏の誠実な人柄、日本人の先祖への思いが伝わりました。単なる観光地としてではなく遠く日本人移民の歴史をたどる旅としてのマチュピチュが今後も発展されますように。
カフェパウルスタ、 その始まりと現在（いま）	カフェパウルスタのことは知っていましたが、日本人移民とこのような深いつながりがあったということを初めて知りました。今度銀座のお店へも行きたいと思います。
日本人ボリビア移住 120周年を迎えて	世代が変わりなかなか日本的なものの継承は大変だと思いますが、ぜひとも継承してもらいたいと思います。（歴史を正しく次の世代へ継承することは、極めて大切だと思います。）
日系人アイデンティティとの再会 —尺八を通して叶えた、熊本における ルーツ探し—	実体験に基づくお話が大変興味深く、またひとつひとつの出来事が運命的で、このお話と演奏を聴ける貴重さを噛みしめました。
「シアトル日本町とワシントン州 日本文化会館」の紹介	これまで独学的な学びに限定され、ただ知ってるだけの知識にとどまっていた、シアトルのこと、日系人のことなどの歴史や事実を、より多く深く学べる貴重な機会となりました。
しょうゆ 国境を超えた日本の味	キッコーマン醤油の歴史とともに、日本人移民の歴史もご紹介いただき、とても感銘を受けました。醤油の輸出に早くから取り組んだことで、「キッコーマン」が世界中に知れ渡ることになったとは、素晴らしいことだと理解しました。
条約書でたどる日本と南北アメリカ諸 国との外交関係の成立発展	条約の成立には、調印書と批准書の段階があること等、全く知らなかったので興味深く聞かせていただきました。
TKY550 PIGS 世界に広がるウチナンチュの絆	志いさーさんのはなしにひきこまれました。ハワイから豚が送られた話もとても興味深く沖縄の人たちの絆の強さにも心をうたれました。ありがとうございました。沖縄にもまた行きたいと思います。





# 展示案内ボランティア・資料館受付の声

## Q1：あなたにとって海外移住資料館とは？

### 展示案内ボランティアの声

海外（外国）に向かって開かれた窓です。

資料館のボランティアに出会えたことが私の宝物です。

生涯学習の場、私の興味を駆り立ててくれる場をいただいて感謝しています。

資料館にかかわるすべての人から惜しみなく知識を教えてもらえる貴重な場です。

公的機関に所属する我が国唯一の海外移住に関する資料館で、最も信頼できる資料館だと思います。日本人が幕末前後から戦前・戦後を通じて海外に移住、発展させ、今日では、多くの国々に信頼される日系社会を築き上げた記録が紹介されていることは、誇りであり、自慢でもあります。資料館は私にとって貴重な存在です。

- 新たな勉強の場。
- 日本人移民につき、一人でも多くの人に関心を持っていただくためのきっかけ作りの場。
- 観光地だけではない、ハワイの素顔を紹介する機会。
- ボランティアはその意味のとおり、自分のやりたいこと、やるべきと思うことを実行することで、私にとっては、海外移住資料館がその場の一つ。

長年移住事業に携わった者として、この資料館は人生の故郷であり、また多くの移住者やその子、孫にとっては、自身の立場が理解できるところであると思う。

20周年おめでとうございます。

私にとって、20年近くにわたる資料館ボランティアガイドは、まさに国民の皆様へ恩返しする場として、心をこめたご案内をし、日系の皆様のルーツ探しをお手伝いし、ルーツ発見の感動を共にした現場です。

### 資料館受付の声

「劇場」です。来館されたお客様の驚きや感動、哀愁など、さまざまな感情がお帰りになる際に溢れ出し、「素晴らしい展示をありがとう」と何度、言葉をかけていただいたことか。本当に数えきれません。

日本人の海外移住の歴史と現在の日系社会を知ることができる貴重な資料館だと思います。学校の授業ではあまり触れられない歴史ですが、移住した国々や時代の中で、どのように移住者が歩んできたか知ることはグローバル化された現代の人の移動を考える上でも重要な資料館だと思います。

外国にルーツがある人と関わることがあまりなかったので、日系の文化を知ることができてよかった。少しでも知れば偏った考えになりにくいと思うので。

ここに勤務するまで移住についての知識がなかったのですが、海外移住と日系人を知ることができた場所です。



## Q 2 : ご来館者のエピソードで、特に思い出に残っているもの

### 展示案内ボランティアの声

数年前、ご自身の叔母様がアメリカ合衆国の収容所にいたという方が来館され、「色々ご苦労があったのでは」と尋ねると、「叔母は『ずっと休む暇なく働いてゆっくり英語を学ぶ時間もなかったけど、収容所ではそれができたし、三度の食事もとれてよかった』と仰いました。またある時、ブラジルのコチア青年の元へ嫁いだ女性は「色々大変なこともあったけれど、今は家族も増え大きな家も持てて幸せです。」と話してくださいました。ガイド中、移住者の苦労話をすることも多いですが、皆数々の困難の中、それぞれの幸せを見つけながら逞しく生き抜いたことに改めて気づかされ、そのお話に心が温かくなったお二人との出会いでした。

ロサンゼルス在住のご夫婦（北米生れとハワイ生れのお二人）と、本土とハワイの日系二世の間の違い、文化の違いを語り合ったこと。

- ハロウィンイベントでたくさん（多い時には数百人）の子どもたち・来館者に会えたこと。子どもたちの仮装も楽しみでしたし、年々「トリック・オア・トリート」を言える子が増えていきました。
- 来館者からさまざまなエピソードを教えてもらえること。それらのエピソードは展示案内に利用させていただいています。例えば日系カナダ人の来館者に食卓（お刺身）の展示を案内していた際、昔はワサビがなかったのでマスタードを使っていたことなど。
- 日本の生徒にも移住の歴史・苦労したことを知ってもらいたいと、「ハルとナツ」のビデオを見てから来館する潮田小学校・中学校の先生。

若い女性の来館者からの熱心な質問に答えながら、およそ3時間をかけて一通りの説明をした。後日その人と食事を共にしながら移住について話し合った。

ボリビア国サンフアン移住地の元サンフアン農協組合長ご婦人一行の来館。

展示場「移住者の家庭生活コーナー 野外の洗濯」をご覧になり、「あの当時はまだ幼少期で開拓初期の頃で、土の上に丸太を組んだ屋根をヤシの葉で葺いただけの「モタク小屋」に住んでの生活だった」と話してくれた。

今ではJICAの支援によって生活基礎の安定に向け、複合経営に収益性の高い陸稲、大豆、養鶏、柑橘、マカダミアナッツを導入し、安定基盤を確立したと喜ばれていました。

- 1) 母親に連れられて来た姉妹で姉は小学6年生、妹は3年生でした。二人とも優秀で、私の説明は殆ど理解していました。特に妹は優れた質問をしてきたのには驚きました。移住関係者の子弟かもしれないと思ったほどでした。
- 2) 徳島県の商工会議所の職員の方への館内ツアー。戦前・戦後移住の知識が豊富で感心しました。御祖父が1920年頃北米に移住されましたが、残念にも家督相続のことで移住を中断し帰国されたこと、また、曾祖母にも縁あって皇国殖民会社の創設者、水野龍氏の実家に嫁がれたことなどから移住に関心を持たれたとのことでした。
- 3) 東京麻布にあるTemple University Japan Campusに在籍している日米の学生が来館されました。その時、アメリカ人学生から当館が使用しているconcentration campは間違いである、何故ならアメリカ合衆国はナチスのような残虐なこととはしていなかったという意見が挙がりました。また日本人学生からも、この資料館の「精神」は何か、と質問が投げかけられたので、梅棹忠夫先生の「われら新世界に参加す」の哲学を説明しました。

私が20年程前にJICA北海道センター（帯広）に駐在していた頃、ボリビアから地方行政を学ぶために来日していたJICA研修員を、富良野市役所に受入れていただくことに奔走しました。

最近、その研修員のご親戚が資料館に来館され、同研修員がサンフアン市長に就任されたと伺い、帰国後の活躍ぶりに話の花が咲きました。この時の感動は生涯忘れることはないでしょう。



## 資料館受付の声

お父様がペルーに移住していたという女性のお客様との出会いです。福岡の方で甥御さんがそのお父様つまり叔父様の功績展を開催するにあたって、情報収集のために何度か来館されました。少しでも協力と思い、知る限りでの資料をお渡ししました。その功績展の開催の様子を姪御さんが撮影したDVDをいただき、大変嬉しく思いました。(筑後郷土資料館)  
心温まる思い出のひとつになりました。

移民船、乗船名簿で親類？の名前を見つけた方が「名前が見られて嬉しい」と話しに来られ、とても思い出が強いと感じたこと。

とある80代の男性が、沖縄からハワイに移住した両親について調べに来館されました。資料館見学後、閲覧室でご両親に関する資料が見つかりとても喜ばれていました。その後、ご自身のルーツをまとめた冊子を作られ、贈ってくださった思い出があります。

20代男性のお客様。

「なぜ横浜に移住の資料館があるのか?」「なぜ昔、海外に移住したのか?」「なぜ移住者は広島県の人が多いのか?」と多くの質問をされ、その疑問にボランティアさんが対応されました。お客様がお帰りになる際、「日本にこんな歴史があったことを知らなかった。日本がこんなに貧しかったことを知らなかった」と。

しかし、とても清々しい表情をされていたのが印象的でした。





## Q 3：今後の海外移住資料館に期待すること

### 展示案内ボランティアの声

展示内容を変更せず、今後共、永く存続していただきたい。

- 多くの人に、海外移住資料館の存在を知って、来館してほしい。  
さらに、リピートの来館者になってもらいたい。
- 考え方もだんだん変わってくるので、常にアップデートしてほしい。
- 100年後も残ってほしい。

ネットワークの強化。

日本ならではのネットワーク構築が期待されます。

もっと地域教育委員会、協力隊OB会、修学旅行のノウハウ情報収集（JTBなど）などの交流を通じ、地方行政のニーズを分析し、もっともっと広報活動すべきだと思います。

- 展示場の適当な箇所へ今読まれている文献コーナーを設けてみてはどうか！

入江真次著：邦人海外発展史（上・下）、第一回芥川賞 石川達三著：蒼氓（そうぼう）、角田房子著：アマゾンの歌（ノンフィクション作家）など。

- 資料館入口「看板」を造りなおす考慮。

今では大きく立看板となっているが

- ①鋼板で高さ2M位にした物を建ててみてはどうか！
- ②または木製の柱（杉）、少し黒く焼いた高さ2M位の素材。

- 企画展示の継続。米大陸やハワイのみならず、アジア太平洋の国と地域に範囲を広げることはできないか。

- 中南米への日本からの移住促進を実際に経験し務められた、JICA前身団体勤務者の経験談や証言をしっかりと残しておくことが急務。

海外移住資料館の呼び名に惹かれて来訪される方々は、資料館設立当時に比べ少なくなったと思います。従って、海外移住資料館の根幹は守りつつも、世間に対して間口を広め、従来の海外移住主義だけではなく、移住信者だけではなく、世間一般人が関心を持つ資料館の名称と展示内容にしては如何かと思います。または、資料館名は現在のものを残したまま、その下に副題を付けるとか一例えば、

海外移住資料館

—日本人の海外発展史—

—日本の国際化に貢献した人々—

「われら新世界に参加す」日本人の移住地で芽生えた新たな文化、文明を例示してください。

### 資料館受付の声

より多くのお客様にご来館いただけるような資料館であって欲しいのはもちろんですが、新しい発見や希望を見つけに、「何度でも通っていただける」「ファンが集まる」、コミュニケーションの場ができれば素敵ですね。

日本が好景気だった数十年程前は、日系人を筆頭に沢山の出稼ぎ労働者が来日しました。それは日系人や外国人と共生することを考えるきっかけになりました。社会変化の中で現在は日本から海外に職を求めて移住している人が増加しているそうです。より良い生活を求めて海外移住する様子は、昔と同じことが言えると思います。当館は、歴史を学ぶことだけに留まらず、海外に出ていく人々と日本で受入れる人々の指針になるのではないかと期待します。









● 第4章

資料



# 1. 各種実績2013-2022

## 入館者数

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	累計
入館者数	37,553	40,274	43,272	52,923	48,239	44,296	43,043	12,604	18,850	39,753	380,807
(前年同比)	125%	107%	107%	122%	99%	92%	97%	29%	150%	211%	

一般	30,860	33,876	36,962	45,242	40,665	36,575	34,143	10,690	15,812	31,597	316,422
学校関係	6,693	6,398	6,240	7,681	7,574	7,721	8,900	1,914	3,038	8,156	64,315

15歳未満	6,789	6,535	6,703	8,882	8,191	8,925	8,553	1,878	3,019	7,880	67,355
15歳以上	30,764	33,739	36,569	44,041	40,048	35,371	34,490	10,726	15,831	31,873	313,452

個人	28,582	31,731	34,126	42,199	36,994	33,009	31,509	10,488	15,470	29,660	293,768
団体	8,971	8,543	9,076	10,724	11,245	11,287	11,534	2,116	3,380	10,093	86,969

オンライン利用者数								1,024	1,921	915	3,860
-----------	--	--	--	--	--	--	--	-------	-------	-----	-------

※コロナ禍によりオンライン見学開始

## 教育プログラム実績

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	累計
実施件数	170	174	203	236	231	236	233	65	107	237	1,892
実施対象人数	6,803	6,593	7,020	8,296	9,317	8,712	9,508	1,661	3,373	8,009	69,292

## 図書資料室(海外移住)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	累計
入室者数	2,584	2,708	2,951	3,069	3,249	3,011	3,106	864	1,077	2,088	24,707
(前年同比)	100%	105%	109%	104%	106%	93%	103%	28%	125%	194%	

## 資料受入件数

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	累計
資料受入件数	621	259	543	644	1,112	646	665	687	490	295	5,962
(うち取得)	61	108	130	203	140	233	222	121	86	115	1,419
(うち購入)	139	69	195	55	118	44	103	77	133	47	980
(うち寄贈)	421	82	201	200	297	316	294	488	267	125	2,691
(うち移管)	0	0	2	17	2	0	7	1	1	0	30
(うち既存資料)	0	0	15	169	555	52	0	0	3	8	802
(うち寄託)	0	0	0	0	0	1	39	0	0	0	40

## webページアクセス

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	累計
Visits(訪問者数)	163,928	192,239	191,923	201,484	214,670	-※	58,823	41,508	44,837	57,615	1,167,027
Pages(利用数)	445,109	515,944	562,012	571,478	587,687	-※	151,400	131,579	138,916	191,741	3,295,866

※ホームページアドレス移転のため集計不可

## 情報検索アクセス数

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	累計
Visits(訪問者数)	6,971	12,513	16,985	10,175	11,165	19,224	19,571	21,556	24,275	28,762	171,197
(前年同比)	91%	179%	136%	60%	110%	172%	102%	110%	113%	118%	93%

検索件数	8,655	11,190	11,578	17,726	12,565	10,807	13,027	12,588	12,365	12,703	123,204
(前年同比)	93%	129%	103%	153%	71%	86%	121%	97%	98%	103%	93%



## 2. 開館後寄贈資料一覧

## 2013年度

	寄贈者	資料名	数量
1	個人	来し方の文	1
2	個人	Gokurōsama : Contemporary Photographs of the Nisei in Hawai'i	1
3	個人	絵画 ほか	6
4	個人	原生林に賭けた生涯 : ミシオネス移住の先駆者、帰山徳治	1
5	個人	CD Readings from Swimming in the American : Plus papa's hat, Go for broke : to risk everything on one great effort win big	2
6	個人	Santa Catarina, Brazil	1
7	個人	Goro Hashimoto : perseguindo um ideal no Brasil, Die idee des modernismo Brasileiro ほか	3
8	個人	川柳つばめ、オントリオ川柳、ブラジル川柳、川柳ばら、ドラセーナ川柳 ほか	241
9	個人	アルゼンチン鹿児島県人会創立 100 周年記念誌 1911-2011	1
10	個人	Journey of heroes : the story of the 100th Infantry Battalion and 442nd Regimental Combat Team	1
11	個人	地球時代の南北アメリカと日本	1
12	個人	沖縄移住関係書籍	9
13	個人	Escola do Japão em Hamamatsu	1
14	個人	在ハワイ移住者家族関連資料 (身分証明書、写真 ほか)	26
15	個人	浸水林 + α (ベレン支部時代)	1
16	個人	ヒロシマとハワイを結ぶ物語	1
17	個人	Nisei Week 関連 T シャツ	4
18	個人	もっと世界を見たかった! 1962 年ニッポン脱出 35 万キロ	1
19	個人	アルバム (ブラジルコーヒー農場の写真 ほか)	1
20	個人	あらくさ : 合同歌集 第 4,6,8 号 ほか	5
21	個人	グアタバラ 50 周年祭 掛時計、遙かなアメリカ、アメリカからアメリカスへ、浸水林 + α ほか	6
22	個人	カナダ日本人漁業移民の見た風景 : 前川家「古写真」コレクション	1
23	個人	日伯會話 : ブラジル渡航者必携、南十字星の下で ほか	5
24	個人	南加文藝、一世伝記集 : 歩みの跡、Aki Matsuri (プログラム) ほか	15
25	個人	移民小説原稿	1
26	個人	岐阜県民ブラジル移民 100 年誌 : かけはし・きずな・みらい	1
27	個人	掛け軸、風呂敷 ほか	5
28	個人	日本語教育関係資料 (教科書、写真 ほか)	78
29	個人	サブロー・イシタニ氏関係資料 ハワイ日系二世兵士関連 (徽章、制服、写真 ほか)	30
30	個人	ローズバーグ収容所人名録 ほか	3
31	個人	アマゾン移民 80 年記念 T シャツ、DVD ブラジル日本戦後移住 60 周年記念式典	16
32	個人	ペルー移住関係資料 (ポスター ほか)	18
33	個人	花嫁移民 : 海を渡った花嫁達は	2
34	個人	メキシコ和歌山県人発展史 1985-2010	1
35	個人	O'ahu Island & Honolulu : Recreation and Transit, Rand McNally Streets of O'ahu Honolulu	2
36	個人	日本語教育史論考 第 2 輯	1
37	個人	技術移住写真集 1966、アルバム (写真、フィルム) ほか	29
38	個人	Migraciones : un juego con cartas marcadas ほか	2
39	個人	マウイ神社関連資料 (写真アルバム、新聞切抜き ほか)	9
40	個人	浜野龍峰作品集、浜野龍峰書展 : 書のある空間から「日本」図録 ほか	3
41	個人	悪いけど、日本人じゃないの	1
42	個人	北巴園芸『巻頭言集』第一部~第三部、ブラジルのコーヒー王 ほか	7
43	個人	La guerra contra los japoneses en México durante la segunda guerra mundial : Kiso Tsuru y Masao Imuro, migrantes vigilados ほか	2
44	個人	細川周平コレクション ブラジル日系文学、国境地帯 : 文芸同人誌 ほか	29
45	個人	うちわ、チラシ (Nisei week 関係)、カリフォルニア短歌、短歌雑誌 加州短歌 ほか	165



	寄贈者	資料名	数量
48	個人	平野運平：読本：ブラジル移民の父	1
47	個人	戦後開拓：長野県下伊那郡増野原：オーラルヒストリーからのアプローチ	1
48	個人	ハチドリの歌、移住事業私史関係資料（写真 ほか）	9
49	個人	イグアス農協 50 年史 1961-2011	1
50	個人	野球グローブ	1
51	個人	地震帯における世界文化遺産の保存：「リマ宣言」に見る文化遺産危機管理の新たな視座	1
52	個人	日本統治下南洋群島に暮らした沖縄移民：いま、ひとびとの経験と声に学ぶ	1
53	個人	カナダ移住関係資料（写真 ほか）	19
54	個人	菅野武雄「最後の手記」（二）：日本で「日本人」になった日系二世の生活と思想	1
55	個人	もうひとつの移住史：サンフアン日本人移住地	1
56	個人	短調：季刊詩誌 第 95,97-98 号	3
57	個人	トメアスー総合農業協同組合創立 60 年史：1949 年～2009 年	1
58	個人	バストス日系移民八十年史：1928-2008	1
59	個人	絆：ブラジル日本移民百年を記念して	1
60	Centro Brasileiro de Língua Japonesa	ブラジル日本語学校関係資料（絵 ほか）	97
61	梓出版社	探究的世界史学習の創造：思考力・判断力・表現力を育む授業作り	1
62	アルファインテル南米交流	アマゾン：日本人移住 80 周年 1929-2009	1
63	イースト・ウエスト・ジャーナル社	East-West Journal 縮刷版 第 1-39 号、ハワイべんり帳、ハワイ文化芸能 100 年史 ほか	46
64	岩波書店	旅するニホンゴ：異言語との出会いが変えたもの	1
65	浦添市立図書館	浦添市移民史：ビジュアル版その 2 アジア太平洋・国内編	1
66	沖縄移民研究センター	移民研究 第 9 号	2
67	宮内庁	DVD 天皇陛下：傘寿をお迎えになって	1
68	クラウン貿易株式会社	商品カタログ、食品パッケージ関連ファイル、Eat-Japan：Japanese food trade directory 2010-11 ほか	6
69	甲南学園	平生夙三郎日記 第 7-8 巻	2
70	御坊市教育委員会生涯学習課	御坊ゆかりの先人たち：市制施行五十周年記念、カナダ・アメリカの移民と花月栄吉・和田勇	2
71	サンパウロ人文科学研究所	移民画家半田知雄：その生涯、Jinmonken：Os primórdios da imigração japonesa no Brasil[ 人文研 奨学生論集第 1 集 ] ほか	2
72	サンフアン日ボ協会	サンフアン日本人移住地 ポストカード	12
73	渋沢史料館	渋沢栄一と王子製紙株式会社、渋沢研究 第 26 号	2
74	新葉館出版	女 70 歳のアメリカ人旅：ルート 66 からはじまる大陸走破 11100 キロ	1
75	新曜社	ジャパニーズ・アメリカ：移民文学・出版文化・収容所	1
76	世田谷文学館	上を向いて歩こう展：奇跡の歌から希望の歌へ	1
77	全米日系人博物館	I am Alaskan、A promise kept：約束は守られた [ 紙芝居 ]	2
78	中央公論事業出版	築城を語る：パラグアイに実現した奇跡の日本の城	1
79	同志社大学アメリカ研究所	同志社アメリカ研究 = Doshisha American studies 第 49 号	1
80	同志社大学人文科学研究所	キリスト教社会問題研究 第 62 号	1
81	東洋大学アジア文化研究所	韓国移民関連法令集	1
82	南加福岡県人会	南加福岡県人会創立百周年記念 1908-2008	1
83	藤田缶詰株式会社	食品ラベル関連資料ファイル	1
84	ミシガン大学	シヌック・雪食う風 鶴沢梢歌集	1



	寄贈者	資料名	数量
85	横浜市史資料室	横浜市史資料室紀要 第3号、市史通信 第16号	2
86	横浜都市発展記念館	横浜都市発展記念館紀要 第9号、関東大震災と横浜	2
87	横浜みなと博物館	横浜港と関東大震災：震災からの復興：企画展	1
88	論創社	甦る放浪記：復元版覚え帖	1
89	和歌山県	ブラジル訪問調査報告書：2011(平成23)年度自治体国際協力促進事業(モデル事業)：『和歌山県とブラジル南マット・グロッソ州との相互交通によるドラードス市日本語モデル校へのサポート事業』	1

## 2014年度

	寄贈者	資料名	数量
1	個人	Home away from home : the Vancouver Tonari Gumi cookbook	1
2	個人	História do Japão em mangá	1
3	個人	Archives of municipal project for the 120th anniversary of immigration from Yumigahama to North America	1
4	個人	Brasilzinho ブラジルジニョ：ブラジルと日本100年の友情、Perfil socioeconómico de Umuarama-Paraná Brasil	2
5	個人	日系文化、わが半世紀、ロッキー山系 合同歌集 1974年版 ほか	6
6	個人	I kill giants、Henshin	2
7	個人	Little Tokyo リトル東京：J-Town Guide 2014.2-3、2013,2014 Calendar : Little Tokyo	4
8	個人	A filosofia do Samurai na administração Japonesa : Em quadrinhos	1
9	個人	在アルゼンチン鹿児島県人会創立100周年記念祭典 100º Aniversario 1911-2011	1
10	個人	短編映画「Lil Tokyo Reporter」ポスター	1
11	個人	「日本人が残した写真絵葉書に見る100年前の東南アジア付アフリカ」展カタログ	1
12	個人	樹海：アマゾン日本人移住八十五周年記念合同句集	1
13	個人	Mexico Miyagi Aoba Kai : 30 Aniversario 1982-2012 ほか	3
14	個人	論文抜刷「戦前昭和期沖縄県出身移民の出発港の実態」(石川友紀) ほか	5
15	個人	パイオニア川柳、女70歳のアメリカ人旅 ほか	7
16	個人	ララ物資関係資料(母子手帳)	1
17	個人	オキナワ日本ボリビア協会 コロニア・オキナワ入植60周年記念祭のグッズ ほか	3
18	個人	浸水林 + $\beta$ 《サンパウロ時代》	1
19	個人	パラナ開拓神社「五種の神具」(レプリカ)、アルバム(写真) ほか	3
20	個人	山東三州日本難民救済会報告書	1
21	個人	万里子さんの旅：ある帰米二世女性の居場所探し	1
22	個人	研究紀要 第7-10号、稲造精神とララ物資、愛わがプレリュード	6
23	個人	横浜の移民宿(卒業研究)/レジュメ	1
24	個人	ララ物資関係資料(アルミ食器)	13
25	個人	街と暮らしの50年：被爆50周年図説戦後広島市史	1
26	個人	のうそん 264-269号、我がグアタパラ耕地 ほか	9
27	個人	共生の大地アリアンサ：ブラジルに協同の夢を求めた日本人	1
28	個人	来し方の文	1
29	個人	たんぼぼ：自分史	1
30	個人	津川安正先生遺稿追悼文集：農業拓殖の志に生きて	1



	寄贈者	資料名	数量
31	個人	ブラジル移民関係資料ファイル（新聞切り抜き、手紙等）、輝ける碧き空の下で 第1-2部、ブラジル物語、蒼氓・日蔭の村 ほか	17
32	個人	銀嶺のアンデス：高橋是清のペルー銀山投資の足跡	1
33	個人	がんがらがん 1-8巻、大統領命令第9066号 ほか	12
34	個人	鶴嶺湖収容所内第7小学校全校生徒 集合写真	2
35	個人	ユリ・コチヤマ回顧録：日系アメリカ人女性 人種・差別・連帯を語り継ぐ	1
36	個人	DVD 岩国首頭、岩国民俗芸能まつり 関連資料ほか	3
37	個人	遙かなる地球の裏側に夢を馳せた人々：南米パラグアイ在住日系移住者の声	1
38	個人	Akane：Los Tankas de Mitsuko Kasuga, Migrante Japonesa en México	1
39	個人	杖下孝之コレクション ハワイ移住関係冊子	6
40	個人	日系国際結婚友の会会報 #7-32	26
41	個人	ワールドカップが100倍楽しくなるブラジル・ジンガ必勝法：ブラジルから学ぶ人生をとことん楽しむ秘訣！	1
42	個人	一粒の米もし死なずば：ブラジル日本移民レジストロ地方入植百周年	1
43	個人	野球移民 資料一式（複写）	1
44	個人	華僑送出4港の旅客統計分析に基づく中国人移民サイクルの再検討（前篇）（後篇）華僑華人研究9-10号 抜刷	2
45	個人	後藤潤リンチ事件と記念碑：ハワイ日系社会黎明期の記憶の表象	1
46	個人	短歌雑誌 加州短歌 138-141号	4
47	個人	移住センター、海外移住事業団 沖縄事務所関連写真	10
48	個人	Satogaeri：a um toque do Japão：里帰り：1908-2013 105 anos da imigração japonesa no Brasil	1
49	個人	南米オキナワの教育の軌跡：原生林からの出発：沖縄県ポリビア派遣教員25周年記念誌	1
50	個人	日韓中でつくる国際理解教育	1
51	個人	コーヒーの国でのエレクトロニクス、A fibra e o sonho	2
52	個人	ブラジル日系永住者巡回診療健診・家庭訪問実習報告書 平成26年度：Brazil Field Work 2014	1
53	個人	いのちたぎる：在米六十年 山中真知子短編小説集	1
54	個人	武藤山治：日本的経営の祖	1
55	個人	ブラジル ブルーガイド・ポシエ・アメリカ；02	1
56	個人	北米新報（複写）：1945年11月15日//12月8日（2）・15日（3）・22日（2）、（3）、（4）、（8）//1946年1月1日（4）	1
57	個人	短調：季刊詩誌 第99-102号、同人詩誌「短調」100号記念選集	5
58	個人	Argentina	1
59	アガペーセンター	共に生き共に歩む、復刻 奉仕団新聞	2
60	和泉短期大学	学校法人クラーク学園創立三十年誌、五十年誌	2
61	浦添市立図書館	浦添市移民史：証言・資料編	2
62	エドモントン日本文化協会	History Project - Data Collection Report：Edmonton Japanese Community Association (EJCA)	1
63	沖縄移民研究センター	移民研究 第10号	2
64	外務省外交史料館	マッサン展：琥珀色の夢と青いバラのものがたり 外交史料館 特別展示	1
65	高知市立自由民権記念館	高知市立自由民権記念館紀要 第22号	1



	寄贈者	資料名	数量
66	甲南学園	平生夙三郎日記 第9-10巻	2
67	在ポリビア福岡県人会	DVD サンファン日本人移住地入植 50周年記念記録映像 1955-2005	1
68	渋沢史料館	企画展「企業の原点を探る」シリーズ、渋沢研究 第27号	4
69	太地町歴史資料室	海を越える太地：太地町歴史資料室特別展	3
70	第8回海外福岡県人会世界大会実行委員会	DVD 海外福岡県人会世界大会 第8回：ルーツは福岡 夢は世界へ：未来につなごう 福岡の絆 2013.10.9～10.12	1
71	千葉県文書館	千葉県の歴史 通史編 近世 1,2、近現代 1-4、別編 年表	7
72	中央公論事業出版	築城を語る：パラグアイに実現した奇跡の日本の城	2
73	同志社大学アメリカ研究所	同志社アメリカ研究 = Doshisha American studies 第50号	1
74	同志社大学人文科学研究所	キリスト教社会問題研究 第63号、社会科学 第44巻 第3号	2
75	童夢	日本の「なぜ？」に答えるお話 366：伝統・文化から世界一の技術まで	1
76	富山県南米協会	南米ポリビアにかけた夢：サンファン移住者の男の情熱と魂	1
77	日墨協会	日墨協会 Boletín Informativo、にちぼく：Nichiboku	62
78	日伯協会	日本からブラジルへ：移住 100年の歩み ほか	4
79	日本ブラジル中央協会	ブラジル特報 1617-1621号	8
80	日本ポリビア協会	ABJ通信：ア・ベ・ホタつうしん ほか	112
81	日本郵船歴史博物館	東洋汽船そのあしどり、日本郵船歴史博物館収蔵品展	2
82	バンクーバー新朝日軍	Japan baseball tour 2015：Shin-Asahi makes history!：1921 Japan tour revisited	1
83	日野町企画政策課 日野町教育委員会	ヘンリー・木山義喬氏関連資料 DVD、絵はがき、しおり、作品展プログラム	6
84	ブラジリア光太鼓チーム	Brasil：terra de todas as cores	1
85	ペルー新報社	Andando 75 años por los caminos del Perú：La inmigración japonesa (1899-1974)	1
86	ペルー日系人協会	Kaikan Año.18 No.82-85,89-93	9
87	ポプラ社	442部隊の真実：アメリカ陸軍史上、最も勇敢だった日系人部隊の魂の物語	1
88	マイグレーション研究会	マイグレーション研究会会報 第9号	1
89	無明舎出版	綴り方で読む「ブラジル移住」	1
90	横浜市史資料室	横浜市史資料室紀要 第4号、市史通信 第19号、占領軍のいた街：戦後横浜の出発：報告書	3
91	横浜都市発展記念館	港をめぐる二都物語：江戸東京と横浜	1
92	横浜みなと博物館	横浜港ゆかりの船、船の旅と横浜港：秘蔵コレクション：開館 25周年記念展 ほか	3
93	吉川弘文館	「自由の国」の報道統制：大戦下の日系ジャーナリズム 歴史文化ライブラリー、381	1
94	立教大学ラテンアメリカ研究所	立教大学ラテンアメリカ研究所報 第42号	1
95	レニア吟社	俳句入り写真、レニア吟社 80周年記念ボールペン ほか	18
96	和歌山県国際交流協会	ブラジル訪問調査報告書：2011(平成23)年度自治体国際協力促進事業(モデル事業)：『和歌山県とブラジル南マット・グロッソ州との相互通交によるドラードス市日本語モデル校へのサポート事業』	1
97	和歌山大学紀州経済史文化史研究所	紀州経済史文化史研究所紀要 第24,27,28,31-34号、移民と和歌山 ほか	22
98	ワシントン大学東アジア図書館	ハリウッド：句集	1
99	福岡県国際交流センター	筑紫 vol.69 2014.9	1



## 2015年度

	寄贈者	資料名	数量
1	個人	Los que vinieron de Nagano : Una migración japonesa a México	1
2	個人	ポブルヘッド人形 トラビス・タカシ・イシカワ	1
3	個人	Suzuki Family 1897-1970's : Journey from Japan to California [家系図]	1
4	個人	アメリカ・ハワイ日系社会の歴史と言語文化	1
5	個人	国際化時代を視野に入れた説話と教科書に関する歴史的研究 : 平成 25 年度広域科学教科教育研究経費報告書 ほか	2
6	個人	浪漫川柳 ほか	16
7	個人	GARANTIDO ガランチード : 台本	1
8	個人	在米移住者の生活用品、写真、授与されたカップ類 ほか	69
9	個人	信ちゃんの昔話 ほか	9
10	個人	宇佐美昇三氏執筆記事複写のファイル等、ペルー遠隔中学校におけるテレビの教育効果研究	3
11	個人	Connecting hearts and realizing dreams、つなぐ : 外国人支援草の根ボランティア	2
12	個人	のうそん 270-275 号	6
13	個人	大和コロニー : フロリダに「日本」を残した男たち	1
14	個人	メディア - 移民をつなぐ、移民がつなぐ クロス文化学叢書 第 2 巻	1
15	個人	第二の祖国「ドミニカ」 : 一移住者が歩いた五十年間の足跡、人間の一生	2
16	個人	Kobe 2015 年 (平成 27 年) 7 月号 神戸市広報紙 : 特集 神戸とブラジル	1
17	個人	でも、ブラジルが好き、徒然なるままに、ブラジル生活見聞記	3
18	個人	俳句 & ハイカイ : 自然探訪 = Haiku & haikai : descobrindo a natureza	1
19	個人	小學國語讀本 : 尋常科用 巻 5-7,11,12、新制昭和國語讀本 巻 5 ほか	9
20	個人	ラテンアメリカの音楽と楽器、100 anos da imigração de Kagawa para o Brasil 1913-2013 ほか	6
21	個人	Corazon II : 田中辰之助先生没 50 周年記念	1
22	個人	岩国の民俗芸能、Izumo Taishakyo Mission of Hawaii centennial anniversary ほか	3
23	個人	花嫁移民 : 海を渡った花嫁達は	2
24	個人	DVD ヒロシマ・ナガサキ ダウンロード、El México más cercano a Japón ほか	8
25	個人	未来を拓く児童教育学 : 現場性・共生・感性	1
26	個人	祖国はるかに : 合同歌集 : ブラジル日本移民百周年記念	1
27	個人	証言渡米一世の女性たち : 明治、大正、昭和・日米の狭間に生きて	1
28	個人	越境するペルー人 : 外国人労働者、日本で成長した若者、「帰国」した子どもたち	1
29	個人	杖下孝之コレクションハワイ移住関係書籍	54
30	個人	メキシコ和歌山県人発展史 1985-2010、Yokoso ようこそ メキシコ año 1, no.1-4	6
31	個人	ブラジル日系社会百年の水流 : 日本外に日本人とその子孫の歴史を創った先人たちの軌跡	1
32	個人	ガリンベイロ (採金夫) 体験記	1
33	個人	Karizumai 仮住まい : 日系カナダ人強制収容所ガイドブック	2
34	個人	カリフォルニア日系人強制収容所、花嫁のアメリカ、Assimilation in American life ほか	6
35	個人	ピラポ農協 50 年のあゆみ 1960-2010 年	1
36	個人	二宮正人コレクション Coletânea de Poemas Tanka de Suas Majestades Imperiais ほか	2
37	個人	長谷川法世コレクション 長谷川法世著 漫画『がんがらがん』関連資料 (取材メモ、書簡、写真、新聞類 ほか)	159



	寄贈者	資料名	数量
38	個人	旅券、移住先のロサンゼルスでの家族写真 ほか	26
39	個人	俳句・ハイク：世界をのみ込む詩型	1
40	個人	「出会い」は神様の贈り物	1
41	個人	短歌雑誌 加州短歌 142-145号	4
42	個人	ひたすらに生きよ死んではならぬ：もう一人の「タケシ」南米ジャングル開拓物語	1
43	個人	国際化時代を視野に入れた文化と教育に関する総合的研究：平成26年度広域科学教科教育学研究経費報告書 ほか	2
44	個人	Mabe : Chove no cafezal	1
45	個人	移民の詩：大泉ブラジルタウン物語	1
46	個人	カーニバルがやってきた：Viva carnaval	1
47	個人	ある気象学者の一生、米国西北部日本移民史：解説	2
48	個人	日系移民社会における言語接触のダイナミズム：ブラジル・ボリビアの子供移民と沖縄系移民	1
49	個人	日本人と日系人の物語：会話分析・ナラティブ・語られた歴史	1
50	個人	ブラジル日系永住者巡回診療健診・家庭訪問実習報告書：Brazil Field Work 2015	1
51	個人	汎アマゾンア日伯協会創立55周年記念誌	1
52	個人	短調：季刊詩誌 第103-106号	4
53	個人	Vínculo de aço : minha mocidade dedicada à Usiminas	1
54	Angel Island Immigration Station Foundation	Angel Island : immigrant gateway to America	1
55	Nikkei National Museum and Cultural Centre	Nikkei images Spring 2015 Vol.20 No.1、Nikkei images Summer 2015 Vol.20 No.2	2
56	浦添市立図書館	浦添市移民史：本編	2
57	神奈川県博物館協会	博物館の未来をさぐる	1
58	北のミュージアム活性化実行委員会	北海道博物館ガイドブック	1
59	クラーク日本美術・文化研究センター	Cultural News 2013.6-11 : For appreciating Japanese traditions	6
60	高知市立自由民権記念館	自由のともしび：自由民権記念館だより Vol.79	1
61	甲南学園	平生八三郎日記 第11-12巻	2
62	国際日本語普及協会	AJALT : Association for Japanese-Language Teaching : アジャルト 38号(2015)	1
63	国士館史資料室	国士館百年史 史料編 上下	2
64	在エンカルナシオン領事事務所	初めての日本語学校 [紙芝居]	1
65	在日ブラジル商業会議所	Revista Brasil ブラジル第19号(2015.7)、第20号(2015.12)	2
66	在日ペルー大使館	ペルー古代アンデス文明研究における日本人の貢献	1
67	彩流社	エスニック・アメリカを問う：「多からなる一つ」への多角的アプローチ	1
68	渋沢栄一記念財団	渋沢栄一記念財団の挑戦	1
69	渋沢史料館	渋沢栄一再発見！：渋沢史料館のあゆみと名品：展示記録・講演集：〈企画展〉開館30周年記念	3
70	瑞鳳寺	Zen Sotoshu, 110 años en América del Sur	1
71	高島屋スペースクリエイツ株式会社	おかげにて135：高島屋インテリア事業135年の歩みとこれから	1
72	チューリッヒ日本商工会	日本・スイス国交樹立150周年記念事業：講演会&メモリアルブック	1



	寄贈者	資料名	数量
73	同志社大学アメリカ研究所	同志社アメリカ研究 = Doshisha American studies 第 51 号	1
74	同志社大学人文科学研究所	社会科学 第 45 巻 第 3 号	1
75	日伯協会	移住ミュージアムへのご案内：神戸市立海外移住と文化の交流センター	2
76	日本郵船歴史博物館	近藤廉平 -- 社長の肖像：日本郵船創業 130 周年記念企画展 ほか	2
77	平野デザイン事務所	Bem-vindo ブラジル街	18
78	広島ペルー協会	ペル・シマ：広島ペルー協会会報 第 25 号 (2015.9.1)	1
79	法善寺	再開六〇周年誌：60th Anniversary since re-opening 1952-2012 温故知新	1
80	報徳博物館	報徳博物館だより No.2 通算 No.109	1
81	マイグレーション研究会	マイグレーション研究会会報 第 10 号	1
82	有隣堂出版部	横浜港ものがたり：文学にみる港の姿	1
83	横浜市史資料室	横浜市史資料室紀要 第 5 号、市史通信 第 22 号、震災復興と大横浜の時代：報告書	3
84	横浜都市発展記念館	横浜都市発展記念館紀要 第 10,11 号、ハマを駆ける：クルマが広げた人の交流 ほか	4
85	横浜みなと博物館	愛すべき海辺の観光の今・昔：企画展	1
86	立教大学ラテンアメリカ研究所	立教ラテンアメリカ叢書 第 1 巻 第 2 巻、立教大学ラテンアメリカ研究所報 第 43 号	3
87	立命館大学国際平和ミュージアム	戦後を語る 70 のカタチ：立命館大学国際平和ミュージアム 2015 年度秋季特別展	1
88	和歌山県	B.C. 州和歌山県人会創立五十周年誌 1965-2015	3
89	和歌山県国際交流協会	DVD 和歌山とブラジル 未来へのかけはし ほか	3
90	和歌山県立近代美術館	石垣栄太郎展：生誕 120 年記念	1

## 2016年度

	寄贈者	資料名	数量
1	個人	アンデスの空パタゴニアの風、アンデス山脈を越えるとき	2
2	個人	すばる 11 巻 3 号、11 巻 4 号	2
3	個人	Aloha Tanka アロハ探歌 No.19 Vol.4 No.3、No.20 Vol.4 No.4、No.22 Vol.5 No.2、No.23 Vol.5 No.3	4
4	個人	浪漫川柳 2016 年 4-5 月	2
5	個人	大坪庄太郎関係資料（旅券、再入国許可証、写真ほか）	13
6	個人	ブラガンサ・パウリスタ連合日本人会創立 40 周年記念誌、ブラガンサ・パウリスタ連合日本人会 50 年史：光と影の記憶	2
7	個人	海外の川柳事情	1
8	個人	やぎのおじさん行状記：キリストの愛の軌跡	1
9	個人	コチア青年：60 年のきずな 1955-2015	1
10	個人	2016 年リオデジャネイロオリンピック 聖火トーチ、聖火ランナー ユニフォーム	2
11	個人	校正原稿 海を越えて五百年（荻野正蔵）	1
12	個人	移民史 1 南米編、ブラジル日系コロニア文芸 別巻、うるわしのウルグアイ ほか	3
13	個人	銅板レリーフセット、のうそん 276-279 号	5
14	個人	カナダ日本人移民の子供たち：東宮殿下御渡欧記念・邦人児童写真帖	1
15	個人	学移連出身・南伯雇用移住者・在伯五十年（1965-2015）の記録	6



	寄贈者	資料名	数量
16	個人	自分史「はからんだ」(複写)	1
17	個人	ラテンアメリカ 21 世紀の社会と女性	1
18	個人	黒田又蔵氏関連資料(旅券、写真、表彰状 ほか)	50
19	個人	新天地に挑む	1
20	個人	ハワイ馬哇神社関連集合写真 ほか	12
21	個人	カナダの桜: 佐藤紀子歌集 コスモス叢書; 第 1105 篇	2
22	個人	アルゼンチン、沖縄移民 100 年の歩み	1
23	個人	移民一世の肖像、Arrotilla: 日本 - メキシコ国際結婚の結実	2
24	個人	ハワイのニッケイの祭り関連資料(盆踊り手ぬぐい、神社などの御守 ほか)	85
25	個人	在日外国人とメディア、ハワイ日系社会ものがたり	2
26	個人	ビジュアル版近代日本移民の歴史 1. 南アメリカ〜ブラジル、2. 北アメリカ〜ハワイ・西海岸	2
27	個人	踊りきるまで: 短歌・エッセイ	2
28	個人	在米移住家族の写真、婚姻証明書、出生証明書、強制収容関連資料、Executive order 9066 ほか	49
29	個人	鏡像の祖国: アルゼンチンの日系人たち	1
30	個人	日系国際結婚友の会会報 # 33-38	6
31	個人	在アルゼンチン移住者が自身の写真館で撮影した写真、授与された感謝状、戦前海外へ渡った写真師たち 資料・1 中国編 三船秋香と、資料・2 アルゼンチン編 寺川正人 ほか	75
32	個人	メキシコ移住関連資料(CD、写真、あかね記念館リーフレット ほか)	19
33	個人	Oneness in the Nembutsu: Gratitude for the Past・Aspirations for the future 1916-2016 北米開教区山東三州仏教会創立 100 周年記念プログラム関連資料	1
34	個人	ハワイに高知城をたてた男奥村多喜衛 ほか	2
35	個人	オーストラリアの日本人: 過去そして現在、DVD Civilian Internment Project	2
36	個人	Taiken: Japanese Canadians since 1877、Story of Vancouver Asahi: a legend in baseball	2
37	個人	学校と博物館でつくる国際理解教育のワークショップ 国立民族学博物館調査報告	1
38	個人	Evolución: 80 años (1936-2016)	1
39	個人	Terra de Esperança Kibo no Daitsi 希望の大地、Uchinanchu, Cidadãos do Mundo ほか	4
40	個人	二宮正人コレクション 120 anos: construindo os alicerces para o futuro das relações Brasil-Japão ほか	10
41	個人	第三トメアスー植民地建設構想	1
42	個人	希望大国ブラジル	1
43	個人	1952 年ヘルシンキオリンピック銅メダル(レプリカ)、葡和辞典	2
44	個人	短歌雑誌 加州短歌 146-148 号	3
45	個人	博物館という装置: 帝国・植民地・アイデンティティ、桂会通信 No.44 2016 年 4 月ほか	3
46	個人	ブラジル・サントス強制立ち退き(1943 年) 関連資料: 名簿	1
47	個人	私のアマゾン移住史	1
48	個人	DVD サンゴーヨン★サッカー	1
49	個人	複数の旋律を聞く: 沖縄・南洋群島に生きたひとびとの声と生	1
50	個人	移り来て、今: ブラジル日系移住地に渡った人々の記録	1
51	個人	短調: 季刊詩誌 第 107-109 号	3
52	個人	はるばるきたぜメキシコ、日墨協会 60 周年記念事業マスタープラン 1956-2016	2



	寄贈者	資料名	数量
53	個人	História do Hospital Santa Cruz : Sociedade Brasileira e Japonesa de Beneficência Santa Cruz : fundada em 1926	1
54	CWS Japan	DVD ララ 70 周年記念フォーラム「今伝えたいララからのメッセージ」第 1,2 部、ララからのおくりもの : 戦後の日本を支えた人道支援 ほか	4
55	Nikkei National Museum and Cultural Centre	Nikkei images Spring 2016 Vol.21 No.1	1
56	エドモントン日本文化協会	EJCA Community Survey 2013 Results and Individual Histories	1
57	大磯町郷土資料館	Report : 大磯町郷土資料館だより No.36	1
58	くまもと文学・歴史館	くまもと文学・歴史館開館及び熊本近代文学館 30 周年記念誌	1
59	高知県立美術館	海を渡った高知スピリット : 高知の移民文化発信プロジェクト : リーフレット、高知県内文化施設等連携企画・高知の移民文化発信プロジェクト	2
60	高知市立自由民権記念館	自由のともしび : 自由民権記念館だより Vol. 80、81	2
61	甲南学園	平生夙三郎日記 第 13-14 巻	2
62	在日ブラジル商工会議所	Revista Brasil ヘビスタ・ブラジル 第 22 号	2
63	渋沢史料館	渋沢研究 第 29 号	1
64	昭和館	昭和のくらし研究 第 14 号	1
65	ソロカバ日伯文化体育協会	Arigatô : a incrível história dos imigrantes japoneses em Sorocaba = ありがとう	1
66	同志社大学アメリカ研究所	同志社アメリカ研究 = Doshisha American studies 第 52 号	1
67	同志社大学人文科学研究所	キリスト教社会問題研究 第 65 号、社会科学 第 46 巻 第 1,2 号	3
68	東洋大学アジア文化研究所	国境をまたぐ生活スタイル : 量的研究に向けて	1
69	豊見城市教育委員会	豊見城市史 第 4 巻 移民編 (本論)、移民編 (証言・資料)、豊見城市しまくとぅば読本 : 高学年・一般用	6
70	ハワイ移民資料館仁保島村	Aloha! From Japan、にほしま 第 19 号、わたしたちの町 広島市	3
71	日本学生海外移住連盟 OB 会	日本学生海外移住連盟関係資料	68
72	日本ブラジル中央協会	ブラジル特報 1635-1637 号	9
73	日本郵船歴史博物館	まるごと氷川丸展 : 重要文化財指定記念	1
74	広島県立文書館	広島県立文書館だより 第 40 号	1
75	ブラジル日本青年商工会議所 (JCI)	Satogaeri : a um toque do Japão : 里帰り : 1908-2013 105 anos da imigração japonesa no Brasil	1
76	北海道博物館学芸部	ビジュアル北海道博物館	1
77	マイグレーション研究会	マイグレーション研究会会報 第 11 号	1
78	武蔵野美術大学出版局	ミュゼオロジーの展開 : 経営論・資料論	1
79	横浜市史資料室	横浜市史資料室紀要 第 6 号、市史通信 第 25 号	2
80	横浜都市発展記念館	横浜都市発展記念館紀要 第 12 号、横浜都市発展記念館資料目録 第 1 集、横浜山下公園 : 海辺に刻まれた街の記憶 ほか	4
81	横浜みなと博物館	大さん橋物語 : 日本の海の玄関 : 企画展	1
82	立教大学ラテンアメリカ研究所	立教大学ラテンアメリカ研究所報 第 44 号	1
83	琉球大学法文学部宮内研究室	移民研究 第 11,12 号	2
84	論創社	家庭内捨て子物語	1
85	和歌山大学紀州経済史文化史研究所	移民の仕事とくらし (日本語版) (英語版)	6



## 2017年度

	寄贈者	資料名	数量
1	個人	Dall'estremo oriente all'estremo occidente : storia delle migrazioni cinesi, giapponesi e coreane negli Stati Uniti dal 1848 al 1924	1
2	個人	Nikkei fishermen on the BC coast : their biographies and photographs : 潮流 ほか	4
3	個人	Hama : 破魔	1
4	個人	Encontros de vidas! : histórias gestálticas como norte	1
5	個人	A história da imigração Japonesa em Lins、リンス日本移民の歴史	2
6	個人	土器 (huaco)	2
7	個人	国際社会学入門	1
8	個人	海外移住家族会会報 第35集 : 創立40周年記念特集号	1
9	個人	Amigos 第1-25号 (ファイル1)、第26-80号 (ファイル2)、第81-161号 (ファイル3)	3
10	個人	海を越えて五百年	1
11	個人	奥泉栄三郎コレクション 北米移住関係書籍	179
12	個人	Gaman : A Generation in Hawai'i : 我慢、Five years on a rock、Jan ken po : the world of Hawai'i's Japanese Americans ほか	13
13	個人	旅券、卒業記念アルバム集、教科書 ほか	26
14	個人	概説ラテンアメリカ史、アマゾン : 民族・征服・環境の歴史	2
15	個人	ミリキタニの思い出 II	1
16	個人	サントス港 : 詩集	1
17	個人	ブラジルハンドブック : 情熱と大自然の国を感じてみよう!	2
18	個人	Japanese-Canadian stories from Japan	1
19	個人	ハワイの日本語新聞雑誌事典 1892-2000	1
20	個人	明治期に布哇そして北米に渡った埼玉県人	1
21	個人	Los que vinieron de Nagano : Una migración japonesa a México	1
22	個人	ブラジル日本人移民80周年記念メダル、サンパウロ新聞、サンパウロ日本人学校関連資料 ほか	25
23	個人	中国新聞連載記事複写「銭村家の軌跡 野球と生きた日系米国人」	9
24	個人	杖下孝之コレクション ハワイ日系二世兵士関連資料 (制服、勲章類、写真、新聞記事、インタビューカセットテープ ほか)	67
25	個人	DVD Confraternidad Deportiva Internacional Nikkei (Mexico 2016) : 日系国際スポーツ親善大会 第22回 ほか	2
26	個人	トロント新移住者50年の歩み 1967-2017	1
27	個人	Righting Canada's Wrongs : Japanese Canadian Internment in the Second World War	1
28	個人	二宮正人コレクション ブラジル移住関係書籍 ほか	248
29	個人	ボクシングと大東亜 : 東洋選手権と戦後アジア外交	1
30	個人	No sabían que somos semillas : Los 17 desaparecidos de la colectividad japonesa	1
31	個人	「勝ち組」異聞 : ブラジル日系移民の戦後70年	1
32	個人	ブラジル福岡県人発展史 : 福岡県人100年の歩み 第3	1
33	個人	Em Busca do Monte Distante : Memórias de um Imigrante	1
34	個人	Kasato-Maru : uma viagem pela história da imigração japonesa	1
35	個人	細川周平コレクション 日系文学・芸能関係書籍、CD ほか	32



	寄贈者	資料名	数量
36	個人	大学的熊本ガイド：こだわりの歩き方	1
37	個人	短歌雑誌 加州短歌 149-153号	5
38	個人	松宮商店とバンクーバー朝日軍：カナダ移民の足跡	1
39	個人	阿保家ファミリーヒストリー、サムライたちのメキシコ：漫画メキシコ榎本殖民史、Los samuráis de México	5
40	個人	移住半世紀の集い：カナダ 1967-2017	1
41	個人	はじまりの光景：日本統治下南洋群島に暮らした沖縄移民の語りから	1
42	個人	ペルーの和食：やわらかな多文化主義	1
43	個人	短調：詩誌 第110-113号	4
44	個人	Hayao Washida氏関連資料（写真、記念プレート ほか）	13
45	Nikkei National Museum and Cultural Centre	Nikkei images [2017] Vol.22 No.1-No.3	3
46	Saito Tamilyn	リンス慈善文化体育協会	1
47	アマゾン高拓会	A saga dos Koutakuseis no Amazonas : Uma história de pioneirismo, sofrimento, perseverança e SUCESSO	1
48	大磯町郷土資料館	吉田茂：その生涯と大磯：旧吉田茂邸落成記念企画展	1
49	小田原市経済部小田原城総合管理事務所	小田原城址の150年：モダン・オダワラ・キャッスル1868-2017：平成28年度小田原城天守閣特別展	1
50	金武町教育委員会	當山久三小伝：沖縄県人海外移民の父	1
51	甲南学園	平生八郎日記 第15-16巻	2
52	在日ブラジル商工会議所	Revista Brasil ヘピスタ・ブラジル 第23号、第24号	2
53	在マナウス日本国総領事館	A fibra e o sonho : a saga da colonização japonesa na Amazônia contada através da jornada do pioneiro Kinji Ikegami	1
54	座間市教育委員会	郷土の先人に学ぶ	1
55	座間市教育研究所	郷土の先人に学ぶ	2
56	シーズプロジェクト	DVD ロイストーン製作所（バンクーバー島）1930年 上西寛之助 / 撮影	1
57	渋沢史料館	渋沢研究 第30号、渋沢栄一と王子製紙株式会社関連講演録：渋沢史料館企画展 ほか	4
58	同志社大学アメリカ研究所	同志社アメリカ研究 = Doshisha American studies 第53号	1
59	同志社大学人文科学研究所	キリスト教社会問題研究 第66号、社会科学 第47巻 第1,2号	3
60	長野県上伊那郡飯島町役場	子孫たちへ	2
61	ながらみ書房	青き地平線 = The blue horizon : 石垣薫紅ギルバート J. ペリー歌集	1
62	南加商工会議所	南加日系婦人会創立110周年記念誌、米国書道研究会創立五十周年記念作品集、記念誌 ほか	12
63	ハワイ移民資料館仁保島村	HAWAII : ハワイもう一つの発見、にほしま 第20号、麗しのラヂオデイズ ほか	8
64	日本ブラジル中央協会	ブラジル特報 1638-1643号	18
65	日本郵船歴史博物館	日本が運んだニッポン：客船時代のメニューデザイン ほか	3
66	広島大学教育開発国際協力研究センター	国際教育協力論集 20巻1号(2017.10)	1
67	ブラジル力行会	ブラジル力行会100年のあゆみ 1917-2017	2
68	文踊社	Hula Le'a = フラレア No.68,69	2
69	文理閣	移民が紡ぐ日本：交錯する文化のはざままで	1
70	北國新聞社	石川県人ブラジル移民100年：心のきずな、子々孫々へ	1
71	ポブラ社	星ちりばめたる旗	1



	寄贈者	資料名	数量
72	マイグレーション研究会	マイグレーション研究会会報 第12号	1
73	山口県ペルー協会	心のとびら、山口★ペルー友 vol.14	2
74	横浜市国際交流協会	天皇后両陛下ハワイ奉迎記念写真集、開教初期の想い出ほか	5
75	横浜市史資料室	横浜市史資料室紀要 第7号、市史通信 第28号、横浜の戦争：市民と兵士の記録：報告書	3
76	横浜都市発展記念館	横浜都市発展記念館紀要 第13号、ようこそ！横浜地図ワールドへ	2
77	横浜みなと博物館	海難と救助：信仰からSOSへ：企画展、ずっと港のまんやかに新港ふ頭展	2
78	立教大学ラテンアメリカ研究所	立教大学ラテンアメリカ研究所報 第45号	1
79	琉球大学法文学部宮内研究室	移民研究 第13号	1

## 2018年度

	寄贈者	資料名	数量
1	個人	'Eheu エヘウ～翼～ 2018年秋号	1
2	個人	駐米大使 埴原正直 [パワーポイント資料]	1
3	個人	移民の魁傑・星名謙一郎の生涯：ハワイ・テキサス・ブラジル	1
4	個人	ハワイ移民の子：ハワイ日系連合協会主催移民百年祭記念募集小説一等入選作	1
5	個人	浪漫川柳 2018年8月	2
6	個人	1991：A história da mídia brasileira no Japão	4
7	個人	アラス戦線へ：第一次世界大戦の日本人カナダ義勇兵	1
8	個人	ブラジル日本移民110周年記念ピンバッジ	1
9	個人	Japaneseness across the Pacific and beyond = ジャパニーズネスは太平洋を越える / 超える	1
10	個人	のうそん 280号	1
11	個人	木曜島真珠貝漁業の記録：瀧本庄太郎日記、藤田健児スケッチブック：西豪州・コサック追想	2
12	個人	実用的なブラジル式日伯料理と製菓の友、和葡辞典 ほか	2
13	個人	日墨協働会社関係資料（マイクロフィルム、ファイル）	5
14	個人	NO-NO BOY：日系人強制収容と闘った父の記録	1
15	個人	経歴書、自分史「はからんだ」関連資料、写真（複写）	11
16	個人	ララ物資と沖縄：ヘイファー・プロジェクトによる山羊の事例 和光経済 第50巻 第3号 抜刷 ほか	3
17	個人	A Jornada De Tarô	1
18	個人	海外植民学校と比佐衛 第1号、崎山家家系図	2
19	個人	ハワイ移住関係書籍	4
20	個人	シアトル移民研究：新舩與右衛門の理髪業成功についての考察	1
21	個人	パラナ州日本移民110周年記念切手シート	2
22	個人	元年者：8世代の足跡、ハワイ報知百年史、Hawaii Pacific Press No.213,214,217 ほか	6
23	個人	アマゾンのアグロフォレストリー	1
24	個人	Aunty Kay Stories	1
25	個人	Hiroshima immigrants in Canada, 1891-1941、Nikkei images [2018] Vol.23 No.1	2
26	個人	Intercâmbio cultural Brasil-Japão	2
27	個人	二宮正人コレクション ブラジル移住関係書籍 ほか	17



	寄贈者	資料名	数量
28	個人	南加高知県人会関連資料（高知新聞記事複写、写真 ほか）、南加高知県人会創立百周年記念誌	25
29	個人	移民が紡ぐ日本：交錯する文化のはざままで	1
30	個人	442nd Regimental Combat Team 帽子	1
31	個人	La posta infinita	1
32	個人	須藤かく：日系アメリカ人最初の女医	1
33	個人	Fronteira 5号（2017.11）松井太郎追悼集	1
34	個人	遙かなる海超えて	1
35	個人	西風：同人誌 No.4-6、インダイアツバ日伯文化体育協会創立 70 周年記念誌 ほか	7
36	個人	短歌雑誌 加州短歌 154-157 号、カリフォルニア短歌会合同歌集第八集『花杏』 創立四十周年記念	5
37	個人	沖縄ニューカレドニア友好協会 10 周年記念誌 2006-2017	1
38	個人	カナダ移民の子：帰加二世物語	1
39	個人	高木三郎氏旧蔵資料 南洋、南洋協會雑誌、南洋情報及資料 ほか	116
40	個人	短調：詩誌 第 114-117 号	4
41	And then they came for us 日本事務局	DVD And then they came for us	1
42	Nikkei National Museum and Cultural Centre	Nikkei images [2018] Vol.23 No.1、No.2	2
43	岩波書店	移民国家アメリカの歴史 岩波新書 新赤版；1744	1
44	大磯町郷土資料館	明治の功労者：湘南社の活動と近代地方行政 明治 150 年企画展	1
45	沖縄移民研究センター	移民研究 第 14 号	1
46	沖縄 NGO センター	世界のウチナーンチュカルタ！チャンプレアンド：英語、レッツスタディー！世界のウチナーンチュ 参加型学習教材 ほか	3
47	沖縄県文化観光スポーツ部 空手振興課	沖縄空手資料収集・調査研究事業報告書 平成 29 年度、空手発祥の地沖縄	2
48	御茶の水書房	海外ウチナーンチュ活動家の誕生：民族文化主義の実践	1
49	海外日系新聞放送協会	元年者：8 世代の足跡、ハワイと南の島々展：ハワイ日系移民渡航 150 周年 時空をこえる本の旅；18	3
50	学習院高等科	学習院高等科紀要 第 15,16 号	2
51	神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校	海外移住関連ポスター、チラシ	6
52	神奈川大学学芸員課程委員会	神奈川大学学芸員課程年報 第 7 号	1
53	甲南学園	平生夙三郎日記 第 17-18 巻、平生夙三郎	3
54	国立民族学博物館	民博通信 No.124 特集 国籍とパスポートの人類学	2
55	こまつ座	t h e 座 87 号：マンザナ、わが町	1
56	在亜日系団体連合会	在アルゼンチン日本人移民コミュニティ（日本人移民とその子孫）の人口調査 2015 年 5 月ほか	3
57	在日ブラジル商工会議所	Revista Brasil ヘピスタ・ブラジル 第 25 号、第 26 号	3
58	サンパウロ人文科学研究所	人文研史：半世紀の歩み	1
59	サンパウロ日伯援護協会	サンパウロ日伯援護協会 布バッグ	1
60	渋沢史料館	渋沢研究 第 31 号	1
61	ジャパンジャーナル社	The Japan Journal Vol.15 No.1（2018.5-6）「More power to Nikkei communities in Brazil」	1



	寄贈者	資料名	数量
62	東京ウェルカムイベント実行委員会	鹿児島県人世界大会・東京ウェルカムイベント(プログラム)	3
63	同志社大学アメリカ研究所	同志社アメリカ研究 = Doshisha American studies 第54号	1
64	同志社大学人文科学研究所	キリスト教社会問題研究 第67号	1
65	ニッケイ新聞社	O homem da mata selvagem : a saga do pai da imigração japonesa, Shuhei Uetsuka ほか	3
66	日本ブラジル中央協会	ブラジル特報 1644-1649号	16
67	日本郵船歴史博物館	時計×航海：経度ヲ発見セヨ	1
68	広島市公文書館	広島市被爆70年史：あの日までそして、あの日から：1945年8月6日	1
69	文藝春秋	文藝春秋 平成30年11月号(第96巻第11号) 特集 亡国の「移民政策」	1
70	ペルー鹿児島県人会	ペルーにおける鹿児島の100年 1916-2016 : 100 años de Kagoshima en el Perú	1
71	マイグレーション研究会	マイグレーション研究会会報 第13号	1
72	マウリシオ・デ・ソウザ プロダクションズ ジャパン	Monica and Friends (モニカ&フレンズ) ブラジルと日本：友好110周年 ほか	8
73	横浜港振興協会	よこはま港 第136号(2019.1)	1
74	横浜都市発展記念館	横浜都市発展記念館資料調査報告	1
75	横浜みなと博物館	絵本でたのしむ 海と船：企画展、柳原良平海と船と港のギャラリー：企画展：1954-2015 ほか	3
76	読谷村史編集室	写真で見る読谷村の移民・出稼ぎ：世界のユンタンザンチュ	1
77	ラテンアメリカ協会	ラテンアメリカ時報 通巻1421号,1422号	2
78	立教大学ラテンアメリカ研究所	立教大学ラテンアメリカ研究所報 第46号	1
79	ワシントン州日本文化会館(JCCCW)	Unsettled / resettled : Seattle's Hunt Hotel : the secret history of the Japanese Language School, 1945-1959 ほか	3

## 2019年度

	寄贈者	資料名	数量
1	個人	しゃくなげ 第三集	1
2	個人	John Okada : the life & rediscovered work of the author of No-no boy	1
3	個人	Imperial basketball no.1,2	2
4	個人	Quiet Defiance : Alaska's Empty Chair Story	1
5	個人	Redefining Japaneseness : Japanese Americans in the ancestral homeland	1
6	個人	DVD Nikkei	1
7	マウリシオ・デ・ソウザ プロダクション	Monica teen、Monica's gang、Turma da Mônica jovem ほか	32
8	個人	Flavors of Japan、Japanese foods : tested recipes、San Jose's Japantown ほか	15
9	個人	Our favorites in Canadian Japanese cookery : revised edition	1
10	個人	100 anos da Imigração Japonesa em Piracicaba	2
11	個人	ニューカレドニア：南太平洋・青春に乾杯	1
12	個人	Honolulu (2019.12) Vol.54 No.6	1
13	個人	赤道の国から日出ずる国へ：エクアドルと日本の100年(1918年-2018年) ほか	2



	寄贈者	資料名	数量
14	個人	衣服（ララ物資）	18
15	個人	Hawaiian Minister's Ikaho Villa（リーフレット）	3
16	個人	立教大学ラテンアメリカ研究所報 第47号	1
17	個人	太平洋戦争におけるオーストラリアの日本人・日系人強制収容所記録	1
18	個人	聲牲、レモン帖、海の外より：詩集 ほか	9
19	個人	在米国日本人基督教五十年史、Report of the Japan Mission of the Presbyterian Church in the U.S.A. ほか	17
20	個人	ブラジル文学翻訳集 第5巻 短編集 おかえりなさい	1
21	個人	在ペルー移住者の家族写真 ほか	37
22	個人	佐々木靖章コレクション ブラジル移住及びコーヒー関係資料	444
23	個人	Eróticos No.6、Neuros No.11/79	2
24	個人	横濱：YOKOHAMA 2019年春号 Vol.64：特集 手彩色絵葉書でよみがえる横浜	1
25	個人	楓：合同歌集	1
26	個人	いただきます：Itadakimasu、Heritage of Japan：favorite recipes、Oriental cuisine	3
27	個人	五十年の軌跡 1967-2017	1
28	個人	体験：1877年からの日系カナダ人、Battlefield at Last：The Japanese Canadian Volunteers of the First World War, 1914-1918 ほか	3
29	個人	北米、ハワイ移住関係書籍	18
30	個人	二宮正人コレクション ブラジル移住関係書籍 ほか	7
31	個人	現代思想 4月号 第47巻第5号（2019.4）：特集 新移民時代：入管法改正・技能実習生・外国人差別	1
32	個人	ガルアペー移住地 50周年記念写真集 1959-2009	1
33	個人	南米行脚 2015、Sakigake：魁、Takara：Caligrafía japonesa de Hamano Ryuho ほか	5
34	個人	ハワイ盆踊りの提灯、手ぬぐい、法被 ほか	9
35	個人	悪いけど、日本人じゃないの	1
36	個人	日本時間：日系社会向けのラジオ番組 ペルー編、La hora Japonesa en el Perú：historia de los programas radiales para la Colonia Japonesa	2
37	個人	移民と日本人：ブラジル移民 110年の歴史から	1
38	個人	アジアにおける民主主義と経済発展 神奈川大学アジア研究センター叢書；5	1
39	個人	細川周平コレクション 日系文学・芸能関係書籍	58
40	個人	日本で初めて労働組合をつくった男：評伝・城常太郎	1
41	個人	Retratos da infância na imigração japonesa ao Brasil：imagens do acervo do Museu Histórico da Imigração Japonesa no Brasil	1
42	個人	短歌雑誌 加州短歌 158-161号	4
43	個人	在米被爆者	1
44	個人	鎗田鷹助伝：明治期・移民事業に半生を捧げた男	1
45	個人	Hāfu2Hāfu：A Worldwide Photography Project about Mixed Japanese Identity	1
46	個人	DVD Gaijin：caminhos da liberdade、Gaijin：ama-me como sou	2
47	個人	短調：詩誌 第118-121号	4



	寄贈者	資料名	数量
48	個人	在ハワイ移住者が使用していたトランク、図書類、アルバム ほか	33
49	Associação dos Departamentos de Senhoras Cooperativistas (ADESC)	Delícias da Mamãe : Ano 1994,1998,2004,2010	4
50	Japanese American National Museum	DVD "Artbound" Masters of Modern Design : The Art of the Japanese American Experience	1
51	Nikkei National Museum and Cultural Centre	Nikkei images [2019] Vol.24 No.1、No.3	2
52	アサイ市	ブラジルパラナ州アサイ市の絵ハガキ	10
53	アルファインテル南米交流	るるぶペルー [2013]、ペルー観光公式ガイド ほか	4
54	沖縄移民研究センター	移民研究 第15-16号	2
55	小田原市郷土文化館	小田原市郷土文化館研究報告 No.55	1
56	海外移住150周年研究プロジェクト	遙かなる「ワカマツ・コロニー」：トランスパシフィックな移動と記憶の形成	1
57	海外日系新聞放送協会	太平洋を渡った杉原ビザ：カウナスからバンクーバーまで	1
58	くまもと上塚周平顕彰会	くまもと上塚周平顕彰会会報 第6号	1
59	熊本県	県人会かわらばん：熊本と世界をつなぐ 第29号、くまもとの研修：海外技術研修員・県費留学生研修報告書 平成30年度	4
60	クリチーバ日伯文化援護協会	ブラジル移住関連資料 ほか	17
61	劇団夢棧敷	DVD 劇団夢棧敷「万華鏡：百年物語」ブラジル公演（プロミッソン市劇場）2018年10月	1
62	行路社	交差する眼差し：ラテンアメリカの多様な世界と日本	1
63	国立歴史民俗博物館	ハワイ：日本人移民の150年と憧れの島のなりたち：企画展示	2
64	コンデックス株式会社	旅するこどものポルトガル語 リオデジャネイロ編	1
65	在日ブラジル商工会議所	Revista Brasil ヘビスタ・ブラジル 第27号、第28号	4
66	佐川町立青山文庫	ブラジル移民の父 水野龍：“舞楽而留”への旅：舞い、楽しんで留まるべき楽土	1
67	社会評論社	移民労働者は定着する：『ニュー・カナディアン』文化、情報、記号が伴に国境を横切る	1
68	昭和館	昭和のくらし研究 第17号	1
69	(株)セラード珈琲	セラードコーヒーの挑戦：セラードコーヒー物語	1
70	拓殖大学海外移住研究会 OB会「桂会」	桂会通信 No.50	1
71	駐日ボリビア多民族国大使館	ボリビア日本人移住120周年記念グッズ ほか	11
72	成田市教育委員会	成田市の文化財 第50集	2
73	日本人ペルー移住史料館	日秘文化会館：夢の実現	1
74	日本大学生物資源科学部国際地域研究所	ブラジルと日本での再生可能エネルギー戦略の比較研究	2
75	日本ブラジル中央協会	ブラジル特報 1650-1655号	18
76	日本郵船歴史博物館	船の上でよい、ドン！：船旅とスポーツの時間：企画展 ほか	2
77	バンクーバー新報社	バンクーバー朝日デザイン記念切手シート、封筒	7
78	ボリビア日系協会連合会	日本人ボリビア移住120周年記念関連資料（式典リーフレット、関連グッズ、画像データ等）、DVD ボリビア熊本県人会創立60周年記念式典 映像・写真集	18



	寄贈者	資料名	数量
79	マイグレーション研究会	マイグレーション研究会会報 第 14 号	1
80	立教学院展示館	立教ディスプレイ：立教学院展示館年報 = Rikkyo display 第 4 号	1
81	立教大学ラテンアメリカ研究所	立教大学ラテンアメリカ研究所報 第 47 号	1
82	ロンドリーナアリアンサ	国際文化画報：International cultural pictorial 第 4 巻第 4 号、第 6 巻第 10 号	2
83	和歌山県	和歌山県人ブラジル移住 100 周年記念誌	1
84	和歌山市民図書館移民資料室	和歌山市民図書館移民資料室	1

## 2020年度

	寄贈者	資料名	数量
1	個人	上塚司のアマゾン開拓事業	1
2	個人	沖縄で想う：歴史・世相・移民	1
3	個人	日本人ペルー移住 120 周年記念関係資料、グッズ ほか	62
4	個人	教育カード：顧みりゃ 移民懐かし あいうえお	1
5	個人	Diccionario Okinawense-Castellano [ 沖西辞典 ]	1
6	個人	村松治郎 (1878-1943)：オーストラリアに生きた日本人ビジネスマン	1
7	個人	ブラジル移住関係書籍、ファイル類	40
8	個人	西風 No 11-2020、No 12-2020	2
9	個人	イベロアメリカ研究：Iberoamericana 40 巻 1 号 ( 通巻 78 号 )	1
10	個人	「越境的時空間及びメディアとしての移民船をめぐる文明史的研究」研究成果報告書	1
11	個人	日本の風：Vientos del Japón、Takara：Caligrafía Japonesa ほか	2
12	個人	日本時間：日系社会向けのラジオ番組 北米諸国 ( 戦前 ) 編	1
13	個人	短歌雑誌 加州短歌 162-165 号	4
14	個人	ハチドリの歌	1
15	個人	三種の浦人、カナダ移民と三尾小学校考察 ほか	4
16	個人	短調：詩誌 第 122-124 号	3
17	個人	玉木勇治 作：絵画、沖中正男 作：絵画、福島近 作：絵画	3
18	Nikkei National Museum and Cultural Centre	Nikkei images [2020] Vol.25 No.1、No.2	2
19	アーティゾン美術館	美術館と家族：ファミリープログラムの記録と考察	1
20	石川県海外移住家族会	日系人との連携と交流：海外石川県人会だより [2021]	2
21	宇検村教育委員会事務局	宇検村ブラジル移民百周年記念誌	2
22	外務省外交史料館	外交史料館報 第 4,5,7,9-11,14,18-21,23-33 号	22
23	くまもと上塚周平顕彰会	くまもと上塚周平顕彰会会報、上塚周平先生銅像建立記念誌、ブラジル移民の父上塚周平物語 ほか	7
24	甲南学園	平生八三郎日記 補巻	3
25	在日ブラジル商工会議所	Revista Brasil ヘビスタ・ブラジル 第 29 号	2
26	彩流社	食と移動の文化史：主体性・空間・表象をめぐる抗い	1
27	シニアボランティア経験を活かす会	帰国シニアの挑戦：15 年のあゆみ	1
28	渋沢栄一記念財団	青淵 第 863 号	1



	寄贈者	資料名	数量
29	拓殖大学海外移住研究会 OB会「桂会」	桂会通信 No.53	2
30	茅ヶ崎市美術館	ヴィンテージアロハシャツの魅力：茅ヶ崎市 × ホノルル市・郡姉妹都市締結 5 周年記念	1
31	天理大学附属天理参考館	天理参考館報 第 33 号	1
32	土佐中高 100 年人物伝刊 行委員会	筆山の麓：土佐中高 100 年人物伝	1
33	日刊自動車新聞社	日刊自動車新聞 第 24823,24844,24871,24894,24917,24940,24962 号	14
34	日本ブラジル中央協会	ブラジル特報 1656-1661 号	18
35	日本郵船歴史博物館	1960 竣工 高度経済成長期を支えた貨物船：企画展	1
36	ハワイ移民資料館仁保島村	にほしま 第 22-26 号	10
37	ペルー日系人協会	115 años de la Inmigración Kumamoto al Perú 1903-2018 : Sekinin	1
38	マイグレーション研究会	マイグレーション研究会会報 第 15 号	1
39	マウリシオ・デ・ソウザ ブ ロダクションズ ジャパン	Turma da Monica Brasil e Japão 110 anos de amizade	4
40	横浜市史資料室	横浜市史資料室紀要 第 10 号、横浜の昭和を生きた人びと：報告書	2
41	横浜みなと博物館	横浜船渠ドック物語 企画展、柳原良平が語る創作活動と船の絵 ほか	5
42	立教大学ラテンアメリカ研 究所	立教大学ラテンアメリカ研究所報 第 48 号	1

## 2021年度

	寄贈者	資料名	数量
1	個人	アロハ豆腐ファクトリー創業 60 周年記念：ペコ西村の簡単お豆腐レシピ	3
2	個人	Culinária Japonesa na Bahia livro de receitas	1
3	個人	Patriotism, perseverance, posterity : the story of the National Japanese American Memorial ほか	2
4	個人	外務省外交史料館及び Library and Archives Canada 所蔵の複製資料	70
5	個人	ブラガンサ・パウリスタ連合日本人会 50 年史：光と影の記憶 1955-2005	1
6	個人	明治神宮 内と外から見た百年：鎮守の森を訪れた外国人たち 平凡社新書；986	1
7	個人	海を越えて五百年 続編、Cinco centurias a través del mar : Historia del Intercambio Mexicano Japonés	2
8	個人	移民の衣食住 I : 海を渡って何を食べるのか ほか	2
9	個人	南米レストランの料理人	1
10	個人	近代日本の移民と国家・地域社会	1
11	個人	北米移住関係 DVD ほか	22
12	個人	太平洋の虹橋：帆掛け船でアメリカンドリームを追った男達	1
13	個人	中嶋岩雄作 絵画	1
14	個人	The tale of two Michikos	1
15	個人	福島県における市町村別ブラジル移民の輩出地とその変遷：1930 年代の国策移民と 1950 年代の戦後移住 史窓 第 78 号 抜刷	2



	寄贈者	資料名	数量
16	個人	「南十字星」記念復刻版：シンガポール日本人社会の歩み、ハワイ日本人移民史：ハワイ官約移住七十五年祭記念 ほか	3
17	個人	佐々木靖章コレクション ブラジル移住及びコーヒー関係資料	35
18	個人	ニューヨークの日本人画家たち：戦前期における芸術活動の足跡	1
19	個人	晩香坡日記：祖父 佐藤實の生涯 上下	6
20	個人	アンデスの風：田中慎二画文集、西風 No.13-2021、No.14-2021、グレートプレーンズ：大平原の物語 上中下	8
21	個人	日本社会を「逃れる」 関西学院大学研究叢書；第 154 編	1
22	個人	カナダ読本：吉田浅太郎・ますの物語り	1
23	個人	二宮正人コレクション ブラジル移住関係書籍、DVD ほか	14
24	個人	カナダ移民のパイオニア佐藤惣右衛門物語	2
25	個人	短歌雑誌 加州短歌 167 号	1
26	個人	三穂の浦人：最終編（カナダ移民の末路・カナダの土になる）	1
27	個人	濱田文三郎日記：大正八年（一九一九年）	2
28	個人	短調：詩誌 第 125-126 号	2
29	Asociación Panamericana Nikkei	Asociación Panamericana Nikkei 1981-2016	1
30	Nikkei National Museum and Cultural Centre	Nikkei images [2021] Vol.26 No.1、No.2	2
31	アルファインテル	ペルーハンドブック、アルゼンチンガイドブック	2
32	上塚周平顕彰「イッペイの会」	熊本文化 第 478 号 熊本県文化懇話会・熊本県文化協会機関誌	1
33	大泉町観光協会	世界がぎゅ〜っと、おおいずみ。[大泉町観光マップ 2019 年度版] ほか	4
34	沖縄移民研究センター	移民研究 第 17 号	1
35	御茶の水書房	近代日本の移民と国家・地域社会	1
36	オフィスワイズメイツ	地理の資料 = data book on geography [2021]	1
37	外務省外交史料館	外交史料館報 第 34 号	1
38	鹿児島県海外移住家族会	移住家族かごしま 第 20-29,31-37 号	17
39	神奈川大学日本常民文化研究所	ブラジル日本人入植地の常民文化 民俗歴史編、建築編 共同研究報告書：ブラジル日本人入植地の歴史民俗学的研究	2
40	川崎市市民ミュージアム	川崎市市民ミュージアム 被災収蔵品レスキューの記録集 2020 年度	1
41	キッコーマン国際食文化研究センター	キッコーマンの百年 = Kikkoman 1917-2017	1
42	京都文化博物館	戦後京都の「色」はアメリカにあった！：カラー写真が描く〈オキュパイド・ジャパン〉とその後	2
43	国際文化フォーラム	国際文化フォーラム事業報告：CoReCa 2020-2021	1
44	国史館資料室	国史館百年史 通史編	1
45	国立国会図書館	国立国会図書館月報 723/724 号	1
46	小松市教育委員会	新修小松市史 資料編 18 近現代	1
47	在日ブラジル商工会議所	Revista Brasil ヘピスタ・ブラジル 第 30 号、第 31 号	4
48	渋沢栄一記念財団	青淵 第 867 号	1



	寄贈者	資料名	数量
49	渋沢史料館	渋沢栄一から妻 千代への手紙：あらあら めてたく かしく：企画展 ほか	3
50	拓殖大学海外移住研究会 OB会「桂会」	桂会通信 No.54、No.55	3
51	同志社大学人文科学研究所	キリスト教社会問題研究 第70号	1
52	那賀移民史懇話会	那賀地方の北米移民：渡米者を輩出した私塾と渡米者たちの生活	3
53	名古屋大学大学文書資料室	東海国立大学機構大学文書資料室紀要 第29号	1
54	日刊自動車新聞社	日刊自動車新聞 第24984,25002,25032号	6
55	日本ブラジル中央協会	ブラジル特報 1662-1667号	18
56	日本郵船歴史博物館	船と主機関：エンジンの変遷とこれから：企画展	1
57	ハワイ移民資料館仁保島村	にほしま 第27-28号	4
58	ハワイ日本文化センター	The blue tomato : the inspirations behind the cuisine of Alan Wong	1
59	広島県立文書館	広島県立文書館だより 第46号、チャップリンの日本人秘書高野虎市：「コーノ」に寄せられた期待 広島県立文書館収蔵文書展	3
60	マイグレーション研究会	マイグレーション研究会会報 第16号	1
61	マウリシオ・デ・ソウザ・ プロダクションズ・ジャパン	Monica and Friends (モニカ&フレンズ) 日本で就学するまでの準備、日本の小学校 ほか	7
62	横浜市史資料室	YOKOHAMA1968・1989：戦後の転換点：報告書	1
63	和歌山大学紀州経済史文化 史研究所	移民県和歌山における移民をめぐる記憶と遺物の保存と継承：那賀地方における移民の記録	1

## 2022年度

	寄贈者	資料名	数量
1	個人	ブラジル移住関係資料(冊子)	1
2	個人	『A Rebel's Outcry』関連グッズ、小東京歴史協会 法被	9
3	個人	教科書(尋常小學校修身書 教師用、高等小學校修身書 児童用) ほか	7
4	個人	農業拓殖活動に夢を求めて	1
5	個人	放浪の作家安藤盛と「からゆきさん」ほか	5
6	個人	ゼッケン67番のGちゃん：孫の句が太平洋(うみ)を渡って父の日に	1
7	個人	Library and Archives Canada 所蔵の複製資料、カナダ移住関係書籍 ほか	72
8	個人	Adios to tears	1
9	個人	果てしなき流転：太平洋戦争とブラジル移民を生き抜いた波乱の物語	1
10	個人	缶詰時報 = The Cannery journal 2022年2-3月号	2
11	個人	ヒロシマとハワイを結ぶ物語	1
12	個人	沖縄・南風原移民ロード	1
13	個人	あの星空の下で	1
14	個人	パラグアイ 笠松・エミリア・ユミ執筆書籍 ほか	2
15	個人	宇検村ブラジル移民百周年記念誌、歴史と民俗 神奈川大学日本常民文化研究所論集；38	2
16	個人	ララ物資関係資料(書簡、文書、冊子 ほか)	14



	寄贈者	資料名	数量
17	個人	ミ・ファミリア	1
18	個人	カナダ移民のパイオニア佐藤惣右衛門物語	1
19	個人	ブラジル トメアスー日本人入植 90 周年記念 T シャツ、Beisebol Sudoeste70 周年記念野球帽	2
20	個人	『They Called Us Enemy』ジョージ・タケイ氏サイン本、『Allegiance』サイン入り DVD ボックスセット、サイン入り記念銘板（レプリカ）ほか	11
21	個人	パラグアイ 現地発刊邦字新聞、パラグアイ連合会定款案 ほか	7
22	個人	日亜時報 1918 年 1 月 1 日 47 号、1918 年 1 月 13 日 49 号、1918 年 1 月 27 日 51 号	3
23	個人	CD・DVD ブラジル移民文庫関係資料 (図書データ、音声データ、画像データなど)	16
24	個人	「ハーフ」物語：偏見と排除を越えて	1
25	個人	DVD 茨道、イッペの国へ イッペ花咲くブラジルへ	2
26	個人	アンドウ・ゼンパチ、西風 No.15-2022、No.16-2022	3
27	個人	日本パステル畫事始め	1
28	個人	移民が移民を考える	1
29	個人	布哇國皇帝の来訪を知らせる通達文書（書き写し）	1
30	個人	ジョージ・タケイ氏関係資料、They Called Us Enemy ほか ジョージ・タケイ氏サイン本	18
31	個人	El imperio del sol : Titicaca : el lago sagrado de los Incas, Tiwanaku, Cusco, Machupicchu	1
32	個人	祈り：イグアス SJO 教会日本人信者会 50 周年記念写真集 1967-2017	1
33	個人	短調：詩誌 第 127-129 号	3
34	個人	ボリビア開拓記外伝	2
35	Alimentos Wilson Ltda.	ブラジル日系醤油関連資料 (Wilson)	16
36	Asteca Hinomoto	ブラジル日系醤油関連資料 (Hinomoto)	17
37	Centro Nikkei Paraguayo	パラグアイ セントロ日系関係資料 (図書、会報・雑誌類、パンフレットほか)	15
38	Kikkoman Do Brasil	ブラジル日系醤油関連資料 (Kikkoman)	24
39	Maruiti	ブラジル日系醤油関連資料 (Maruiti)	11
40	Nikkei National Museum and Cultural Centre	Nikkei images [2022] Vol.27 No.1-No.3	3
41	Sakura Nakaya Alimentos Ltda.	ブラジル日系醤油関連資料 (Sakura)	27
42	明石書店	ブラジルの歴史を知るための 50 章 エリア・スタディーズ；187	1
43	亜日文化財団	Jardín Japonés y Fundación Cultural Argentino Japonesa：日本庭園	3
44	沖縄移民研究センター	移民研究 第 18 号	1
45	沖縄 NGO センター	レッツスタディー！世界のウチナンチュ 知って、伝える、はじめの 1 冊	2
46	外務省外交史料館	外交史料館報 第 35 号	1
47	神奈川県立歴史博物館	神奈川県立博物館研究報告 人文科学 第 49 号	1
48	神奈川大学日本常民文化研究所	ブラジル国サンパウロ州レジストロ植民地における民具からみた日本移民の生活史の研究 神奈川大学日本常民文化研究所調査報告；第 30 集 国際常民文化研究機構共同研究「奨励」調査報告書	1
49	金武町教育委員会	金武町史 第 1 巻 移民・本編、移民・証言編、移民・資料編	3



	寄贈者	資料名	数量
50	金武町役場	當山久三 生誕 150 年記念手ぬぐい、金武町移民の日うちわ ほか	15
51	国立国会図書館	国立国会図書館月報 732 号	1
52	コロンビア福岡県人会	Colombia Fukuoka Kenjinkai 40 anos 1978-2018	2
53	在日ブラジル商工会議所	Revista Brasil ヘビスタ・ブラジル 第 32 号、第 33 号	3
54	シニアボランティア経験を 活かす会	シニアの挑戦！国際協力の現場を語る 第 5 集	1
55	渋沢栄一記念財団	青淵 第 880,883,887 号	3
56	世界遺産座喜味城跡コンタ ンザミュージアム	世界遺産座喜味城跡コンタンザミュージアム年報 令和 2 年度	1
57	拓殖大学海外移住研究会 OB 会「桂会」	桂会通信 № 56	3
58	同志社大学人文科学研究所	キリスト教社会問題研究 第 71 号	1
59	南加庭園業連盟	北米川柳道しるべ、「川柳に残る」ガーデナー風雲録、串だんご：アメリカ川柳人作品集（第 3 刊・ 2018 年版）ほか	4
60	日系アイデンティティセン ター（エンカルナシオン日 本人会）	日系アイデンティティセンター関係資料 （パンフレット、マグネット、キーホルダーほか）	15
61	日本パラグアイ協会	Paraguay y Japón : cien años de relaciones diplomáticas (1919-2019) ほか	14
62	日本ブラジル中央協会	ブラジル特報 1668-1673 号	18
63	パラグアイ日系・日本人会 連合会	パラグアイ日系・日本人会連合会 所蔵リスト	3
64	ハワイ移民資料館仁保島村	にほしま 第 29 号	3
65	ピラポ農業協同組合	パラグアイ ピラポ農協 60 周年誌	1
66	不二出版	長野県飯田下伊那の満洲移民関係資料目録	1
67	ブラジル日本文学会	ブラジル日本文学 第 69 号、第 71 号	2
68	マイグレーション研究会	マイグレーション研究会会報 第 17 号	1
69	みなべ町立図書館「ゆめよ み館」	南部川村戦後五十年史 上巻	1
70	宮崎県	世界に旅立った宮崎県人たちの歩み：ひなたに集うふるさとへの想い	1
71	宮平獅子舞・伝統芸能保 存継承資料館（な－でえら シーサー館）	宮平獅子舞ハワイへ	1
72	横浜市史資料室	横浜市史資料室紀要 第 12 号、市史通信 第 43 号	2
73	横浜都市発展記念館	横浜都市発展記念館紀要 第 17 号、横浜鉄道クロニクル	2
74	横浜みなと博物館	ベストセレクション世界の客船ポスター：横浜みなと博物館リニューアルオープン記念展	1
75	ラパス農業協同組合	パラグアイ ラパス農協記念誌	3
76	立教大学ラテンアメリカ研 究所	立教大学ラテンアメリカ研究所報 第 49-50 号	1
77	連盟史研究会	日本学生海外移住連盟 外史：もう一つの学生運動 サンパウロ新聞連載復刻版	1



## 2015年度-2017年度

【肩書は当時のもの】

### 1. 第二次世界大戦直後に日本に「送還」された日系カナダ人(約4,000人)のその後

**概要：**1942年、カナダ政府は、カナダ西海岸に居住していた21,000人の日系カナダ人を敵性外国人として内陸部に強制移動した。それらの日系人は、戦後、カナダ政府の通達により、カナダに留まる者は「ロッキー山脈の東」へ移動、さもなければ日本に「送還」という二者択一的な選択を迫られた。ロッキー山脈の東への移動を拒否した日系人は、カナダ生まれの日系人であっても日本に送られることになり、これは「国外追放」であると言われ、大きな混乱を生んだ。結果的には、約4,000人の日系人が日本に送られたとされている。彼らが戦争直後の日本でどのように受入れられたか、その後、定着したか、あるいはカナダへ戻ったか、の全容は、これまで明らかにされていない。ここに提案する調査・研究により、日系カナダ人の歴史の重要な一幕が明確に示されると同時に、彼らが日本との絆をどのように意識していたか、そして彼らを介しての日本とカナダの関係がどのようであったか、などが、明らかになると期待される。

【プロジェクトリーダー：飯野正子（津田塾大学名誉教授）】

### 2. 移住資料ネットワーク化プロジェクトの充実と拡張（第二期）

**概要：**2012～2014年度にかけて実施された学術研究プロジェクト「移住資料ネットワーク化プロジェクトの充実と拡張」に引き続き、2015～2017年度にかけて、第二期として、既に完成・稼働しているネットワーク上の基本的なプラットフォームを活用することで、以下の具体的な目標を据えて調査・研究活動を継続することとしたい。

#### A: 移住者検索システム

PIONEROSの呼び寄せ移民期（1923-1941）への拡張(2014年度より継続)  
戦後海外移住者の国別PIONEROSの作成のための基礎作業と将来的な公開  
PIONEROSのシステム上の問題点の改善

#### B: デジタルミュージアム

他地域、他資料館・博物館とのネットワーク化推進  
既存デジタル展示の拡充、常設展示以外の特別展示等への対応・拡張

#### C: 邦字新聞デジタルアーカイブ

「ペルー新報」の情報量拡充とwebサイトにおける公開に向けた技術的問題の検討  
本資料館架蔵の各種邦字新聞の公開へ向けた基礎作業

#### D: その他

本資料館架蔵資料の公開にかかわる基準・方向性の検討（第一期から継続）

【プロジェクトリーダー：柳田利夫（慶應義塾大学教授）】

### 3. 「海外移住150年を振り返る：移動する人の視点からみる国際関係」

**概要：**本プロジェクトは、元年者移民ハワイ渡航、若松コロニー創設から150年目、ブラジル移民から110年の節目を2018年に控え、日本人海外移住150年の歴史をグローバルヒストリーの文脈に位置づけつつ、移動する人の視点から複雑で多様な移動の状況について再検討を行うものである。「長い19世紀」における、明治維新、南北戦争、奴隷制の崩壊といった国内・国際関係における大きな動きと、太平洋をまたがる移住（パシフィック・システムの胎動）は同時期に起きたが、こうした移住は、難民・移民問題が再燃している現在の状況とどのような相違がみられるであろうか。人はどのような国際関係のもと、何を思い、何を求めて海外移住をしてきた／するのであるか。日本人海外移住150年の記念事業として、北米を対象に海外移住150年を俯瞰的に振り返るため、重要な移民史・資料の発掘、編纂を行い、研究会、公開セミナー、出版を通じて、海外移住150年の歩みについて、広く社会にアウトリーチすることとしたい。

【プロジェクトリーダー：菅（七戸）美弥（東京学芸大学教授）】

### 4. 在日ラテン系二世の多角的分析

**概要：**南米日系人の日本へのデカセギ現象がブームとなってからすでに四半世紀が経過した。この間、デカセギ現象をめぐるさまざまな研究成果が蓄積されてきたが、その多くが「移民研究」あるいは「日系人研究」の延長線上で、教育・言語・文化といった側面に生じている具体的な「問題」とその「解決」、そして多文化共生といった方向性から彼ら／彼女らを捉えてきた。しかし、現状を見渡すと、そういった範疇ではもはや捉えきれないかたちで、日本、南米、もしくは両地をまたにかけて、あるいは、越境という概念そのものさえも超えてゆきつつ成長している出稼ぎ二世世代の存在が、次第に浮かび上がってきている。

本プロジェクトでは、日本デカセギ25年の節目にあたり、これまでの研究成果を受け止めつつ、出稼ぎ二世世代の成長と、少子高齢化時代を迎えた日本という事実を背景に、デカセギ25年を経て生じつつある現象の意味と、これまでのように、一国単位の接続可能性によ



り移民を議論することの危うさを、捉え直し、越境を超える人々の生き方を通じて、未来に繋がる共生への新しい視点を提示することを目標とした試みを行ってみたい。

【プロジェクトリーダー：赤木妙子（目白大学教授）】

## 5. JICA横浜・日本移民学会共同開催公開講座シリーズ「日本人と海外移住」

**概要**：本プロジェクトは、JICA横浜において日本人の海外移住に関する公開講座シリーズ（全12回：第1回～第6回は2014年度、第7回～第12回は2015年度）を実施し、移民研究の成果を社会に還元することを目的とする。JICA横浜は実施にかかわる予算、施設・機材の提供を行い、日本移民学会はプロジェクトチームを通じてプログラムの企画立案、講師の選定等の人的資源の提供及び公開講座の実施において協力する。

【プロジェクトリーダー：森茂岳雄（中央大学教授）】2015年度

## 2018年度－2020年度

### 1. 第二次世界大戦後に日本に「送還」された日系カナダ人の日加文化交流・日加友好関係増進への貢献

**概要**：1942年、カナダ政府は、カナダ西海岸に居住していた21,000人の日系カナダ人を敵性外国人として内陸部に強制移動した。それらの日系人は、戦後、カナダに留まる者は「ロッキー山脈の東」へ移動、それを望まない者は日本に「送還」、というカナダ政府の通達による選択を迫られた。ロッキー山脈の東への移動を拒否した日系人は、カナダ生まれであっても日本に送られることになり、これは「国外追放」であると言われ、大きな混乱を生んだ。結果的には約4,000人の日系人が、戦争で疲弊した日本に到着したと記録されている。これまでの調査・研究により、これら4,000人の日系人が戦後の日本でどのように受け入れられたか、その後、定着したか、カナダへ戻ったか、についてはかなり把握されている。これらの日系人が日本との絆をどのように意識し、日本とカナダの関係にどのように関わろうとしたのかについて調査する。

【プロジェクトリーダー：飯野正子（津田塾大学理事・名誉教授）】

### 2. 転換期における移住と日系社会の変容（1920～1950年代）

**概要**：ベルサイユ体制からワシントン体制そして総力戦体制から冷戦体制の構築に至る時代の転換期における移住と、南北アメリカ大陸諸国における日系社会の変容とを、二国間関係や戦争といった枠組みを越えた多国間関係の史的展開の中に再配置し、参加メンバーがこれまで蓄積してきた各地域の個別事例研究を基礎に議論を重ねることを通じて、移住とエスニック・コミュニティとしての日系社会の変容について、新たな研究地平の再構築を試みる。

【プロジェクトリーダー：柳田利夫（慶應義塾大学名誉教授）】

### 3. 海外交流・渡航・移住の視点からみるグローバルヒストリー

**概要**：本プロジェクトは、前プロジェクト「海外移住150年を振り返る：移動する人の視点からみる国際関係」の問題意識や視座を継承しつつ、対象時期を幕末・明治初期に広げ、海外交流・渡航・移住をグローバルヒストリーに位置づけることを目的としている。

従来の研究では、日米和親条約（嘉永7年3月3日・1854年3月31日）以前の海外交流や渡航を偶発的・単発的と捉え、ハワイに「官約移民」が渡航した1885年を「日本人移民元年」と位置づけ、そして「移民」を狭義に捉えるナショナルヒストリーの枠内で考察する傾向があった。そこで、本プロジェクトは、グローバルな人やモノの交流、移動との連鎖の観点から、多様な移住の過程で、日本人は「外国人」として、また「人種」として、どのような位置づけがなされていったのか、日本人や日本へのまなざしの変容の背景には何があったのか等について検証する。

従来の研究では見落とされてきた初期の海外交流・渡航・移住の歴史について、国家間の「国際関係」の編成過程を背景とした、幕末・明治の初期移住の歴史像を解明し、研究会、公開セミナーや出版等の形で、本プロジェクトの研究成果を広く社会にアウトリーチすることとしたい。

【プロジェクトリーダー：小澤智子（武蔵野美術大学教授）】

### 4. 在日ラテン系二世の社会参加に関する研究

**概要**：本プロジェクトは、日本デカセギ25年の節目にあたる2015年から2017年までの3年間にわたって実施した学術研究プロジェクト「在日ラテン系二世の多角的分析」を通して得た知見と体験を新たな研究に生かしつつ、持続的に発展させるために提案するものである。前プロジェクトでは、「日本、南米、もしくは両地をまたにかけて、あるいは、越境という概念そのものさえも超えてゆきつつ成長している出稼ぎ二世の世代」を主たる対象として、日本各地のデカセギ南米人集住地域での調査や、JICA横浜 海外移住資料館を主会場としたイベント



ト（ワークショップやパネルディスカッション）の場における参与観察を実施し、在日ラテン系二世たちの抱える問題や意識をあぶり出してきた。越境する彼ら在日二世のアイデンティティの問題は先行研究でもたびたび指摘されてきたが、その揺らぎは、空間的のみならず時間的なそれも含んでいると考えられ、前プロジェクト内で実施してきた「先祖探しワークショップ」のようなイベントは、研究の場であると同時に、彼らと日本とを繋ぐ役割をわずかでも果たすことが期待できるだろう。

【プロジェクトリーダー：赤木妙子（目白大学教授）】2018年度・2019年度

## 2021年度－2023年度

### 1. 日系カナダ人の経験を通してみる戦後の日加関係

**概要：**2020年度まで継続して調査・研究してきたテーマー第二次世界大戦後に日本に「送還」された日系カナダ人の日加文化交流・日加友好関係増進への貢献一を、さらに進め、文化面・学術面から戦後の日加関係を考察する。

【プロジェクトリーダー：飯野正子（津田塾大学理事・名誉教授）】

### 2. 個人記録と移民史記述に関する多角的検討

**概要：**個々の移民にかかわる日記・記録・書簡・創作といった一次史料としての個人記録の収集・整理・分析作業を中心に据えつつ、個人記録を公文書等の他の一次史料群や二次的な刊行物と接合させることにより、移民史記述へと昇華させてゆく方法について、これまでの研究蓄積を総合的に確認し、多角的に分析する。この作業を通じて、一次史料としての個人記録収集・整理・利用の精緻化と、移民史記述に有機的に組み込んでゆく方法の構築とを試みる。

【プロジェクトリーダー：柳田利夫（慶應義塾大学名誉教授）】

### 3. 海外への移動・移送と「絆」の視点からみるグローバルヒストリー

**概要：**本プロジェクトの目的は、前プロジェクト「海外交流・渡航・移住の視点からみるグローバルヒストリー」の問題意識や視座を継承しつつ、日本から海外（北米、ハワイ、オーストラリア）への、あるいは海外から日本への移動・移送が生み出す「絆」、そしてその「絆」に影響を受けてさらなる移動・移送へと続く現象を、グローバルヒストリーに位置づけることである。とくに、近年の研究によって解明されつつある移動の重層性や連続性に焦点を当て、「絆」の多重的な部分を明らかにする計画である。また、移動に多大な影響を与える法的な制度についても積極的に議論に含めていくつもりである。本プロジェクトが完了する2024年は、アメリカ合衆国の1924年移民法（いわゆる「排日移民法」）の成立から100年目の年であり、移民にかかわる法的措置とその影響にあらためて注目することは意義深いと考えている。

従来の研究では、日米和親条約（嘉永7年3月3日・1854年3月31日）以前の海外交流や渡航を偶発的・単発的なものとみなし、ハワイに「官約移民」が渡航した1885年を「日本人移民元年」と位置づけ、「移民」を狭義にとらえるナショナルヒストリーの枠内で移動・移送を考察する傾向があった。そこで、本プロジェクトでは、19世紀半ばから20世紀半ばまでの人、もの、情報やリソースの移動とその連鎖について、移民法などの制度面と、個人の言動（人々の主体性）の両者に光を当て、とくに移動する人を支える「絆」について、さらなる検証を進めたい。

【プロジェクトリーダー：小澤智子（武蔵野美術大学教授）】

### 4. 海外移住資料館のリニューアル展示を活用した『学習活動の手引き』の改訂

**概要：**JICA横浜 海外移住資料館は、開館当初より日本の若い世代に海外移住の足跡や役割について理解を深めてもらうことを目的に、同館の展示や資料を活用した指導者向けの『学習活動の手引き』の作成を行ってきた。初版は2005年に作成され、2007年には展示の他、開発した移民学習教材（カルタ、紙芝居等）の活用も含め、それらを活用した『学習活動の手引き』の改訂を行った。2022年、資料館の展示が、20年ぶりにリニューアルされたことをきっかけに、『学習活動の手引き』の再改訂が求められている。

そこで、本プロジェクトでは、リニューアルされた展示、及びこれまで開発されたカルタ、紙芝居、双六などの学習教材を活用した『学習活動の手引き』の再改訂を行う。研究期間は2022～2023年度の2年間とし、並行してリニューアル展示を活用したデジタル教材開発の可能性についても検討する。

【プロジェクトリーダー：森茂岳雄（中央大学名誉教授）】2022年度・2023年度



## 『研究紀要』論文タイトル一覧

【肩書は寄稿当時のもの】

## 第8号 (2014年3月発行)

(論文)

## ペルー日系社会における「和食」とアイデンティティ

— 「日系食」、「ニッケイ料理」、「ニッケイ・フュージョン料理」 —  
慶應義塾大学教授 柳田利夫

(研究ノート)

## ニッポンの伝統、ニッケイの祭り

— 日本文化の伝承と変容：トロント仏教会のお正月行事・料理 —  
津田塾大学名誉教授 飯野正子

## 旧カフェパウリスタ箕面店が提起する問題

吹田市立博物館館長 中牧弘允

## 「在米同胞の歌」考

白百合女子大学教授 桑井輝子

## 第9号 (2015年3月発行)

(論文)

## ハワイ盆踊りにみられる伝統文化の継承

— 岩国首頭のケースを中心に —  
日本女子大学名誉教授 島田法子

(研究ノート)

サンパウロ市における日本料理(店)の位置・イメージ・  
受容のかたち

サンパウロ大学教授 森幸一

## ブラジルからの移住第2世代とバイリンガル絵本プロジェクト

— 浜松市における静岡文化芸術大学の試み —  
静岡文化芸術大学教授 池上重弘  
静岡文化芸術大学准研究員 上田ナンシー直美

(資料紹介)

ブラジル東山農場所蔵「酒造工場沿革誌」から見るブラ  
ジル産〈日本酒〉事始め

目白大学教授 赤木妙子

## アメリカ合衆国戦時強制収容所内俳句集覚書

白百合女子大学教授 桑井輝子

## 菅野武雄「最後の手記」(三)

— 日本で「日本人」になった日系二世の生活と思想 —  
慶應義塾大学教授 柳田利夫

## 第10号 (2016年3月発行)

(特別寄稿)

## あるブラジル移民の軌跡

— 黒田又蔵氏の事例を手がかりとして  
サンパウロ大学教授 二宮正人

(論文)

## ハワイ日系人の正月風景にみる移民文化

— 年越しの儀式の変容と継承 —  
日本女子大学名誉教授 島田法子ハワイ日本人移民の教材づくりに関する海外スタディツ  
アーの教育的意義— 物語論的アプローチによる大学生の自己変容プロセスの分析を通して —  
中央大学教授 森茂岳雄  
中央大学大学院博士後期課程 津山直樹

(研究ノート)

## 和歌山県における移民をめぐる取り組みと今後の展望

和歌山大学教授 東悦子

## 南洋群島における日本人小学校の教育活動

— 南洋庁サイパン尋常小学校保護者会編『さいばん』(1935年)をもとに —  
中央大学非常勤講師 小林茂子

(資料紹介)

## 菅野武雄「最後の手記」(四)

— 日本で「日本人」になった日系二世の生活と思想 —  
慶應義塾大学教授 柳田利夫

(調査報告)

## 海外移住資料館とハワイ日系社会との関係強化について

ハワイ日系社会関係促進調査(2015年10月15日-21日)の報告  
津田塾大学名誉教授/海外移住資料館学術委員長 飯野正子  
独立行政法人国際協力機構横浜国際センター次長 玉林洋介

## 第11号 (2017年3月発行)

(論文)

International, Interracial, and Multicultural  
Families among Japanese Immigrants in New York(ニューヨークにおける日本人移民家族：インターナショナル・  
異人種・多文化な家族のかたち)

東京学芸大学准教授 菅(七戸)美弥

## 日系社会における継承語教育の課題と展望

— 「継承語」概念の比較検討を通して —  
翻訳家/元中央大学大学院 平岩佐江子

(研究ノート)

## 第二次世界大戦直後に日本に「送還」された日系カナダ人のその後

津田塾大学名誉教授/海外移住資料館学術委員長 飯野正子  
東洋学園大学元教授 高村宏子  
外務省外交史料館編纂委員 原口邦紘



(資料紹介)

### 菅野武雄「最後の手記」(五)

— 日本で「日本人」になった日系二世の生活と思想 —  
慶應義塾大学教授 柳田利夫

## 第12号 (2018年3月発行)

(論文)

**日本人移住史とセンサス史のリンケージ：1860－1870年**  
東京学芸大学教授 菅（七戸）美弥

**アメリカの新聞報道が語るワカマツ・コロニー**  
武蔵野美術大学准教授 小澤智子

**ロンドン在住ブラジル人移住者と子どもたちの継承語教育**  
神奈川大学非常勤講師 拝野寿美子

**親子関係がペルー人第2世代の社会進出に与える影響の検証**  
～在日ペルー人5家族の経験～  
宇都宮大学大学院博士後期課程 小波津ホセ

(研究ノート)

**ブラジル近代史の一頁としての「シンドウレンメイ事件」**  
上智大学元教授/上智大学イベロアメリカ研究所名誉所員  
三田千代子

**田中貞吉とペルー移民事業 移民送り出しまでの前史の分析**  
一般財団法人日本国際協力システム 大島正裕

## 第13号 (2019年3月発行)

(論文)

**大正八年一月の暴動被害と損害賠償問題**  
— 第一次世界大戦期の労働運動とリマの日本人移民 —  
慶應義塾大学名誉教授 柳田利夫

**戦前の女性の越境と洋裁技術の移転**  
— 日米で洋裁を教えた小川信子の事例から —  
日本大学准教授 北脇実千代

(研究ノート)

**第二次世界大戦直後に日本に「送還」された日系カナダ人のその後**  
— カナダ帰国・日本定住をめぐる問題 —  
外務省外交史料館元副館長 原口邦紘

(調査報告)

**リオデジャネイロのイリアダスフローレス宿泊所と日本人移民**  
— 「移民船」関連の入港書類を中心に —  
フェリス学院大学准教授 比嘉マルセーロ

## 第14号 (2020年3月発行)

(論文)

**第二次世界大戦直後に日本に「送還」された日系カナダ人のその後**  
— 日加文化交流・日加友好関係増進に向けての活動 —  
津田塾大学名誉教授/海外移住資料館学術委員長 飯野正子  
東洋学園大学元教授 高村宏子  
外務省外交史料館元副館長 原口邦紘

### 田中貞吉再考

— 日本人ペルー移住とラテンアメリカの富源 — (上)  
慶應義塾大学名誉教授 柳田利夫

(研究ノート)

**在日ペルー系二世と「先祖探し」ワークショップ**  
— 多文化共生の地平から —  
目白大学教授 赤木妙子

## 第15号 (2021年3月発行)

(論文)

**Charles Wirgman's Moving Images: Mobility Portrayed in Yokohama**  
チャールズ・ワグマンの作品—横浜において描かれる移動  
武蔵野美術大学准教授 小澤智子

**Carrying Mikoshi, a Portable Shrine, in Greater Vancouver: Attempts by the Rakuichi**  
グレートヴァンクーヴァーにおける神輿—祭—の取り組み  
中央大学非常勤講師 庭山雄吉

(研究ノート)

**初期 (1897-1927) のメキシコ日本人移住者の経済地位の変化を把握する試み**  
— 瀧沢太郎『世界無比の親日国 大宝庫メキシコ』1927の記述を通して —  
津田塾大学教授 三澤健宏

### 【第一回 JICA 海外移住懸賞論文 優秀賞】

**中南米地域の邦字新聞を活用した日本人移住に関する諸研究**  
— 『らぶらた報知』の創刊と「在亜沖縄県人連合会」の設立—  
沖縄国際大学 月野楓子

## 第16号 (2022年3月発行)

(論文)

**複数の移住・移動と「家族」からみるアメリカ・センサス：1860年のサンフランシスコにおける諸史料の検証**  
東京学芸大学教授 菅（七戸）美弥  
**「ワカマツ・コロニー」以後の人の移動とネットワーク**  
— 柳澤米子を中心に —  
日本大学准教授 北脇実千代

### 田中貞吉再考

— 日本人ペルー移住とラテンアメリカの富源 — (中)  
慶應義塾大学名誉教授 柳田利夫

(研究ノート)

**Locating Shipwrecked Persons in the Discussion to “Open” Japan**  
日本「開国」をめぐる議論にみる人の移動について  
武蔵野美術大学准教授 小澤智子



(資料紹介)

#### 戦後カナダ移住に関する基礎資料

- 外務省外交史料館所蔵史料 —
- 津田塾大学名誉教授/海外移住資料館学術委員長 飯野正子
- 東洋学園大学元教授 高村宏子
- 外務省外交史料館元副館長 原口邦紘
- 東京外国語大学兼任講師 木野淳子

#### 【第二回 JICA 海外移住懸賞論文 最優秀賞】

##### 異郷での戦時体験を記録して

- マリオ・ボテーリョ・デ・ミランダと岸本昂一を事例に —
- 大阪大学特任助教 ソアレス モッタ フェリッペ アウグスト

#### 【第二回 JICA 海外移住懸賞論文 優秀賞】

##### ディアスポラ・ナショナリズムとしてのカチマケ抗争再考：

- バストスとレジストロの比較を通じて —
- 柴田寛之

### 第17号 (2023年3月発行)

(論文)

#### コロナ禍における外国人住民の「移動できないこと」の意味

- 集住地域在住の中高年ニューカマー外国人のライフストーリー分析から —
- 横浜市立大学准教授 坪谷美欧子

(研究ノート)

#### 移住地をつなぐ記憶の共有と再構築

- ブラジルの県連「移民のふるさと巡り」を事例として —
- JICA緒方研究所研究員 長村裕佳子

#### 第2次世界大戦後のペルーの日本語教育

- ペルー日本語教師会会誌『アンデス』を事例に —
- 宇都宮大学研究員 小波津ホセ

(資料紹介)

#### 松宮家所蔵南米移民関係資料 (その1)

- 国際日本文化研究センター特定研究員 根川幸男
- JICA緒方研究所研究員 ガラシーノ・ファクンド

(調査報告)

#### 紛争下を生きるフィリピン・ミンダナオの日系人

- 5家族の足跡をたどる —
- 元国際協力機構 (JICA) 職員 玉林洋介

#### 旅券調査報告 展示中の四種類の旅券からわかったこと

- 公益財団法人海外日系人協会専門幹 柳下宙子

#### 【第三回 JICA 海外移住懸賞論文 優秀賞】

- ブラジル移民促進のために使われた幻燈スライドと野田良治 —
- 近畿大学工業高等専門学校准教授 田中和幸



## JICA 海外移住懸賞論文

日本国内に急増する外国人とのより良い共生が課題となるなか、日本人の海外移住の150年以上の歴史に対する理解と関心を高めることを目的として2019年度に「JICA 海外移住懸賞論文」が創設された。

### 【第一回懸賞論文】

テーマ：「中南米地域の邦字新聞を活用した日本人移住に関する諸研究」

中南米で過去に発行された邦字新聞を活用した研究、または邦字新聞そのものを対象にしたさまざまな研究結果を募り優秀な作品を発表することによって、日本人の海外移住の歴史に対する理解と関心を高め、併せて歴史的に貴重な資料である邦字新聞の収集（発見）、保管、活用を促進する。

2020年6月に審査結果を発表。以下の3名の論文が受賞した。

※肩書は受賞時のもの

#### 【最優秀賞】

副題：ブラジル日系二世エリートの立候補と投票をめぐる心情と論理

－戦後の民主化における1947年選挙を事例に－

氏名：長村裕佳子さん(上智大学外国語学部特別研究員)

賞金：20万円

#### 【優秀賞】

副題：『らぶらた報知』の創刊と「在亜沖縄県人連合会」の設立

氏名：月野楓子さん(関西外国語大学外国語学部助教)

賞金：5万円

#### 【特別賞】

副題：「フジヤマのトビウオ」とブラジル日系コロニアの戦後

氏名：乗松優さん(ポートランド州立大学歴史学部・客員研究員)

賞金：3万円

### 【第二回懸賞論文】

テーマ：「日本人の中南米への移住」

より関心の裾野を広げるため新たに「エッセイ・評論部門」を加え、計37件(論文7件、エッセイ・評論30件)の応募をいただき、2021年11月に審査結果を発表。それぞれの部門で最優秀賞1名及び優秀賞1名を決定した。

※肩書は受賞時のもの

#### 1) 懸賞論文部門

##### 【最優秀賞】

タイトル：異境での戦時体験を記録して

－マリオ・ポテーリオ・デ・ミランダと岸本昂一を事例に－

氏名：ソアレス・モッタ・フェリッペ・アウグストさん

(大阪大学大学院文学研究科国際交流センター 特任助教 グローバル日本学教育研究拠点 兼任教員)

賞金：50万円

##### 【優秀賞】

タイトル：ディアスポラ・ナショナリズムとしてのカチマケ抗争再考:

バストスとレジストロの比較を通じて

氏名：柴田寛之さん(インディペンデント・スカラー)

賞金：5万円



## 2) エッセイ・評論部門

### 【最優秀賞】

タイトル：知識のカーニバルから見たブラジルと日本—  
氏名：片山恵さん（国際交流基金ブダペスト日本文化センター 日本語教育専門家）  
賞金：20万円

### 【優秀賞】

タイトル：日本人の中南米移住に関する歴史継承と多文化共生  
—沖縄県における移民の歴史啓発事業を事例に—  
氏名：飯塚陽美さん（東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻文化人類学コース  
/多文化共生統合人間学プログラム博士後期課程）  
賞金：5万円

## 【第三回懸賞論文】

### テーマ：「日本人の中南米への移住」

第三回は第二回に引き続き、募集部門を「論文部門」「エッセイ・評論部門」の二部門で募集を行い、さらに佳作を設けた。  
※肩書は受賞時のもの

### 1. 論文部門

#### 【優秀賞】

タイトル：ブラジル移民促進のために使われた幻燈スライドと野田良治  
氏名：田中和幸さん（近畿大学工業高等専門学校）  
賞金：5万円  
※第三回論文部門では最優秀賞の該当はありませんでした。

### 2. エッセイ・評論部門

#### 【最優秀賞】

タイトル：赤土の大地で句を詠む心～パラグアイと日本を繋ぐ歌人達～  
氏名：田中（松宮）クリスティーナさん（在パラグアイ日本商工会議所 理事）  
賞金：20万円

#### 【優秀賞】

タイトル：韓国のブラジル移住政策が成功した理由  
～日本人移民社会との共存と、植民地時代の「日本人」移民の存在～  
氏名：鄭ハナさん（福岡県地方自治研究所）  
賞金：5万円

タイトル：パステウは日系人？  
氏名：内山夕輝さん（公益財団法人浜松国際交流協会）  
賞金：5万円

#### 【佳作】

タイトル：日本人移民を迎えた町「ヘスス・マリア区」  
氏名：伊藤ホルヘさん（ペルー生命化学芸術学校）  
(Escuela de Arte y Ciencia de la Vida del Perú)

タイトル：知りたいと思うことへのいざない—リマでのフィールドワーク雑感—  
氏名：大塚真理子さん（姫路市スタディーサポーター）



## 展示・イベント実績

### 2013年度

種別	開催日・開催期間	イベントタイトル	備考
イベント	2013年5月5日(日)	子どもの日はカルタで遊ぼう(児童福祉週間)	
講演会	2013年5月25日(土)	学芸担当による日系トークあれこれ 第1回「日本人町について」	
イベント	2013年6月15日(土)・16日(日)・ 18日(火)	6月18日は海外移住の日	
イベント	2013年6月18日(火)	ペルー日本人契約移民データベース(日本語 版)開通式	来賓：マルコ・アントニオ・サンティバニェ ス(在日ペルー大使館公使参事官) 関山 誠(横浜市政策局国際政策室長) 柳田利夫(慶應義塾大学教授・JICA横浜 海 外移住資料館学術委員)
イベント	2013年7月13日(土)～9月1日(日)	ミュージアムクイズラリー 2013	主催：神奈川県立歴史博物館
特別展示	2013年7月19日(金)～9月23日 (月)	「海を渡った日本人町」展 -アメリカ大陸の 日本人町、日本町、日本人街、小東京-	
イベント	2013年7月25日(木)	ミュージアムクイズラリー -2013付帯イベント- ミュージアムツアー	
イベント	2013年8月3日(土)・17日(土)	かながわ子ども・子育て支援月間 カルタで遊んでタイムスリップ!	主催：神奈川県
公開講座	2013年8月11日(日)	“Breaking the Silence”沈黙を破って	講師：Stephen H. Sumida (ワシントン大 学)、Gail M. Nomura (ワシントン大学)
イベント	2013年8月16日(金)～18日(日)	Brasil Culture Festival2013横浜	
イベント	2013年8月20日(火)・21日(水)	子どもアドベンチャー 2013	主催：横浜市教育委員会
イベント	2013年10月27日(日)	第6回宝島ハロウィン	主催：新港地区賑わい作り委員会
特別展示	2013年11月15日(金)～12月28日(土)	日系人と混血-Hapa とメスチッソ-	
講演会	2013年11月23日(金)	学芸担当による日系トークあれこれ 第2回「日系人と混血-Hapa とメスチッソ-」	
イベント	2013年12月3日(火)～27日(金)	第3回中南米横浜書道展	
特別展示	2014年1月18日(土)～2月16日(日)	魁(さきがけ)～ハワイから渡った人々 -浜野龍峰書のある空間から-	
イベント	2014年1月18日(土)・1月19日(日)	浜野先生によるデモンストレーション・ワー クショップ	講師：浜野龍峰(書家)
イベント	2014年1月31日(金)～2月28日(金)	みなとみらい2.1新港地区 いちごMAP	
特別展示	2014年3月1日(土)～5月11日(日)	雄飛-沖縄移民の歴史と世界のウチナアン チュ	共催：沖縄県 展示監修：沖縄県立博物館・美術館 協力：沖縄県公文書館、沖縄県立博物館・美 術館、沖縄テレビ放送株式会社、株式会社ビー エル、金武町教育委員会、特定非営利活動法 人AMDA沖縄、那覇市歴史博物館、南風原 町立南風原文化センター、琉球大学国際沖縄 研究所
イベント	2014年3月1日(土)	「雄飛-沖縄移民の歴史と世界のウチナアン チュ」オープニングセレモニー	来賓：金城 健(沖縄県東京事務所次長) 協力：潮風エイサー (横浜市鶴見区)
イベント	2014年3月5日(火)	来館者数30万人記念セレモニー	
公開講座	2014年3月16日(日)	多文化共生社会の変容 -移民第二世代の活躍と日本人側の理解	講師：池上重弘(静岡文化芸術大学文化政策 学部教授) パネリスト：鈴木由香里、宮城ユキミ (静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学 科2年)



## 2014年度

種別	開催日・開催期間	イベントタイトル	備考
イベント	2014年4月19日(土)～5月10日(土)	横浜ベイサイド 名探偵コナン 謎解きラリー	
公開講座	2014年4月26日(土)	JICA横浜 海外移住資料館・日本移民学会共同 開催公開講座シリーズ 「日本人と海外移住」 第1回「近代日本人の海外移住」	講師：木村健二(下関市立大学教授)
公開講座	2014年6月7日(土)	在バンクーバー総領事が語る 神奈川・横浜 とカナダ・バンクーバーとの交流史 —これまでの100年、これからの100年—	講師：岡田誠司(在バンクーバー総領事館 総領事) 共催：神奈川県立国際言語文化アカデミア
特別展示	2014年6月7日(土)～7月21日(月・祝)	ブラジル・サッカーのサムライたち —日系スーパープレイヤー列伝	後援：公益財団法人日本サッカー協会
公開講座	2014年6月14日(土)	JICA横浜 海外移住資料館・日本移民学会共同 開催公開講座シリーズ 「日本人と海外移住」 第2回「ハワイへの移民」	講師：白水繁彦(駒澤大学教授)
巡回展示	2014年6月17日(火)～29日(日)	雄飛—沖縄移民の歴史と世界のウチナンチュ	会場：沖縄県立博物館・美術館、浦添市立図書館
イベント	2014年6月18日(水)～22日(日)	6月18日は海外移住の日	
イベント	2014年7月19日(土)～8月31日(日)	ミュージアム・クイズラリー よこはま 2014	主催：神奈川県立歴史博物館
イベント	2014年8月1日(金)～11月3日(月・祝)	ヨコハマトリエンナーレ2014タイアップ企画	
特別展示	2014年8月2日(土)～10月26日(日)	終戦69年 特別展示 「ララってなあに？ 日本を助けたおくりもの —ララ物資にみる海外日系人との絆—	
イベント	2014年8月19日(火)・20日(水)	ララ・ツアー！ —ララの時代へタイムスリッ—	
イベント	2014年8月19日(火)・20日(水)	子どもアドベンチャー 2014 / 「かながわ子ども・子育て支援月間」 かるたで遊んでタイムスリッ！	主催：横浜市教育委員会/神奈川県
イベント	2014年9月14日(日)	ヨコハマ・ワールド・ウォーク2014	
公開講座	2014年9月20日(土)	JICA横浜 海外移住資料館・日本移民学会共同 開催公開講座シリーズ 「日本人と海外移住」 第3回「アメリカ合衆国への移民」	講師：坂口満宏(京都女子大学教授)
イベント	2014年10月18日(土)・19日(日)	よこはま国際フェスタ2014	
公開講座	2014年10月25日(土)	JICA横浜 海外移住資料館・日本移民学会共同 開催公開講座シリーズ 「日本人と海外移住」 第4回「カナダへの移民」	講師：河原典史(立命館大学教授)
イベント	2014年10月26日(日)	第7回宝島ハロウィン	主催：新港地区賑わい作り委員会
ミニ展示	2014年12月2日(火)～2015年1 月11日(日)	日系社会シニア・ボランティアが見た アマゾンと日系社会 アマゾン写真展とマンガでわかる移民の話	
特別展示	2014年12月13日(土)～2015年 2月15日(日)	マンガ! Manga! Mangá! —日系人とマンガの世界—	
イベント	2014年12月23日(火・祝)	鶴田俊美トークライブ	講師：鶴田俊美(元JICA日系社会シニア・ ボランティア)
公開講座	2014年12月27日(土)	JICA横浜 海外移住資料館・日本移民学会共同 開催公開講座シリーズ 「日本人と海外移住」 第5回「ブラジルへの移民」	講師：三田千代子(元上智大学教授)
講演会	2015年1月17日(土)	学芸担当による日系トークあれこれ 第3回「日系人とマンガの世界」	



種別	開催日・開催期間	イベントタイトル	備考
公開講座	2015年2月8日(日)	「食」を通じて考える多文化共生 南北アメリカにおける日系社会と日本食 (「よこはま国際フォーラム2015」内プログラム)	基調講演：柳田利夫(慶應義塾大学教授) パネリスト：飯野正子(津田塾大学前学長・名誉教授) 桑井輝子(白百合女子大学教授) 小野ナンシー富美子(ブラジル・JICA日系研修員) 仲間リリアナクラウディア(アルゼンチン・JICA日系研修員)
ミニ展示	2015年2月21日(土)～27日(金)	『日系米国人版戦争体験収集事業』成果報告展 『日系二世が見た戦中・戦後』 ～母国と歴史の間で～	主催：沖縄県平和祈念資料館 協力：JICA横浜 海外移住資料館
公開講座	2015年2月28日(土)	JICA横浜 海外移住資料館・日本移民学会共同開催公開講座シリーズ 「日本人と海外移住」第6回「中南米への移民」	講師：石川友紀(琉球大学名誉教授)
特別展示	2015年3月8日(日)～5月10日(日)	「連れもて行こら 紀州から！ — 世界にひろがる和歌山移民 —」	資料提供・協力：和歌山県、和歌山大学紀州経済史文化史研究所、和歌山県立図書館、和歌山市民図書館、公益財団法人和歌山県国際交流協会、和歌山県中南米交流協会、アメリカ村カナダ移民資料館、紀の川市教育委員会、串本古座高等学校、串本町教育委員会、串本町木曜島遺族会、御坊市役所、すさみ町教育委員会、すさみ町歴史民俗資料館、太地町歴史資料室、那賀移民史懇話会、テレビ和歌山ほか
イベント	2015年3月8日(日)	「連れもて行こら 紀州から！ — 世界にひろがる和歌山移民 —」 オープニングセレモニー	来賓：林清仁(和歌山県東京事務所次長) 協力：唐船御船歌連中
イベント	2015年3月21日(土)	「ニッケイの祭りと音楽」公開勉強会	発表：中原ゆかり(愛媛大学教授) 須藤達也(神田外語大学講師) コメント1：島田法子(日本女子大学名誉教授) コメント2：早稲田みな子(東京芸術大学講師) コメント3：柳田利夫(慶應義塾大学教授) 司会：飯野正子(津田塾大学前学長・名誉教授)

## 2015年度

種別	開催日・開催期間	イベントタイトル	備考
公開講座	2015年4月25日(土)	JICA横浜 海外移住資料館・日本移民学会共同開催公開講座シリーズ 「日本人と海外移住」 第7回「南洋群島への移民」	講師：今泉裕美子(法政大学教授)
イベント	2015年4月25日(土)～5月6日(水・祝)	横濱ベイサイドスタンプラリー	
イベント	2015年4月30日(木)～5月6日(水・祝)	ゴールデンウィークイベント わかばんに会える!	
講演会	2015年5月9日(土)	「チキン・オブ・ザ・シー」と在米太地人会の百年	講師：櫻井敬人(太地町歴史資料室学芸員)
ミニ展示	2015年5月22日(金)～31日(日)	日系社会シニア・ボランティアが見たアマゾンと日系社会 マンガでわかる移民の話	



種別	開催日・開催期間	イベントタイトル	備考
特別展示	2015年6月6日(土)～7月5日(日)	日ブラジル外交関係120周年記念特別展示 「移民画家 半田知雄の世界」 二宮家ブラジル移住60周年記念コレクション	
イベント	2015年6月18日(木)～21日(日)	6月18日は海外移住の日	
公開講座	2015年6月20日(土)	JICA横浜 海外移住資料館・日本移民学会共同開催公開講座シリーズ 「日本人と海外移住」 第8回「満洲への植民」	講師：蘭信三(上智大学教授)
講演会	2015年6月21日(日)	二宮正人氏 特別講演「私とブラジル」	
巡回展示	①2015年7月7日(火)～24日(金) ②2015年8月3日(月)～31日(月) ③2015年9月4日(金)・5日(土) ④2015年11月12日(木)～15日(日) ⑤2016年2月2日(火)～16日(火) ⑥2016年2月26日(金)～4月1日(金)	「連れもて行こら 紀州から！ — 世界にひろがる和歌山移民 —」	会場 ①和歌山大学 ②和歌山県国際交流センター ③日高高校学祭 ④串本町文化センター ⑤紀の川市打田生涯学習センター ⑥田辺市文化交流センター交流ホール
イベント	2015年7月18日(土)～8月30日(日)	ミュージアム・クイズラリー よこはま 2015	主催：神奈川県立歴史博物館
企画展示	2015年7月18日(土)～9月27日(日)	終戦70年企画展示 「海を超えたヒロシマ・ナガサキ」	
公開講座	2015年7月25日(土)	日本のペルー人 —25年の歩みとその未来—	共催：ペルー日系人協会(APJ)・PJECA研究会 後援：JICA横浜 海外移住資料館・KYODAI パネリスト： ペドロ・マカベ(ペルー日系人協会会長) 赤木妙子(目白大学教授) アナ・スエヨシ(宇都宮大学准教授) コメンテーター： アルベルト・マツモト(IDEA NETWORK) 三田千代子(元上智大学教授) ロクサーナ・シタニ(早稲田大学助教) コーディネーター：柳田利夫(慶應義塾大学教授・JICA横浜 海外移住資料館学術委員)
公開講座 上映会	2015年8月8日(土)	終戦70年企画展示 「海を超えたヒロシマ・ナガサキ」 関連企画 第一部：パネルディスカッション 「岐路の記憶を紡ぐ」 —Hiroshima, Nagasaki, 水俣— Collecting memories at historical crossroads —Hiroshima, Nagasaki, Minamata— 第二部：「ヒロシマ・ナガサキダウンロード」 映画上映	パネリスト： 竹田信平(映像作家/アーティスト) 和氣直子(ミシガン州立大学教授) 下田健太郎(慶應義塾大学非常勤講師) コメンテーター： 久光翔・須藤遼・山本晶子(慶應義塾大学大学院) コーディネーター： 柳田利夫(慶應義塾大学教授・JICA横浜 海外移住資料館学術委員)
イベント	2015年8月14日(金)	トークイベント「ブラジルから：記憶のコミュニケーション」	講師：森田隆(ブラジル被爆者平和協会会長) 渡辺淳子(ブラジル被爆者平和協会) 盆子原國彦(ブラジル被爆者平和協会) 竹田信平(映像作家/アーティスト)
イベント	2015年8月18日(火)	子どもアドベンチャー 2015 ミニ資料館を作ろう！	主催：横浜市教育委員会



種別	開催日・開催期間	イベントタイトル	備考
イベント	2015年8月19日(水)	子どもアドベンチャー 2015 かるたで遊んでタイムスリップ!	主催:横浜市教育委員会
イベント	2015年8月28日(金)~30日(日)	JICA横浜特別企画 移動プラネタリウム 世界の星空めぐり	
イベント	2015年9月11日(金)	来館者40万人達成記念イベント	
イベント	2015年9月13日(日)	ヨコハマ・ワールド・ウォーク2015	
イベント	①2015年9月19日(土)・20日(日) ②2015年9月19日(土)~10月 31日(土)	ベトナムフェスタ in 神奈川 ~超Beyond the NEXT! ~ プレゼント企画	①JICAブース ②海外移住資料館
公開講座	2015年9月26日(土)	JICA横浜 海外移住資料館・日本移民学会共 同開催公開講座シリーズ 「日本人と海外移住」 第9回「東南アジアへの移民」	講師:早瀬晋三(早稲田大学教授)
展示協力	2015年10月5日(月)~12月26日(土)	広島県立文書館特別展示「広島から世界へ ~移住者の歴史と現在~」	主催:広島県 協力:独立行政法人国際協力機構 会場:広島県立文書館展示室
イベント	2015年10月10日(土)・11日(日)	よこはま国際フェスタ2015	
企画展示	2015年10月24日(土)~2016年 2月7日(日)	横浜・バンクーバー姉妹都市50周年記念企 画展示 TAIKEN 体験 一日系カナダ人 未来へつなぐ道のりー	
公開講座	2015年10月24日(土)	日本のペルー人II—二世の社会参加—	共催:ペルー日系人協会(APJ)、PJECA研 究会 後援:JICA横浜 海外移住資料館・KYODAI パネリスト: 森本昌義(海外日系人協会常務理事) 木本結一郎(Kyodai Remittance) ペドロ・マカベ(ペルー日系人協会会長) コメンテーター: 赤木妙子(目白大学教授) 拝野寿美子(神奈川大学) コーディネーター:柳田利夫(慶應義塾大学 教授・JICA横浜 海外移住資料館学術委員)
イベント	2015年10月25日(日)	第8回宝島ハロウィン・ラリー	主催:新港地区賑わい作り委員会
公開講座	2015年10月31日(土)	JICA横浜 海外移住資料館・日本移民学会共 同開催公開講座シリーズ 「日本人と海外移住」 第10回「在日ニューカマー:在日ブラジル 人を中心に」	講師:アンジェロ・イシ(武蔵大学教授)
イベント	2015年11月21日(土)~23日(月・祝)	JICA横浜特別企画 移動プラネタリウム 世界の星空めぐり	
講演会	2015年11月28日(土)	横浜・バンクーバー姉妹都市50周年記念企 画展示関連イベント 特別講演「二つの母国-カナダ社会における 日系人の歴史と現在-」	講師:ゴードン門田(日系文化センター初代 理事長)

種別	開催日・開催期間	イベントタイトル	備考
公開講座	2015年12月5日(土)	JICA横浜 海外移住資料館・日本移民学会共同開催公開講座シリーズ 「日本人と海外移住」 第11回「在日オールドカマー」	講師：李洙任（龍谷大学教授）
イベント	2015年12月23日(水)～27日(日)	クリスマス特別企画！ 世界の民芸品プレゼント！！	
イベント	2016年1月2日(土)・3日(日)	JICA横浜でおもちつきをしよう！！	
公開講座	2016年2月7日(日)	『七転び八起き：アメリカへ渡った戦争花嫁物語』の上映と解説 (「よこはま国際フォーラム2016」内プログラム)	パネリスト：Lucy Craft(映画制作者) 安富成良（嘉悦大学元教授） 土屋智子（日本女子大学専任講師）
公開講座	2016年2月27日(土)	JICA横浜 海外移住資料館・日本移民学会共同開催公開講座シリーズ 「日本人と海外移住」 第12回「移民研究の現状と展望」	講師：飯野正子（津田塾大学名誉教授） 浅香幸枝（南山大学准教授）
企画展示	2016年3月1日(火)～6月5日(日)	「ルーツは福岡 夢は世界へ ー世界で活躍する福岡移民ー」	協力：福岡県
イベント	2016年3月5日(土)	「ルーツは福岡 夢は世界へ ー世界で活躍する福岡移民ー」 オープニングイベント	来賓：野上昭倫（福岡県国際交流局交流第一課課長） 協力：関東無法松会（小倉祇園太鼓）
イベント	2016年3月19日(土)～4月10日(日)	横濱ベイサイドビューポイントラリー	主催：新港賑わい作り委員会

## 2016年度

種別	開催日・開催期間	イベントタイトル	備考
イベント	2016年4月27日(木)	日本学生海外移住連盟（学移連）OB会資料 文献寄贈式	
イベント	2016年5月3日(火)～5月5日(木)	ゴールデンウィークイベント ふくおか銘菓展	
公開講座	2016年5月15日(日)	海外渡航の始まり 川上音二郎とその時代	講師：長谷川法世（漫画家）
公開講座	2016年5月29日(日)	ブラジルにおけるマンガ事情 ー日系人と日本文化の果たした役割ー	講師：佐藤フランシスコ紀行（ブラジル漫画家協会会長）
イベント	2016年6月17日(金)～19日(日)	6月18日は海外移住の日	
巡回展示	①2016年6月23日(木)～30日(木) ②2016年9月3日(土)～10月16日(日)	「連れもて行こら 紀州から！ ー世界にひろがる和歌山移民ー」	①京都外国語大学（京都市） ②海外移住と文化の交流センター（神戸市）
イベント	2016年7月16日(土)～8月31日(水)	ミュージアム・ミッション2016 ー博物館からの挑戦状ー	
企画展示	2016年7月16日(土)～9月25日(日)	二つのオリンピック ースポーツがつかない日系社会ー	



種別	開催日・開催期間	イベントタイトル	備考
イベント	2016年7月26日(火)	Pioneros Ver.2.0開通式	来賓：ホルヘ・クニガミ(ペルー日系人協会会長) 赤嶺貴子(ペルー日系人協会) 柳田利夫(慶應義塾大学教授・JICA横浜 海外移住資料館学術委員)
イベント	2016年7月30日(土)	「資料館でルーツを学ぼう 日系ペルー人の歴史と未来Ⅱ」①	
イベント	2016年8月3日(水)～7日(日)	「第三世代が考える ヒロシマ」継ぐ展」 関連イベント	
イベント	2016年8月9日(火)～9月25日(日)	ブラジル物産フェア	
イベント	2016年8月12日(金)	小川彰夫氏寄贈 リオデジャネイロオリンピック聖火トーチお披露目式	来賓：駐日ブラジル大使館ベルジガオン経済協力担当部長
イベント	2016年8月17日(水)	子どもアドベンチャー2016 かるたで遊んでタイムスリップ!	主催：横浜市教育委員会
イベント	2016年8月18日(木)	子どもアドベンチャー2016 ミニ資料館を作ろう!	
イベント	2016年8月23日(水)	ミュージアムミッション2016 関連イベント JICA横浜館内ツアー	主催：神奈川県立歴史博物館
イベント	2016年8月27日(土)	「資料館でルーツを学ぼう 日系ペルー人の歴史と未来Ⅱ」②	
イベント	2016年8月28日(日)	紙芝居の読み聞かせ&ワンポイント講座の開催!	講師：波賀稔(絵本専門士・鈴木出版編集長)
イベント	2016年8月12日(金)・13日(土)・8月20日(土)・27日(土)・28日(日)・30日(火)	リオデジャネイロオリンピック聖火トーチ撮影会	
公開講座	2016年9月4日(日)	日本のペルー人Ⅲー日本社会で働くー	共催：PJECA研究会・Amigo Project・ペルー日系人協会(APJ) 後援：JICA横浜 海外移住資料館・公益財団法人海外日系人協会・Kyodai Remittance 司会：赤木妙子(目白大学教授) パネリスト：山城ロサリン(株式会社ラティエノ) 大城アンドレア(カリカチュア・ジャパン株式会社) 岸本ノリイチ(株式会社田崎アサヒ) コーディネーター：柳田利夫(慶應義塾大学教授・JICA横浜 海外移住資料館学術委員)
講演会	2016年9月25日(日)	小川彰夫氏 特別講演会	講師：小川彰夫(リオ五輪聖火ランナー)
巡回展示	①2016年9月27日(火)～10月2日(日) ②2016年10月3日(月)～7日(金) ③2016年10月12日(水)～30日(日) ④2016年11月26日(土)～28日(月) ⑤2017年1月7日(土)～27日(金) ⑥2016年10月15日(土)・16日(日)	福岡県海外移住資料展 「ルーツは福岡 夢は世界へー世界で活躍する福岡移民ー」	①九州芸文館エントランスギャラリー(筑後市) ②福岡県庁1階ロビー(福岡市) ③福岡市総合図書館1階ショーケース(福岡市) ④イイツカコミュニティセンター展示ホール(飯塚市) ⑤コムシティ 3階マーメイド広場(北九州市) ⑥日墨会館メインホール(メキシコ・メキシコシティ)

種別	開催日・開催期間	イベントタイトル	備考
イベント	2016年10月8日(土)～10日(月)	よこはま国際フェスタ2016	
企画展示	2016年10月15日(土)～12月11日(日)	田島さゆり写真展 鏡像の祖国 ーアルゼンチンの日系人たちー	
イベント	2016年10月15日(土)	田島さゆり写真展 鏡像の祖国 ーアルゼンチンの日系人たちー オープニングイベント	講師：田島さゆり(写真家) 大城クラウディア(歌手)
イベント	2016年10月21日(金)	黒田又蔵氏資料寄贈式	
巡回展示	2016年10月21日(金)～12月4日(日)	移民資料展「ウチナンチュの世越の肝心 (ユークイティヌチムグクル)」	会場：沖縄県立博物館・美術館(那覇市) 協力：JICA横浜 海外移住資料館
イベント	2016年10月30日(日)	第9回 宝島ハロウィン・ラリー	主催：新港地区賑わい作り委員会
イベント	2016年11月3日(木・祝)	ヨコハマ・ワールド・ウォーク2016	
公開講座	2016年11月5日(土)	日本のペルー人IV ー社会に羽ばたくー	共催：PJECA研究会・Amigo Project・ ペルー日系人協会(APJ) 後援：JICA横浜 海外移住資料館・公益財団 法人海外日系人協会・Kyodai Remittance 司会：赤木妙子(目白大学教授) パネリスト：三善ヒロミ(工学院大学学生) 真栄平なえみ(東京国際大学学生) フォンセカ・アルセ・ルシアナ(東洋大学学生) コーディネーター：柳田利夫(慶應義塾大学 教授・JICA横浜 海外移住資料館学術委員)
イベント	2016年11月26日(土)・27日(日)	移動プラネタリウム 世界の星空めぐり	
企画展示	2016年12月23日(金・祝)～ 2017年2月12日(日)	ハワイの日系人のまつり ーお正月とボンダンスー	
イベント	2016年12月28日(水)	「資料館でルーツを学ぼう 日系ペルー人の歴史と未来II」③	
公開講座	2017年1月14日(土)	日系人と第二次大戦 ーハワイの日系アメリカ人を中心にー	講師：すずきじゅんいち(映画監督)
公開講座	2017年2月4日(土)	大泉町発多文化共生まち映画 「サンゴーヨン☆サッカー」の上映 (「よこはま国際フォーラム2017」内プログラ ム)	講師：宮地克徳(プロデューサー) 藤橋誠(映画監督)、平野パウロ(出演者)
企画展示	2017年3月4日(土)～5月28日(日)	広島から世界へ ー移住の歴史と日系人の暮らしー	協力：広島県、広島市、広島県立文書館、広 島市公文書館
イベント	2017年3月4日(土)	広島から世界へ ー移住の歴史と日系人の暮らしー オープニングイベント	来賓：濱本清孝(広島県地域政策局国際部長) 協力：上西千波(ジャズシンガー)
イベント	2017年3月18日(土)～4月9日(日)	横濱ベイサイドビューポイントラリー	主催：新港賑わい作り委員会
イベント	2017年3月25日(土)	「資料館でルーツを学ぼう 日系ペルー人の歴史と未来II」④	



## 2017年度

種別	開催日・開催期間	イベントタイトル	備考
公開講座	2017年4月22日(土)	パラグアイの魅力	講師：前原弘道(パラグアイ日本人会連合会会長)
イベント	2017年5月3日(水)～5日(金)	ゴールデンウィークイベント	
ミニ展示	2017年5月12日(金)～28日(日)	ジミー・ミリキタニ ミニ絵画展	
公開講座	2017年5月13日(土)	ハワイ移民の源流 広島県	講師：川崎壽(ハワイ移民資料館 仁保島村館長)
上映会	2017年5月28日(日)	特別上映会「ミリキタニの猫《特別篇》&ギャラリートーク	講師：Masa(「ミリキタニの記憶」監督)、坂本譲治(ミリキタニ研究者)
公開講座	2017年6月3日(土)	日系カナダ人の戦後 —埋もれた歴史に光をあてる—	司会：飯野正子(津田塾大学名誉教授・元学長) 報告者：高村宏子(東洋学園大学元教授) 中山信子・レナ(Japanese-Canadian Stories from Japan編纂者、日本在住 日系カナダ人) 中野英男・ジョージ(日本在住 日系カナダ人) 田中加代子・ケイティ(日本在住 日系カナダ人) ジーン・マエダ(Japanese-Canadian Stories from Japan編纂者、カナダ在住 日系カナダ人) 原口邦紘(外交史料館元副館長・編纂委員)
イベント	2017年6月17日(土)・18日(日)	6月18日は海外移住の日	
企画展示	2017年6月24日(土)～9月18日(月・祝)	写真展「ハワイ日系人の歩み」	共催：二世ベテランレガシー(Nisei Veterans Legacy) ハワイ日米協会 ハワイ日本文化センター 協力：ハワイ州観光局 ハワイ報知
イベント	2017年6月24日(土)	写真展「ハワイ日系人の歩み」 オープニングセレモニー&ハワイアンミニコンサート	協力：クウレイ・マモ(日系三世ウクレレ奏者)、クウレイバンド フラダンスチームHalau Hula O Nani Alohi(ハラウ・フラ・オ・ナニ・アロヒ)
イベント	2017年7月7日(金)～9日(日)	大江戸ハワイフェスティバル2017	会場：ベルサール東京(日本橋)
イベント	2017年7月22日(土)～8月31日(木)	ミュージアム・ミッション2017 —博物館からの挑戦状—	主催：神奈川県立歴史博物館
上映会	2017年7月30日(日)	特別上映「二つの祖国で 日系陸軍情報部」 &トークイベント	講師：すずきじゅんいち(映画監督) バーンズ・ヤマシタ(写真展「ハワイ日系人の歩み」実行委員長)
イベント	2017年8月17日(木)	子どもアドベンチャー 2017 かるたで遊んでタイムスリップ!	主催：横浜市教育委員会
イベント	2017年8月18日(金)	子どもアドベンチャー 2017 ミニ資料館を作ろう!	
イベント	2017年8月19日(土)	JICA×HAWAII SUMMER EVENT!	協力：クウレイ・マモ(日系三世ウクレレ奏者)、クウレイバンド フラダンスチーム「Halau Hula O Nani Alohi」(ハラウ・フラ・オ・ナニ・アロヒ)
イベント	2017年8月24日(木)	ミュージアム・ミッション スペシャルイベント「JICA横浜 館内ツアー」	

種別	開催日・開催期間	イベントタイトル	備考
イベント	2017年8月25日(金)	来館者数50万人達成記念式典	
上映会	2017年8月27日(日)	特別上映「Go for Broke! -ハワイ日系二世の記憶-」&トークイベント	講師：松元裕之(映画監督)
企画展示	2017年9月30日(土)～12月24日(日)	日本人メキシコ移住120周年記念企画展示「メヒコの心に生きた移民たち」	協力：日本人メキシコ移住あかね記念館
巡回展示	①2017年10月3日(火)～15日(日) ②2017年12月12日(火)～24日(日) ③2018年1月9日(水)～21日(日)	広島から世界へ -移住の歴史と日系人の暮らし-	主催：広島県 ①広島県立美術館県民ギャラリー(広島市) ②広島県立歴史民俗資料館ロビー(三次市) ③広島県立歴史博物館ロビー(福山市)
イベント	2017年10月7日(土)～9日(月)	よこはま国際フェスタ2017	
公開講座	2017年10月15日(日)	日本のペルー人V -ペルー系二世とともに-	共催：PJECA研究会、ペルー日系人協会(APJ) 後援：JICA横浜 海外移住資料館、公益財団法人 海外日系人協会 司会：赤木妙子(目白大学教授) パネリスト：高橋悦子(NPO法人日本ペルー共生協会) 高橋麻子(NPO法人日本マリネラ協会) 上村カルロス(NPO法人AMIGO PROJECT) コメント：小波津ホセ(宇都宮大学) 拝野寿美子(神奈川大学 非常勤講師) 柳田利夫(慶應義塾大学教授・JICA横浜 海外移住資料館学術委員)
イベント	2017年10月28日(土)	第10回宝島ハロウィン	主催：新港地区賑わい作り委員会
公開講座	2017年11月18日(土)	日墨関係史と日本人移住の意義	講師：川路賢一郎(メキシコ移住研究家・元JICAメキシコ事務所長)
公開講座	2017年12月2日(土)	海外移住百五十年を振り返る 新たな史・資料からみる「若松コロニー」	司会：糸井輝子(白百合女子大学 教授) 報告：飯野朋美(津田塾大学 特任講師) 小澤智子(武蔵野美術大学 准教授) 北脇実千代(日本大学 准教授) 菅(七戸)美弥(東京学芸大学 教授) 長谷川寿美(慶應義塾大学 非常勤講師) 閉会の辞：飯野正子(津田塾大学元学長・名誉教授、JICA横浜 海外移住資料館学術委員長)
イベント	2017年12月5日(火)～24日(日)	海外移住資料館 クリスマスイベント	
公開講座	2017年12月10日(日)	日本のペルー人VI -ネクストジェネレーション(第三世代)を考える-	共催：JICA横浜 海外移住資料館・ペルー日系人協会(APJ)・PJECA研究会 後援：在東京ペルー共和国総領事館・公益財団法人海外日系人協会・NPO法人AMIGO PROJECT・NPO法人日本ペルー共生協会、NPO法人日本マリネラ協会 コーディネーター：赤木妙子(目白大学教授) 小波津ホセ(宇都宮大学) 柳田利夫(慶應義塾大学教授・JICA横浜 海外移住資料館学術委員)
イベント	2018年1月20日(土)	JICA横浜 新春イベント	



種別	開催日・開催期間	イベントタイトル	備考
公開講座	2018年2月3日(土)	映画「100年の鼓動ーハワイに渡った福島太鼓ー」上映と岩根愛ミニトーク (よこはま国際フォーラム2018内プログラム)	講師：岩根愛(写真家)
イベント	2018年2月3日(土)～4日(日)	よこはま国際フォーラムコラボ企画!	
企画展示	2018年2月10日(土)～5月27日(日)	南国土佐をあとにして ー海を渡った「いごっそう」ー	協力：高知県
イベント	2018年2月10日(土)	企画展示「南国土佐をあとにしてー海を渡った「いごっそう」ー」 オープニングイベント	来賓：近藤雅宏(高知県東京事務所長・高知県知事代理) 武石利彦(南米友好親善高知県議会議員連盟会長) 下村勝幸(同連盟事務局長) 協力：よさこいチーム

## 2018年度

種別	開催日・開催期間	イベントタイトル	備考
公開講座	2018年5月12日(土)	高知県人はなぜ海を渡り新天地を求めたのか?ー高知県移民群像ー	講師：中村茂生(高知大学非常勤講師)
企画展示	2018年6月16日(土)～9月2日(日)	日伯110年の絆ー在日ブラジル人 ー在日30年をむかえた日系人の歴史と日常ー	主催：在東京ブラジル総領事館/JICA横浜 海外移住資料館 協力：アンジェロ・イシ(武蔵大学教授) /ジュニオール・マエダ(写真家) 協賛：ブラジル連邦貯蓄銀行/プラステル
イベント	2018年6月16日(土)	日伯110年の絆ー在日ブラジル人 ー在日30年をむかえた日系人の歴史と日常 オープニングイベント	来賓：ジョアン・デ・メンドンサ・リマ・ネト(在東京ブラジル総領事) 安富祖美智江(リオ・ブランコ勲章受章者)
イベント	2018年6月17日(日)	海外移住の日イベント	
巡回展示	①2018年6月17日(日)～19日(火) ②2018年6月25日(月)～7月6日(金) ③2018年7月9日(月)～20日(金) ④2018年8月17日(金)～9月5日(水) ⑤2018年9月18日(火)～28日(金) ⑥2018年11月17日(土)～12月20日(木) ⑦2019年1月16日(水)～23日(水)	南国土佐をあとにして ー海を渡った「いごっそう」ー	主催：高知県 ①高知城歴史博物館(高知市) ②高知県立大学池キャンパス(高知市) ③高知県立大学永国寺キャンパス(高知市) ④四万十町庁舎渡り廊下(高岡郡) ⑤土佐市「南風」(土佐市) ⑥オーテピア高知図書館(高知市) ⑦佐川町「桜座」(高岡郡)
公開講座	2018年7月8日(日)	在日30年の体験から見たブラジルと日本	講師：斎藤俊男(株式会社ティー・エス会長)
イベント	2018年7月14日(土)～16日(月・祝)	大江戸ハワイフェスティバル2018	
イベント	2018年7月21日(土)～8月31日(金)	ミュージアム・ミッション2018 ー博物館からの挑戦状ー	主催：神奈川県立歴史博物館
イベント	2018年9月2日(日)	ブラジルと日本 みんなで作る音楽ワークショップ	講師：REI CAPOEIRAP(ラッパー)、grilo(カポエイラインストラクター)
イベント	2018年9月29日(土)	クラフトワークショップ 「移民船をつくらう!」	
イベント	2018年10月6日(土)～8日(月・祝)	よこはま国際フェスタ2018	

種別	開催日・開催期間	イベントタイトル	備考
企画展示	2018年10月6日(土)～12月24日(月・祝)	ハワイ日本人移住150周年記念企画展示 －元年者に始まるハワイ移民と邦字紙が果たした役割－	後援：一般社団法人 海外日系新聞放送協会 協力：国立歴史民俗博物館
イベント	2018年10月27日(土)	第11回宝島ハロウィン	主催：新港地区賑わい作り委員会
公開講座	2018年11月3日(土・祝)	バックヤードから語る移民史 －外交史料こぼれ話－	講師：柳下宙子(元外務省外交史料館課長補佐)
イベント	2018年11月11日(日)	Viva 110! 横浜で祝おうブラジル日本移民110周年	
イベント	2018年12月4日(火)～12月24日(月・祝)	プチ・クリスマス企画	
公開講座	2019年2月2日(土)	NHKドキュメンタリー制作者が見た“日系アメリカ人栄光と苦難の150年”(よこはま国際フォーラム2019内プログラム)	講師：小山靖史(NHKエンタープライズプロデューサー)
イベント	2019年2月24日(日)	ブラジル移住111周年記念イベント ブラジルと日本の未来を奏でる美味しい音楽会 －Projeto Som Na Bacana－	講師：REI CAPOEIRAP(ラッパー)、ACCC.SHONAN(カポエイラ)、The Nwankwo 9(中南米愛好家バンド)
上映会	第1回：2019年3月10日(日) 第2回：2019年3月16日(土)	ドキュメンタリー映画上映会 "AND THEN THEY CAME FOR US"	解説：Satsuki Ina(出演者)
イベント	2019年3月1日(金)	「マチュピチュ村を拓いた男 野内与吉とペルー日本人移民の歴史」 オープニングセレモニー	来賓：ハロルド・フォルサイト(在日ペルー共和国大使館特命全権大使) ホルヘ・ルイス・ロメロ・カストロ(ペルー国会内アンデス議会副議長)
企画展示	2019年3月2日(土)～5月26日(日)	ペルー日本人移民120周年記念企画展示 「マチュピチュ村を拓いた男 野内与吉とペルー日本人移民の歴史」	主催：JICA横浜 海外移住資料館、日本マチュピチュ協会、一般社団法人 野内与吉資料館 後援：在日ペルー共和国大使館、在東京ペルー共和国総領事館、在名古屋ペルー共和国総領事館、マチュピチュ区役所、在高山ペルー共和国名誉総領事館、横浜市国際局、ペルー日系人協会(APJ)、神奈川新聞社、FMヨコハマ、福島民放社 協力：ペルー日本人移住資料館「カルロス・千代照・平岡」、天野プレコロンビアン織物博物館
公開講座	2019年3月23日(土)	ペルー日本人移民の歴史とマチュピチュ村を創った野内与吉の生涯	講師：野内セサル良郎(日本マチュピチュ協会会長、一般社団法人 野内与吉資料館代表理事)

## 2019年度

種別	開催日・開催期間	イベントタイトル	備考
イベント	2019年5月5日(日・祝)	ペルー民族音楽「folklore」演奏	
イベント	2019年5月18日(土)・19日(日)	あーすフェスタ2019	
イベント	2019年5月31日(金)～6月2日(日)	大江戸ハワイフェスティバル	
講演会	2019年6月8日(土)	海外移住の日記念イベント 「ブラジル日本移民を知る講演会」	共催：サンパウロ人文科学研究所日本支部 講師：長尾直洋 (サンパウロ人文科学研究所・元JICA日系社会青年ボランティア)



種別	開催日・開催期間	イベントタイトル	備考
イベント	2019年6月22日(土)・23日(日)	海外移住の日記念イベント 「6月18日は海外移住の日」	
イベント	2019年6月25日(火)～7月7日(日)	移民の七夕まつりーFestival das Estrelasー	
企画展示	2019年6月29日(土)～10月6日(日)	コーヒーが結んだ日系人と日本	協力：株式会社カフェパウリスタ
イベント	2019年7月13日(土)・7月14日(日)	浴衣で行こう！海外移住資料館	
イベント	2019年7月20日(土)～8月31日(土)	ミュージアム・ミッション2019	主催：神奈川県立歴史博物館
イベント	2019年8月7日(水)	こども霞が関見学デー	主催：文部科学省
イベント	2019年8月15日(木)・16日(金)	子どもアドベンチャー 2019 移民クイズで海外移住体験	主催：横浜市教育委員会
公開講座	2019年9月1日(日)	カフェパウリスタ、その始まりと現在(いま)	講師：長谷川勝彦(株式会社カフェパウリスタ社長)
上映会	2019年10月5日(土)	企画展示関連映画上映会 「ガイジンー自由への道」	
イベント	2019年10月26日(土)	宝島ハロウィン2019	主催：新港地区賑わい作り委員会
企画展示	2019年11月2日(土)～2020年2月2日(日)	ボリビア日本人移住120周年記念企画展示 「ボリビアに生きる一日系人の生活とその心ー」	
イベント	2019年11月6日(水)	第一回ハワイ官約移民 大槻幸之助資料寄贈式	
公開講座	2019年11月17日(日)	日本人ボリビア移住120周年を迎えて	講師：安仁屋滋(ボリビア日系協会連合会事務局長)
イベント	2019年11月24日(日)	VIVA！111 de Yokohama	主催：ブラジルsolidario横浜
イベント	2019年12月3日(火)～12月25日(水)	海外移住資料館の「プチ・クリスマス企画」	
イベント	2019年12月6日(金)	来館者数60万人達成記念式典	
講演会	2019年12月16日(月)	飯野正子学術委員長 瑞宝中綬章受章記念講演 「国際協力の輪ー津田梅子と日系人コミュニティと日米関係」	講師：飯野正子(津田塾大学元学長・名誉教授、JICA横浜 海外移住資料館学術委員長)
講演会	2020年1月25日(土)	「悪いけど、日本人じゃないね」と言われてー半分日本人で、半分別の人のアイデンティティって？ー	講師：日向ノエミア(異文化エッセイスト)

## 2020年度

種別	開催日・開催期間	イベントタイトル	備考
企画展示	2020年7月21日(火)～10月25日(日)	くまモンと学ぼう！熊本移民の歴史と活躍ーこぎゃんすごか、わざもんと肥後もっこすー	協力：熊本県
イベント	2020年8月1日(土)～30日(日)	WEBで開催！ミュージアム・ミッション2020	主催：神奈川県立歴史博物館
ウェビナー	2020年8月22日(土)	第1回中南米地域日系資料館ネットワーク強化会議	
講演会	2020年9月30日(水)	オンライン講演会「世界最高峰(3600メートル)の日本人移住資料館」	講師：岡崎友里(JICA横浜専門嘱託)
公開講座	2020年10月3日(土)	日系人アイデンティティとの再会ー尺八を通して叶えた、熊本におけるルーツ探しー	講師：淵上ラファエル広志(尺八奏者) ゲスト：米谷麻梨(三味線・歌)

種別	開催日・開催期間	イベントタイトル	備考
イベント	2020年9月29日(火)～10月31日(土)	ハロウィンイベント	
講演会	2020年10月31日(土)	オンライン講演会 「世界遺産都市リマの隠れた名所 日本人ペ ルー移住史料館"平岡千代照"」	講師：大野博子(元JICA海外協力隊)
企画展示	"2020年11月21日(土)～2021 年3月28日(日) (注)空調工事のため、1月4日から 2月9日まで臨時休館"	シアトルのハントホテル ー日本語学校の知られざる歴史1945-1959	協力：ワシントン州日本文化会館
講演会	2020年11月26日(木)	オンライン講演会「いちばん遠くていちばん 近い、ブラジルの日系社会ー住んでみた印象 は？他国とどこが違う？コロナ禍の今は？ー」	講師：門倉孝行(元JICA企画調査員)、水野 晴佳(JICA横浜専門嘱託)
イベント	2020年12月1日(火)～25日(金)	海外移住資料館の「プチ・クリスマス企画」	
講演会	2020年12月18日(金)	オンライン講演会「ブラジル日系二世エリー トの立候補と投票をめぐる心情と論理ー戦後 の民主化における1947年選挙を事例にー」	講師：長村裕佳子 (JICA緒方研究所、第一回JICA海外移住懸賞 論文 最優秀賞受賞者)
講演会	2021年1月22日(金)	オンライン講演会「ハワイに渡った日本から の移民とその子孫ー日米布の関係とその時代 背景ー」	講師：浅沼正和(展示案内ボランティア)
公開講座	2021年1月31日(日)	「シアトル日本町とワシントン州日本文化会 館」の紹介	講師：中村有理沙(ワシントン州日本文化会 館)
講演会	2021年2月13日(土)	『らぶらた報知』の創刊と「在亜沖縄県人連 合会」の設立	講師：月野楓子(第一回JICA海外移住懸賞 論文 優秀賞受賞者)
ウェビ ナー	2021年2月26日(金)	学術研究プロジェクトによるWebinar 「移民と疾病」	司会：赤木妙子(目白大学教授) 基調報告：比嘉マルセーロ(フェリス女学院 大学教授) コメント1 三澤健宏(津田塾大学教授) コメント2 木村昌人(関西大学客員教授) コメント3 飯野正子(JICA横浜 海外移住 資料館学術委員長)
ウェビ ナー	2021年3月6日(土)	第2回中南米地域日系資料館 ネットワーク強化会議	
講演会	2021年3月13日(土)	オンライン講演会 「渋沢栄一と、南米を目指した若者たち ー栄一のブラジル移民事業支援ー」	講師：名村優子(早稲田大学非常勤インスト ラクター)

## 2021年度

種別	開催日・開催期間	イベントタイトル	備考
講演会	2021年4月23日(金)	オンライン講演会「日系パラグアイ人のわた しと伝統工芸ニャンドゥティ」	講師：岩谷みえエレナ(パラグアイ日系二世)
企画展示	2021年4月27日(火)～11月21日(日)	日系人のレシピ ー受け継がれる日本の味と家族の記憶	協力：キックマン国際食文化研究センター
講演会	2021年5月30日(日)	オンライン講演会「“フジヤマのトビウオ” とブラジル日系コロニアの戦後」	講師：乗松優(第一回JICA海外移住懸賞論 文 特別賞受賞者)
イベント	2021年6月8日(火)～6月30日(水)	海外移住の日・国際日系デー記念クイズ	



種別	開催日・開催期間	イベントタイトル	備考
対談	2021年6月20日(日)	【6月20日 国際日系デー・オンライン・トークショー】「アーティスト 大岩オスカール×サンパウロ、東京、ニューヨーク さすらうニッケイ・アイデンティティ」	共催：公益財団法人海外日系人協会 講師：大岩オスカール（アーティスト） アンジェロ・イシ（武蔵大学教授）
講演会	2021年7月17日(土)	オンライン講演会 連続講演会（全3回） 「世界最大の日系人コミュニティの実像－440カ所のリアルボイス－」 「第1回 実態とその存在感」	講師：細川多美子（サンパウロ人文科学研究所『多文化社会ブラジルにおける日系社会の実態調査』プロジェクトリーダー）
ミニ展示	2021年7月20日(火)～9月12日(日)	東京オリンピック・パラリンピック開催記念 スポーツがつないだ日系社会	
イベント	2021年7月21日(水)～8月31日(火)	WEBで開催！ ミュージアム・ミッション 2021	主催：神奈川県立歴史博物館
イベント	2021年7月23日(金)～9月5日(日)	東京五輪（2021年開催）記念クイズ	
講演会	2021年8月27日(金)	オンライン講演会 連続講演会（全3回） 「世界最大の日系人コミュニティの実像－440カ所のリアルボイス－」 「第2回 アマゾンから雪降る町まで、4000キロを貫く日系魂」	講師：細川多美子（サンパウロ人文科学研究所『多文化社会ブラジルにおける日系社会の実態調査』プロジェクトリーダー）
講演会	2021年9月25日(土)	オンライン講演会 連続講演会（全3回） 「世界最大の日系人コミュニティの実像－440カ所のリアルボイス－」 「第3回 ブラジルに残る日本人と日系人の痕跡」	講師：細川多美子（サンパウロ人文科学研究所『多文化社会ブラジルにおける日系社会の実態調査』プロジェクトリーダー）
イベント	2021年9月30日(木)	伊藤一男コレクション寄贈感謝状贈呈式	
講演会	2021年10月23日(土)	オンライン講演会 「よみがえった伝説の「バンクーバー朝日軍」－カナダ日系人野球チームが貫いた不屈の精神－」	講師：テッド・Y・フルモト（『バンクーバー朝日軍』著者）
公開講座	2021年11月7日(日)	オンライン公開講座 「しょうゆ 国境を越えてひろがる日本の味」	講師：山下弘太郎（キッコーマン国際食文化研究センター センター長）
講演会	2021年11月20日(土)	オンライン講演会「激動の歴史を生き抜いたキューバの日系人、120年の軌跡－断絶、離散の歴史とこれから－」	講師：三田村達宏（JICAキューバ事務所長）
講演会	2021年12月17日(金)	オンライン講演会「お坊さんはブラジル人－ブラジル人僧侶から見た日系社会と日本社会－」	講師：フェルナンデス浄賢（僧侶）
講演会	2022年1月28日(金)	オンライン講演会 「カーニバルから見たブラジルと日本」	講師：片山恵（第二回JICA海外移住懸賞論文 エッセイ・評論部門最優秀賞受賞者）
イベント	2022年2月26日(土)	リニューアル前の海外移住資料館、最後の公開！	講師：上床万佐子（展示案内ボランティア）
講演会	2022年3月26日(土)	オンライン講演会 世界最大の日系人コミュニティの実像－440カ所のリアルボイス－特別編 「日系の風景、それなに？ それなぜ？」	講師：細川多美子（サンパウロ人文科学研究所『多文化社会ブラジルにおける日系社会の実態調査』プロジェクトリーダー）ほか

## 2022年度

種別	開催日・開催期間	イベントタイトル	備考
講演会	2022年4月22日（金）	オンライン講演会「カチマケ抗争2.0：文化還元主義を超えて」	講師：柴田寛之（第二回JICA海外移住懸賞論文 論文部門優秀賞受賞者）
イベント	2022年4月25日（月）	海外移住資料館常設展示場リニューアルオープニングセレモニー	来賓：高橋正治（横浜市議会副議長） 橋本徹（横浜市国際局長） 横山正人（米州友好横浜市会議員連盟会長） 飯野正子（海外移住資料館学術委員長） 井本佐智子（JICA理事）
講演会	2022年5月28日（土）	オンライン講演会「メキシコの日系人と取り組む日本人移民史の調査・保存・伝承の実践」	講師：平井伸治（メキシコ社会人類学高等研究所教授）
イベント	2022年6月2日（木）・7日（火）～26日（日）	横浜開港記念クイズ、海外移住の日・国際日系デー記念クイズ	
講演会	2022年6月24日（金）	オンライン講演会「生中継！海外移住資料館散歩」	
企画展示	2022年7月2日（土）～8月28日（日）	外務省外交史料館・JICA横浜 海外移住資料館 共催企画展示 「外交史のなかの海外移住－それぞれのはじまり」	共催：外務省外交史料館
公開講座	2022年7月10日（日）	条約書でたどる日本と南北アメリカ諸国との外交関係の成立・発展	講師：冨塚一彦（外務省外交史料館『日本外交文書』編集室長）
イベント	2022年7月15日（金）～9月30日（金）	みなとみらいは知にあふれている！自由研究のテーマを探しに行こう！	
イベント	2022年7月21日（木）～8月31日（水）	WEBで開催！ ミュージアム・ミッション2022	主催：神奈川県立歴史博物館
講演会	2022年7月30日（金）	オンライン講演会「1940年、はじめて見る日本－ある日系二世と一人の非日系ブラジル人の来日記」	講師：ソアレス・モッタ・フェリッペ・アウグスト （第二回JICA海外移住懸賞論文 論文部門最優秀賞受賞者）
講演会	2022年8月20日（土）	オンライン講演会「沖縄県在住の日系人から学ぶ 沖縄移民の過去と現在」	講師：飯塚陽美 （第二回JICA海外移住懸賞論文 エッセイ・評論部門優秀賞受賞者）
ミニ展示	2022年9月10日（土）～25日（日）	ジョージ・タケイ ミニ展示	
イベント	2022年9月19日（月・祝）	ジョージ・タケイ氏来館記念セレモニー&サイン会	講師：ジョージ・タケイ（俳優）
講演会	2022年9月22日（木）	オンライン講演会「ウルグアイの日系社会－我が心のnikkei－」	講師：馬場由美子 （愛知県立大学大学院博士前期課程在籍、元新聞記者）
講演会	2022年10月28日（金）	オンライン講演会「落語家らむ音－日本語が苦手だったわたしの挑戦－」	講師：らむ音（落語家）
企画展示	2022年10月29日（土）～2023年2月12日（日）	雄飛ふたたび －沖縄移民の歴史とウチナーンチュの絆	



種別	開催日・開催期間	イベントタイトル	備考
座談会	2022年11月25日（金）	オンライン座談会 「パラグアイの日系社会を知るー現地の若手・ 中堅世代が語るイグアス移住地の姿ー」	後援：パラグアイ日本人会連合会 協力：イグアス日本人会、イグアス農協はじめ各関係団体 ファシリテーター：森栄梨子（NPO法人自然塾寺子屋 事務局長）岩谷寛（JICA横浜センター 専門嘱託） 登壇者：佐藤ナンシー明菜（イグアス聖霊幼稚園教員）工藤忠（イグアス日本人会） 大西ウィルソン秀次（スポーツ・文化施設経営）幸坂歩（株式会社ファーマーズ 主席研究員）クリスティアン・メルセデス・リカルド・フェルナンデス（イグアス市役所コミュニケーション部部長）リス・アントニエタ・ゴンザレス・デ・カワノ（イグアス市文化社会活動協議会会長）
公開講座	2022年12月10日（土）	TKY550 PIGS 世界に広がるウチナーンチュの絆	講師：志いさ～（うちなー噺家）
講演会	2023年3月17日（金）	オンライン講演会「大河川を流れる時と人： アマゾン日本人移民史への招待」	講師：ファクンド・ガラシーノ（JICA緒方貞子平和開発研究所研究員）

## 巻末 20年のできごと

年度	できごと
2002	移住者は「国際協力の先駆者」を基本理念に JICA 横浜 海外移住資料館がオープン
2003	梅棹忠夫博士を迎え開館一周年記念シンポジウム
2004	天皇后両陛下がご来館
2005	教育プログラム・移住資料デジタルネットワーク化プロジェクトの拡充
2006	学術研究プロジェクトが始動／パラグアイ移住 70 周年／秋篠宮殿下がご来館
2007	資料館公開講座を新たに実施
2008	ブラジル日本人移住 100 周年 年間を通じ両国で記念事業
2009	横浜港開港 150 周年／アマゾン日本人移住 90 周年／皇后陛下ご来館
2010	終戦 65 年で米日系人関連特別展
2011	東日本大震災に各地日系社会から大きな支援
2012	開館 10 周年の節目を迎えて
2013	沖縄移民展ほか、年 4 回多彩な特別展示を実施
2014	サッカー・ワールドカップ・ブラジル大会／ララ物資展・和歌山移民特別展他開催
2015	戦後 70 年／秋篠宮同妃両殿下ご来館／福岡移民展開催
2016	リオデジャネイロ五輪／二つのオリンピック展・広島移民展他開催
2017	メキシコ日本人移住 120 周年 記念展示・高知県移民展示を開催
2018	ハワイ元年者 150 周年 ブラジル移住 110 周年 両記念展示を開催
2019	ペルー・ボリビア移住 120 周年 記念展示を開催
2020	新型コロナ・パンデミックで臨時休館 オンラインイベント実施／熊本移民展開催
2021	東京五輪無観客開催・ミニ展示 日系人のレシピ展開催／リニューアル検討・工事開始
2022	リニューアルオープン／ジョージ・タケイ氏来館／沖縄移民展第 2 弾開催／秋篠宮皇嗣同妃両殿下、悠仁内親王殿下、上皇上皇后両陛下ご来館



JICA横浜 海外移住資料館常設展示室一部リニューアルでは、展示パネル原稿作成に際し下記の方々に多大なるご協力を頂戴し実現することができました。  
改めて感謝申し上げます。

※以下、敬称略

- 海外移住資料館 学術委員会  
飯野正子（委員長）、中牧弘允、森茂岳雄、柳田利夫、島田法子（～2020年度）
- リニューアルアドバイザー  
原山浩介、比嘉マルセーロ、アンジェロ・イシ、村川庸子
- 翻訳  
小澤智子（英語）、比嘉マルセーロ（スペイン語）、アンジェロ・イシ（ポルトガル語）

設計・施工：乃村工藝社・日展 設計・施工共同企業体  
事務局：JICA横浜、公益財団法人 海外日系人協会、公益社団法人 青年海外協力協会

なお、本誌記載の所属、役職名はすべて当時のものです。

独立行政法人国際協力機構横浜センター  
**海外移住資料館 開館20周年記念誌**  
**2013-2022年のあゆみ**

---

発行：独立行政法人国際協力機構横浜センター 海外移住資料館  
発行年月：2024年2月

問い合わせ先

JICA横浜 海外移住資料館  
〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港2-3-1  
Tel 045-663-3257 Fax 045-211-1781

URL : <https://www.jica.go.jp/domestic/jomm/index.html> E-mail : [jicayic\\_jomm\\_info@jica.go.jp](mailto:jicayic_jomm_info@jica.go.jp)

---



